

# さっぽろ夏まつり 50年

1954 - 2003

SAPPORO SUMMER FESTIVAL 50th Anniversary

さっぽろ夏まつり50年



# 群舞

1. 子供みこし (第3回)
2. 北海盆踊り (第50回)
3. 国際フェスティバル (第38回)
4. 北海盆踊り (第48回)
5. 北海盆踊り (第22回)
6. 札幌オリンピック音頭パレード (第18回)



1. 国際フェスティバル(第31回)
2. すずきのまつり(第46回)
3. 北海盆踊り(第24回)
4. 仮装コンクール(第42回)
5. ザ・パレード〜大群舞〜(第50回)
6. 北海盆踊り(第18回)
7. 北海盆踊り(第13回)





1. 女みこし (第3回)
2. 国際フェスティバル (第38回)
3. 狸まつり (第43回)
4. もいわ夏まつり (第41回)
5. かつばまつり (第46回)
6. 熱帯舞夏 (第39回)





# 御輿 太鼓



1. ふるさと芸能まつり(第32回)
2. すずきの祭り(第50回)
3. 国際フェスティバル(第38回)
4. 北海太鼓(第41回)
5. 手づくりみこし(第34回)
6. 狸まつり(第3回)



# 納涼ガーデン



1. 納涼ガーデン(第50回)
2. 納涼ガーデン(第50回)
3. 納涼ガーデン(第47回)
4. 納涼ガーデン(第23回)
5. 納涼ガーデン(第43回)
6. 納涼まつり(第17回)



# 仮装 コンクール



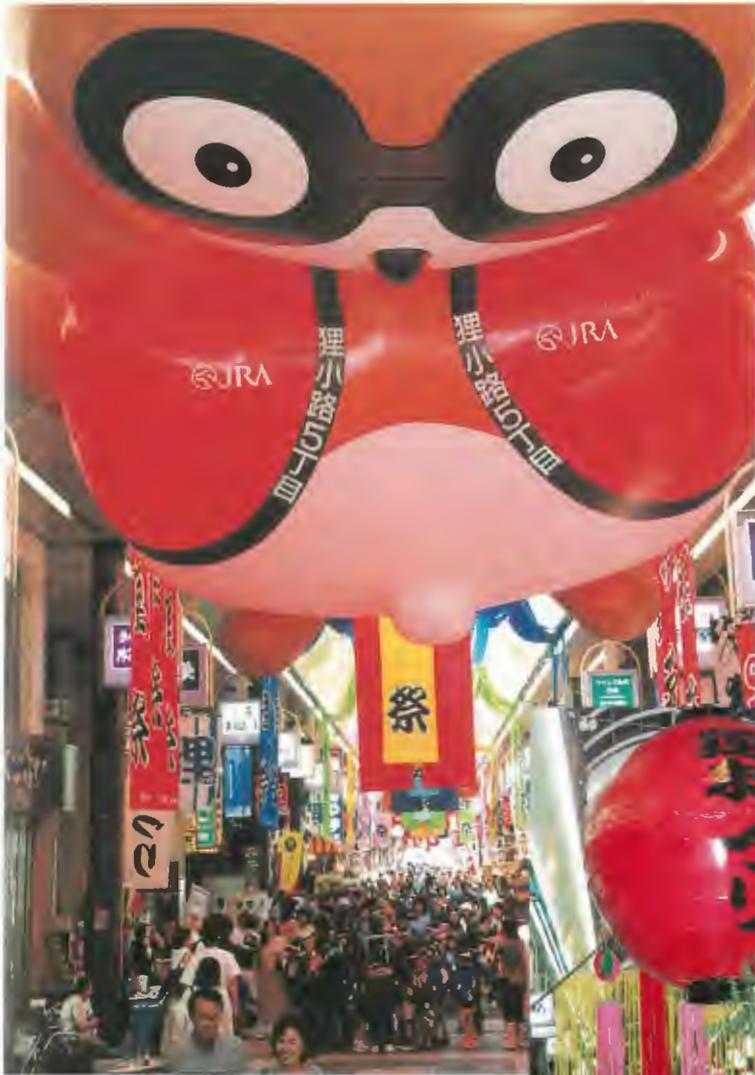
1. 仮装コンクール(第42回)
2. 仮装コンクール(第39回)
3. 仮装コンクール(第37回)
4. 仮装コンクール(第46回)
5. 仮装コンクール(第38回)
6. 仮装コンクール(第29回)
7. 仮装コンクール(第32回)
8. 仮装コンクール(第50回)
9. 仮装コンクール(第50回)



# すすきの祭り



1. すすきの祭り(第46回)
2. すすきの祭り(第46回)
3. すすきの祭り(第50回)
4. 花魁道中(第17回)
5. 花魁道中(第46回)
6. 花魁道中(第39回)
7. すすきの祭り(第31回)
8. 花魁道中(第48回)



1. 狸まつり (第48回)
2. 狸まつり (第35回)
3. 狸まつり (第26回)
4. 狸まつり (第38回)
5. 狸まつり (第3回)
6. 狸まつり (第26回)



# 狸まつり



定山溪

# かつばまつり



1. かつばまつり (第17回)
2. かつばまつり (第35回)
3. かつばまつり (第42回)
4. かつばまつり (第29回)
5. かつばまつり (第40回)
6. かつばまつり (第50回)





# さっぽろ バザール

1. さっぽろバザール (第41回)
2. さっぽろバザール (第50回)
3. さっぽろバザール (第30回)
4. さっぽろバザール (第31回)
5. 花火大会 (第48回)
6. 花火大会 (第50回)
7. 花火大会 (第3回)



# 花火





まつり  
いろいろ

パレード



1. もいわ夏まつり (第38回)
2. もなみ公園まつり (第34回)
3. ボート祭り (第3回)
4. サマージャンプ大会 (第39回)
5. 花のさっぽろ駅前まつり (第38回)
6. 前夜祭音楽市中行進 (第3回)
7. 夏まつりオープニング (第3回)
8. 国際フェスティバル (第19回)



# 発刊にあたって

札幌市長  
上田 文雄

さっぽろ夏まつり実行委員会 会長  
薩 一夫

## さっぽろ夏まつり五十年

札幌市長 上田 文雄



さっぽろ夏まつりが、ここに五十回の大きな節目を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

さっぽろ夏まつりは、夏の札幌の観光振興と、市民の健全なレクリエーションに資することを目的として実施されてまいりましたが、短い札幌の夏の風物詩として、広く市民や観光客の皆様に親しまれ、今では冬のさっぽろ雪まつりと並び札幌を代表するまつりにまで成長いたしました。これも、市民の皆様のご協力はもとより、関係各位のご尽力の賜物であると、改めて敬意を表すところであります。

札幌市は豊かな自然に恵まれた魅力あふれるまちです。このまちを舞台に繰り広げられるこのさっぽろ夏まつりを、市民や観光客の皆様がふれあう一助として、更に盛り上げ、活用することが集客交流都市を目指す札幌市にとって、この上ない財産となるのではないのでしょうか。

夏の札幌を代表するこのまつりが、より一層発展し、末長く市民や観光客の皆様に愛されるまつりでありますよう祈念して、さっぽろ夏まつり五十年に寄せての言葉とさせていただきます。

## さっぽろ夏まつり五十年に思う

さっぽろ夏まつり実行委員会 会長 薩 一夫



昭和二十九年に始まった「さっぽろ夏まつり」が、今年、五十回の節目の年を迎えることができましたのも、夏の風物詩を心待ちにして参加される市民や観光客、そして関係諸団体の皆様のご理解とご協力の賜物であり、改めて感謝を申し上げます。

また、このさっぽろ夏まつりが現在の形に至るまでには多くのご苦労があったと思いますが、これまでご尽力をいただいた先達の方には心から敬意を表します。

特に、都心を開放しての福祉協賛大通納涼ガーデンや北海盆踊りは、全国的に見ても類を見ない素晴らしい催し物でございます。

継続は力なりと言います。

五十回を新たなるスタートとして、さらに市民や観光客の皆さんに愛されるまつりでありますよう、これからも努力を続けていかなければなりません。

この記念誌は五十年という節目の年に当たり、その記念事業の一環として作成したもので、今後のさっぽろ夏まつりの発展に寄与でき得れば幸いです。



## さっぽろ夏まつり50年

---

### もくじ

写真でみるさっぽろ夏まつり .....	2
発刊にあたって .....	13
インタビュー .....	18
座談会 .....	20
50年のあゆみ .....	27
資料編 .....	61
年 譜 .....	108
編集後記 .....	115

---

# インタビュー・座談会

インタビュー 前札幌市長 桂 信雄氏 ……………18

座談会……………20

## アイデアを駆使してつくりあげてきた50年。 夏まつりのさらなる可能性にも期待します。

【お話を聞いた人】 前札幌市長 桂 信雄さん



— 本日は、お忙しいところありがとうございます。さっぽろ夏まつりは今年で50年を迎えますが、まずは何か思い出はありますか？

桂：そうですね。「さっぽろ夏まつり」と言われて印象にあるのは、大倉山シャンツエでの音楽祭でしょうか。今でこそPMF音楽祭など、野外で開催される音楽祭もありますが、始めた当時はまだこのような催しは多くなかったと思いますね。ですから札幌の大自然をバックにしながら音楽祭をするというアイデアは、なかなか素晴らしいと感心した思い出があります。音楽も素晴らしかったですし、良い思い出ですね。

— このまつりは札幌市がメインになって行っているわけですが、そのことについてご意見を聞かせていただきたいと思います。

桂：まつりが始まった昭和29年といえば、私が札幌市役所に入所した年です。当時の市役所は、配給業務が残っていたりで、戦後の混乱がまだ若干続いていた時期でした。そのような時からまつりのことを考えて、市民に喜ばれるまつりに成長させ、50年という長きにわたって継続してきたことは、関係者の方々の並々ならぬ努力が陰にあったであろうことは想像に難くありませんね。数多くの方々の力が結集して今日までの歴史と発展を築くことができたのであろうと推察し、あらためて半世紀を迎えるお祝いを申し上げたいと思います。しかしながら、まつりというのは地域の人々の自発的な取り組みで行われるのが本来で、行政はその思いや活動を側面からサポートするという形にしていくのが良い方向性だとは感じています。その点を踏まえ、これからの50年ではできるだけ市民の方々がリーダーシップを取れるような仕組みづくりを考えていくことも必要ではないかと感じて



います。行政が積極的に行うのは、別にまつりに対してということではありませんが、大通公園のインフラ整備などをしたりすることで、市民の方が動きやすい都市環境を整えるということも大切です。間接的になりますが、これもまつりをしやすくすることにつながっていくのではないのでしょうか。

——会場ともなる大通公園に対しての取り組みが必要だということでしょうか。

桂：私は市長を務めさせていただいていた時から、大通公園をもっと拡大させて、人中心の地域にするべきだとお話をしていました。

例えば、現在は大通公園は各丁目ごとに道路で寸断されていますが、これをつなげてしまい、もっと人々がゆったりと憩える都市公園にしていくということも考えてみるのも良いでしょう。

このような取り組みは実際に行ったことがあります。ブラックスライドマントラのある西8丁目と西9丁目間の道路を無くしました。車の交通が不便だとかの批判もありましたが、結局はほとんどの方には喜んでいただけたわけです。このように公園をつなげていくという取り組みは、今後の大通公園のあり方を考えるうえでも大切な視点だと思っています。

また東側は豊平川までつなげて大通公園と一帯となった環境づくりをすると、レクリエーションゾーンが有機的につながっていくと思います。

このように、大通公園がさらに高次に市民の方に利用していただくために、街の中で憩える公園環境を整えた都市づくりの考え方を取り入れていただきたいと思います。これによって、夏や冬のまつりも、もっと違った可能性や視点も生まれてくるのではないかと思います。

——いま夏まつりは50年という節目を迎え、今後どのようにまつりを運営していくべきかという分岐点にもさしかかっています。その点で、まつりを盛り上げる観客の動員について何かお考えはありますか？



桂：私はかねて集客交流都市という考え方でイベントを含めた札幌の観光をとらえるべきだと発言してきました。

集客交流都市というのは、訪れた人が市民との交流を持つことでアイデアや知恵を持ち込んでもらい、お互いに豊かになっていくという発想の都市づくりです。さっぽろ夏まつりでも、市民と観光客の方々による豊かな心の交流を今以上に持てるような工夫を催しの中に取り組んでみることも一つのアイデアであろうと思います。

——では最後に、夏まつり50年に対してお言葉をいただきたいと思います。

桂：人口180万人を擁する北の都・札幌市は、一年を通して活気あふれるさまざまな行事が催されている都市です。中でも盛夏の札幌を彩り、一ヵ月間という長期間にわたって行われる「さっぽろ夏まつり」は、市民はもちろんのこと、この街を訪れる観光客の方々にとっても楽しい行事となっています。

このさっぽろ夏まつりは、関係者を中心に札幌市民の方々が知恵と工夫で作りあげてきたものです。今後さらに夏まつりを継承し続けていただき、札幌市民の大切な歴史として育んでいくことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

——ありがとうございました。

(聞き手：実行委員会事務局)

# 夏まつりを舞台裏から支えて半世紀。 その歩みを振り返る。

日 時：2003年7月25日

会 場：札幌市役所15階

司 会：実行委員会事務局



元札幌市経済局観光部参事  
**梅田哲男**さん



前(社)札幌観光協会専務理事・事務局長  
**津田光夫**さん



元札幌市経済局観光部長  
**馬場和彦**さん

## 公園で行う夏まつり。その意味と意義

**司会：**本日はお忙しいところをご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今や札幌の夏の風物詩として、札幌市民の憩いの催しとしてなくてはならない行事として定着している「さっぽろ夏まつり」も、今年で50年を迎えることができました。これもひとえに関係者や諸先輩の方々の並々ならぬ努力の賜と感謝を申し上げます。

本日は、夏まつり30年記念誌を受けまして、さらに語るべき、そして記録しておくべき事柄を中心に、その軌跡をご紹介していただきたいと思っております。

まず最初に、それぞれの皆さまの夏まつりの思い出をご紹介いただきたいと思います。

**津田：**私は昭和43年4月から観光協会にきて、夏まつりの行事に携わってきました。その時の先輩の語り継ぎで、夏まつりも雪まつりも28（ニッパチ）の不景気対策でイベントをつくったんだということを教わりました。

そしてこの年にはもう雪まつりは、ある程度知名度をあげてきていました。でも、夏まつりに関しては、当時はまだ実行委員会もありませんし、観光課、商工会議所、商店街連合会、それから地元のマスコミ、そしてススキノや狸小路、定山溪などの地域がイベントやおまつりをバラバラに開催していました。それで観光課が、それぞれの行事をまとめて一つの大きな夏まつりとして育てようというのが当時の行政の考え方でした。

いずれにしてもこのまつりは神事ではありませんので、イベント名の「まつり」の部分はすべて平仮名にしようということになっていました。それから、札幌も観光サイドではすべて「さっぽろ」という平仮名になっていましたね。

**馬場：**私が観光課に来たのは昭和54年でした。

印象に残っていることとしては、当時大通には露店商がまだ大勢いて、その扱いに困っていたことです。最終的には観光協会が露店商を吸収し、観光協会としてトウモロコシなどを売り、それで



大通のイメージアップにつなげるという動きが、昭和55、56年頃にありました。これをやり遂げることができて、以来ずっと秩序だった形で今日に至っているということです。

このような一大転換期に私も少し携わったという思い出に残っていますね。

**梅田：**私の思い出は、横浜市役所から関係者が視察に来て、札幌は公園をメイン会場にしたおまつりが根づいているということで感心してくださったことですね。特に、当時公園で物販はできなかったの、なぜこれできたのか不思議がっていたんです。それで、札幌市は物販を許可するにしても、その目的を営利にせず、福祉協賛というかたちで運営したことが成功の要因だと申し上げた記憶があります。

横浜市は山下公園などでイベントをやりたかったようで、非常に参考になったと言っていました。そういう意味で考えても、札幌が大通公園でまつりを催したということは良かったのではないのでしょうか。大通りを宣伝する良い材料になったとも思います。

**津田：**ススキノで最初に飲食のワゴンを出したときには、さすがに参ったね。中央区役所では食中毒などが発生することを警戒して一切許可を出さないとわれ、それで中央警察署も並んだ。それでもねばり強く交渉して、判は押さないのだけれど、しぶしぶ書類は預かっておくということになった。返答を待っている間に時間切れになり当日になって結局やってしまった（笑）。だから本当は1回目の会期中は許可をもらってなかったんですよ。結局何事もなかったから良かったけど、あれだけは心細かった思い出があるね。

## 夏まつりとしての環境整備への取り組み

**司会：**環境整備にもかなり努力をされたようですが。どのようなご苦労がありましたか？

**津田：**やはり露店商問題ですね。

そもそも札幌市は過去に2回露店商問題に本格的に取り組んだことがありました。一度目は商工部が主管していて、露店商の方々を公園から排除するかわりに転業資金なども貸し出したりしました。ところが結果的には全部だまし討ちにあってしまって(笑)。貸付金は一切戻らず、しばらくするとまた別なかたちで露店が出てきたり、ススキノや二条市場の方で露店を開いたりしました。

この取り組みが失敗して、2回目が昭和55年ころの話ですね。この当時は、トウモロコシ、カキ氷、焼き芋などの露店が50軒以上は出ていたんじゃないでしょうか。

この時にいちばん問題になったのは、たとえば大阪から来た観光客などは言葉が違うのですぐ分かるわけです。そうすると一見の客なので高い値段で売りつけていたらしい。このような売り方をするので問題にもなっていたのです。

札幌市は一回目の失敗があったので、この時は一円も対策費を出してくれませんでした(笑)。でもそのほうが結果的にはきれいに処理できましたね。

**梅田：**トイレの問題にも取り組んだのではなかったらうか。

**馬場：**そうそう、トイレも大きな問題でしたね。期間中は移動トイレを設置しても、匂いが漏れていた。昔は、北大通西6丁目に下水を抜くパイプがあって汚水溝がありましたが、いつも途中のホー



スの継ぎ目などから汚水が漏れていた。それが翌日午前10時ころに陽が当たって、匂いが出てね(笑)。だから1週間に1回は雨が降らないと大変でしたね。

あとお客さんが移動トイレに並ぶのですが、人が多すぎて間に合わない。それで結局、当時近くに民家があったのですが、その家の垣根の陰で立ち小便をしたり、昭和ビルに入ってトイレをしたり。それで昭和ビルの1階にトイレが無くなってしまいました(笑)。

まあ、このようにいろいろありましたが、そうこうしている間に、市の公園課で公園の改造工事をやることになったので、その時に下水を北の方に抜くように各丁目に造ってもらった。これは半ば強引に議会を通してやってもらいました(笑)。でも結果的にとても役立ちました。もう現在の公営トイレができてからそういう苦情はまったくないと思います。

## 夏まつりの顔となりえているか？ 納涼ガーデンの舞台裏話

**司会：**さっぱり夏まつりは、これというメイン行事のないイベントだとも言われていますが、その中でやはり一番の定着度を誇っているのが「納涼ガーデン」だと思います。この催しについて、皆さんの記憶にある思い出をご披露いただきたいと思います。

**津田：**そもそも夏まつりとビールの始まりは、最初にバーテンダー協会が「お楽しみセール」ということでビールフェアを始めたことがきっかけだと思います。その時に彼らが持ってきたのがサッポロビールだったので、いつしかサッポロビールが納涼ガーデンの始まりということになっていったんです。

納涼ガーデン自体は、最初はサッポロビールとアサヒビールの2メーカーでスタートしましたが、若干アサヒさんのほうが早かったね。アサヒは当時、心の里親会と一緒に西6丁目で始めて、その後でサッポロビールが参入。でも両社の出店場所が落ち着くまでは大変な苦労がありました。どちらのメーカーさんも西6丁目でやりたいわけで、出店者会議でも決着がつかず、現場まで行っ



で話し合いをしたこともあります。で、結局サッポロさんは当時、福祉関係の団体と組んでいないということでアサヒさんが西6丁目で、サッポロさんは別な場所でやったといういきさつがありました。その後にキリンビールが来て、これで西6、7、8丁目を埋めたんです。また、その後にサントリービールが参入してきたので西5丁目に入れたという経緯ですね。

ビヤガーデンの運営にあたっては、公園の近くには繁華街ススキノがありますので、この業界からクレームのこない料金体系でやっています。つまり、安くもなく、高くもない料金設定ということです。ここいらはビールメーカーさんが、各社ススキノの飲食店に入っているから調節は容易だったと思います。ススキノも最初は反発がありましたが、結局は相乗効果で良かった。

**馬場：**その後、国際化というブームもあって、国際ビールを西10丁目でやろうという話を私が提案したんです。国際化に関しては通産省の提唱で、輸入品を促進しようという時期があったので、この企画を大変喜んでくれてね、通産省がテコ入れしてビールを集めてくれたんです。

当時は、中島公園でやれと責められていたんですけど、メーカーは設備や動員の関係で難色を示したという思い出もありますね。

それに国際ビールといっても核になるビールメーカーが存在するわけではないので、STVを呼んで来てタイアップしてもらい、どちらかというとSTV主導で、国際ビールが追随しているという設定で会場設営をしました。ここには2年くらいたったら人が流れてくれるようになりましたね。

**司会：**ステージや調理場が造られるようになった

経緯はどのようなものでしょうか？

**馬場：**最初にサッポロさんが、西8丁目に舞台を造らせてくれという話があり、それが最初です。今の舞台は当時の3分の1くらいになってこぢんまりとした雰囲気になりましたが、当時はとても大きな舞台でしたね。そのうち、各丁目でも何かイベントをやりたいということでお願いがあり、市役所も許可したんです。

**津田：**調理場は最初はテントでやっていました。当時は調理場の横にちょっとステンレスで囲ったくらいの、露店に毛の生えたくらいの施設でしたね。いまは壁とかが無いと保健所の規制も厳しくなっているようですが。

**梅田：**最初にキリンビールが少しテコ入れさせてほしいということで、今の赤いテントに骨を入れて補強して会場設営をしっかりとやった。それが見事だったので、他のメーカーも一斉にやりだしたということです。各社を導入したのはそういう意味で良い競争意識が出て、まつり気分もより一層高まったのではないのでしょうか。

**馬場：**国際ビールもホテルが経営しているから、きれいなんですよ。それとこれは余談ですが、最初はビールを運ぶウエートレスも、市役所など関係団体のスタッフの奥さんなどがボランティアでやってたんです。でも慣れてないこともあって、酔客の注文や要求にさっと応えられない。それで酔った客にいろいろ言われるわけですよ。そうすると、陰で泣いていた幹部の奥様もいたらしいですね(笑)。

結局これではどちらにもまずいということで、ビール会社と話し合い、里親会はチケットなどを売る側に回りアルバイトを入れるようになったんです。今となっては懐かしい思い出話ですね。



## 盆踊りと夏まつりの思い出

**司会：**盆踊りについては何か思い出やエピソードがありますでしょうか？

**馬場：**前半に納涼ガーデンがあって、後半は盆踊りですが、当時は西6丁目の会場一つでやっていました。でも徐々に人出が多くなり、1丁角だけではさばききれなくて、2丁角に広げることになったんですが、拡大するにも設備費がかかった。北大通、南大通もすべてストップして、そこで踊ってもらったんですが、それでも全部がつながって良かったと思います。

**津田：**それは、HBCが仕切り始めてからの話だね。それ以前は札幌市商店街振興組合連合会があってそこが仕切って、市内30カ所くらいで盆踊りを催していたんです。ところが時代とともにどんどん姿を消して行って、最後には2、3カ所くらいしか残っていませんでした。そこで中央でまとめて引き受けることになったという経緯もある。

でも中央大会だから仮装大会をやってくれたの、夜遅くまでやってくれたの、いろいろな要求があったり、景品や協賛金を集めるのが大変だったりで連合会が手を挙げてしまった。それで観光課に仕切りが返されてきた。だからやらないわけにいかないでしょ。

一度テレビがスポンサーを取って西7丁目か8丁目でやったことがあるんですが、長続きしなかった。それでHBCの当時の常務と話し合いをして、局側は広告規制をある程度緩和してほしいということになり、提灯、テレビスポット、うちわをセットにして330万円で売ったら結構スポンサーが付



いて資金ができた。それで観光課主催の、実施主体がHBCという盆踊りの基盤ができて、今日に至っているんです。

**司会：**なるほど。盆踊りの始まりにもいろいろな経緯があることが分りました。

**梅田：**それから、夏まつりといえば提灯による装飾ですが、昔は広告として名入れ提灯の契約をしてくれるスポンサーがいっぱいいたので、上期と下期に分けて、2回もらったもんですよ。前はあれで儲けていたんだよね。

それからだんだんとまつりも知られるようになってきて、観光客がどんどん来るようになってきたのも嬉しかったですね。

**馬場：**そうですね。国際的にもいろいろ展開していて、この時期に外国からの使節団などが訪れてくださる。その交流事業もまつりが舞台になっていました。ミュンヘンがそうでした。

**梅田：**それから盆踊りを輸出して、ミュンヘンやシドニーのオペラハウスの前で踊らせたりしていましたね。

**馬場：**交流事業で、国際部では海外に行ってやってくれというので、予算はないけど50名くらいの参加者を募集してみんなで行ったんです。

## 50年を迎えた夏まつりの今後のあり方

**司会：**夏まつりに関するいろいろな思い出を語っていただきましたが、ではこれからの夏まつりはどうあるべきか、諸先輩方々のご意見を伺いたいと思います。

**馬場：**まず、さっぼろ夏まつりのメインは何かというと、これというものがない。1カ月間のロング



ランの中でバラエティに富んだ内容が盛りだくさんというのがこのまつりの特長ですよね。一ヶ月もやっているおまつりはなかなかないですよ。何が目玉かと言われると困っちゃうけどね(笑)。ですからこのことをメリットとしてとらえて何かにつなげられないかと思えますね。

**津田：**やはり50年ではまだ歴史というには浅いという感じです。ですからこのまま頑張っていていくことが大事だと思います。

今は狸小路まつりも無くなってしまったし、定山溪も繁忙期で、仲居さんが浴衣を着て踊る余裕はありません。仕方がないからまつりに参加してはまずいと思います。自発的な参加を促せるように実行委員会がどう調整するかということではないでしょうか。

**馬場：**北海道の盆踊りは文化・芸術というより、気軽に参加できるように、時代ごとの参加者のニーズに合わせていくことが大事では。

観光という要素を持つことも大事です。観光のスタイルも参加型で、その中で盆踊りをどうするかなど、考えることが大事ですね。

夏まつりに一番足りないのはエネルギーです。理由は官主導だからです。よさこいは自分たちで作ったというエネルギーがあります。やはり若い人のエネルギーが大事です。

**梅田：**盆踊りをどうにか若い世代に伝えていけるような運営形態を考えることも大事ですね。

**馬場：**よさこいは結構良い運営をしていると思います。組織的には運営委員会が上にありますが、学生の最初のエネルギーを絶対につぶさないという意識があるので、実際の動きは学生中心の実行委員会に任せている。このような意味でどのような若者のエネルギーを取り込んでいくか、それが夏まつりの一つの検討課題でしょうね。

**梅田：**総体的には、これまでに大きな事故は無かったと思いますね。食中毒も無かったし。だからまずまずはうまくやってきたといえるのではないのでしょうか。

これからの夏まつりをどうするかということについては、どこかで若い人たちにお話をして、次世代につなげていかなければならないでしょうね。

**馬場：**いずれにせよ札幌の夏の顔として、これからも札幌の顔がここにありということを全国にアピールして行ってほしい。そのためには実行委員会の方々のご苦勞に敬意を表して、これからも頑張ってください。

**津田：**これまでご苦勞さまでした。また引き続き頑張ってください。

**司会：**今日はいろいろと貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。皆様方から受けましたお話を胸に、今後とも実行委員会として、より良いさっぽろ夏まつり運営に尽力していきたいと思えます。



さっぽろ夏まつり  
50年のあゆみ

第1章 [第1回～第10回] .....	28
第2章 [第11回～第20回] .....	35
第3章 [第21回～第30回] .....	42
第4章 [第31回～第40回] .....	49
第5章 [第41回～第50回] .....	56

## 終戦後のいたみから立ち上がり、 さっぽろを活気づかせる夏まつりが誕生

- 第1回／昭和29年（1954）7月17日～8月17日（32日間）
- 第2回／昭和30年（1955）8月4日～8月17日（14日間）
- 第3回／昭和31年（1956）8月4日～8月20日（17日間）
- 第4回／昭和32年（1957）8月7日～8月16日（10日間）
- 第5回／昭和33年（1958）8月7日～8月10日（4日間）
- 第6回／昭和34年（1959）8月1日～8月9日（9日間）
- 第7回／昭和35年（1960）8月1日～8月8日（8日間）
- 第8回／昭和36年（1961）8月1日～8月8日（8日間）
- 第9回／昭和37年（1962）8月4日～8月13日（10日間）
- 第10回／昭和38年（1963）8月3日～8月17日（15日間）



▲第3回夏まつり御輿風景

まつりに商工振興の色合いを加味

### 第6回から『さっぽろ商工夏まつり』に 商工振興を前面に出しての取り組みを推進

第2次世界大戦が終結したあとの札幌は、国内のほとんどの地域同様、戦後の食糧不足などに悩み、栄養失調などによる市民の死亡率が急激に増加するという悲惨な状況にあった。

このような状況にあって札幌市の対応も市民の生活防衛対策に追われている状態であった。

昭和20年（1945）、経済課に第一から第三までの配給係が置かれ、翌年には部制がしかれ、経済部となった中に産業課・食糧課・物資課が設けられた。

組織機構の中で、食糧の配給事務は食糧課主食係・副食係が行い、その他の物資配給事務は物資課燃料係・一般物資係、そして一般商工行政は産業課商工係で行った。

この組織表の中にはまだ、日常生活に関わらない『観光係』が盛り込まれることはなかった。唯一観光対策を行っていた札幌観光協会もまた、千円の助成金で細々と運営されていたのみであった。

札幌市の観光施策が大きな変化を見せ初めたのは、札幌市創建80周年、自治制施行50周年を迎えた昭和24年（1949）ころからだ。

同年には札幌市の臨時振興専門委員会による観光分科会が開催され、翌昭和25年（1950）には経済部に振興課を設置。臨時振興専門委員会の答申に基づく市産業の振興を積極的に企画実施することになった。

また同時に、同委員会の意見によって『観光係』が置かれ、これまで観光協会に任せていた観光施策を、観光産業という新しい理念に基づいて強力で推進することになった。

この年、昭和11年（1936）に発足し、戦中には縮小の一途をたどっていた札幌観光協会も事実上再発足し、駅案内所業務を再開している。

このような背景の下で、第1回の『さっぽろ雪まつり』が開催され、夏には、戦中戦後と芋畑がつくられていた大通公園にも花壇が造成されることになり、札幌市の本格的な観光都市としての再生がスタートした。

夏まつりの誕生

冬は『さっぽろ雪まつり』、夏は『さっぽろ夏まつり』  
二大イベントを育てて札幌の年中行事に

昭和25年(1950)に、『さっぽろ雪まつり』が創設され、年を追うごとに成長。冬の札幌の名物まつりとして市民や観光客にも大いに喜ばれ、札幌観光のメイン行事として脚光を浴び始めた。これを契機に、夏の観光対策を模索していた札幌市や札幌観光協会などの関係者が主体となって、本格的に夏まつりをつくることにした。

こうして『第1回さっぽろ夏まつり』が行われたのは、昭和29年(1954)のことである。札幌市の人口はおよそ38万人を数え、全国10大都市の仲間入りをした年でもあった。

しかしながら同市や同協会は、第1回の夏まつりの時点ではまだ、各種の催しものを企画して実施する「主催者」としての役割を果たしてはいなかったと推測できる。というのも、この時のまつりの内容が、それまで札幌市内の各団体や各地域が各自で趣向をこらし、独自に実施してきた夏の行事や催しものが例年と同じように行われていただけで、それらを一つに統括して『さっぽろ夏まつり』という総称を冠しただけだったからだ。

さっぽろ夏まつりの誕生の目的は、初回開催の趣意書や実施要領などがすでに紛失していることから、その趣旨を確実に記することはできないが、夏まつりを、すでに恒例となった雪まつりとタイアップするかたちで、札幌の年中行事の一つにしようとする札幌観光協会の取り組みが、同年7月18日付けの北海道新聞でも伝えられている。このことから、観光事業の振興が夏まつり開催の主な目的であったと推測できる。

これと同時に、商工業振興の期待を背負って開催されたという説も有力である。冬の2月と夏の8月の不況期を乗り越える、いわゆる“二八対策”の一環として行われたというのだ。この点については、札幌市でこのまつりを担当していたのが経済部振興課であったということが、この説を裏付けている。

事実、夏まつりが第6回を数える頃には、名称も『さっぽろ夏まつり』から『さっぽろ商工夏まつり』と改称し、催しものも商工業振興の色合いの強い企画を積極的に取り上げ始めている。

札幌夏まつりは十七日のパレード、中央遊戯場、舞踊二千四百、中島公園(明治一)二十五日、中島公園(六次多々次バンド)二十四、五、スノーシーズン、ほまつりを札幌の年中行事の二つに定めて(二十四日、二十六日)と宣言、市民の参加を奨励している。まつりの行事つき

中島公園(スノーシーズン)	八月二日、スポーツセンター

札幌夏まつりは十七日のパレード、中央遊戯場、舞踊二千四百、中島公園(明治一)二十五日、中島公園(六次多々次バンド)二十四、五、スノーシーズン、ほまつりを札幌の年中行事の二つに定めて(二十四日、二十六日)と宣言、市民の参加を奨励している。まつりの行事つき

札幌夏まつり幕開く  
一カ月多彩な催し

これからは年中行事に



▲第1回夏まつりの開催を伝える北海道新聞記事(昭和29年(1954)7月18日)

り』と改称し、催しものも商工業振興の色合いの強い企画を積極的に取り上げ始めている。

いずれにしても、さっぽろ夏まつりの誕生にあたっては、雪まつりと合わせて札幌の二大イベントに育て上げようとした、さまざまな人びとの期待と希望が込められていたことだけは事実であろう。

## メイン会場が中島公園から大通公園へ

第1回さっぽろ夏まつりは、行楽を除く催し物のほとんどが中島公園をメイン会場として行われていた。

現在のメイン会場となっている大通公園に、特設ステージなどはまったく見られず、この状態は第3回まで続いた。メイン会場が全面的に大通公園に移行していったのは第4回開催の昭和32年（1957）になってからである。

大通公園は、札幌市が昭和25年（1950）から5年計画で復旧に着手し、花壇造成などを行うことで戦中の芋畑耕作による荒廃から都市公園としての機能が徐々に復活。かつての美観を完全に取り戻したのが昭和30年（1955）前後である。大通公園の整備の完了によって、都心から離れた中島公園でメイン行事を開催するよりも、交通の便がよい大通公園で開催するほうが市民や観光客にとって便利であり、また夏まつりの全市的な盛り上がりや経済面の活性化に益するところが大きいと判断された。

ちなみに、第4回開催の昭和32年（1957）には、大通公園1丁目に全長147.2m、地上90mに大展望台を持つ札幌テレビ塔が完成し、夏まつりの彩りに華を添えた。



▲第1回夏まつりのポスター

## 第1回は22行事で開催し、第2回からは狸まつりも参加

第1回のさっぽろ夏まつりは、17日に行われた市中パレードを皮切りに、およそ1ヵ月間にわたって22もの行事が催された。

その内容は、夏まつりパレード（市内行進）、ボート祭り（中島公園）、全国花火大会（豊平川河畔）、子供相撲大会（中島児童公園）、海水浴（オタネ浜）、宮城道雄演奏会（中央創成小学校）、納涼バス（茨戸）、第1回夏まつり懸賞写真募集（市内各催し物会場）、ビールの王様コンクール（狸小路ビヤホール）、ほたる狩り（円山公園）、六大学ジャズバンド（中島球場）、舞踊（中島児童公園）、明治デー（中島児童公園）、ページェント（中島スポーツセンター）、三つの歌（中島児童公園）、漫才、浪曲、民謡など（中島児童公園）、七夕祭り（中島公園）、森永デー（中島児童公園）、バンビデー（中島児童公園）、盆踊り（中島公園）、納涼電車（定山溪）、遊覧飛行（市内および郊外）となっている。

翌昭和30年（1955）に開催された第2回では、前年に始まっていた『狸まつり』が参加することになり、装飾コンクール、狸みこし、狸太鼓などを目玉に、夏まつり発展の力強い推進力として期待を集めた。

『狸まつり』は、昭和29年（1954）、夏まつりと同時期にスタートし、従来の売り込み商戦とは一線を画した形で催された。日頃商店街を利用していただいているお客様や商店街のシンボルともなっている狸に感謝することを目的に、商店街が一丸となって取り組み、狸小路1丁目に設けられた特設舞台では、神官を呼んで「狸供養」なども行われた。

第3回は、新たに灯籠流しや、人気タレントも来札して華を添えたことで、まつりの様子がテレビで全国中継された。

第4回は、時代風俗行列や郷土芸能大会なども加わり賑やかなまつりとなったが、この回から徐々に開催日数が減り始め、翌年の第5回ではわずか4日間のみで開催となった。これは、ボートまつりや海水浴のような行事を外したという理由のほか

に、大通公園の規制や商店街の都合によるものであった。しかし、開催期間を8月に集中させたことでかえって人気が高まり、期間中の人出も倍増した。

#### ビヤガーデンの誕生

### あらたに納涼ビヤガーデンが登場 紆余曲折を経て福祉を目的に実現化

第6回からは、今日のまつりのメインイベントの一つともなっている『納涼ビヤガーデン』が初めて行われた。しかし、このビヤガーデンの開催までにはいくつもの問題をクリアしなければならなかった。

第一に、大通公園は公園風致条例で厳しく規制されている公共地であり、公園内での商行為、営利行為は許されないという原則があった。しかも販売するのが酒類ということで、収益の一部を福祉団体に寄付する福祉目的だったとしても、そうすんなりと承認されるものではなかったのである。公園内での営業許可をめぐる根気強く交渉が繰り返されたのではないだろうか。

第二に、ビールメーカーとの折衝であった。商戦の激しいメーカー間の思惑や消費量の予測の不

確かさなども手伝って、交渉は難航した。

その他に、「酒は陽気に飲むもので、しめっぽい福祉の酒では商売にならない」「伝統的にビールを愛飲するドイツと札幌では風土が違う。ビヤガーデンは日本人になじまない」という批判の声も聞かれたという。

このような問題や批判の声を受けつつも、主催者の福祉活動に向けた積極的な取り組みと、福祉関係者らの参加が功を奏し、初めてのビヤガーデンが開かれるに至ったのであった。



#### ●物議をかもした最初のビヤガーデン

ビヤガーデンがさっぽろ夏まつりに登場した第6回の様子が、ビヤガーデンを催すことになった背景とともに『さっぽろ夏まつり三十年』誌の座談会に載っていたので紹介しよう。

夏まつりは「祭り」なのだから「御神酒」が必要だということで、サッポロビールに協力をあおいで、ビヤホールを実施することになった。そして「くじらの森」と呼ばれていた大通6丁目にテントを2張設営し、そこを会場にしてビヤガーデンが開店した。

ところが、どうせ飲むなら楽しくやろうということで、ススキノのスナックやクラブなどに

声をかけ、ホステスさんたちにバンケットを頼んでしまったことから大いに物議をかもしてしまった。当時の公園係から関係者にむけて、厳しい叱責があったという苦い思い出もあったようだ。

よきにつけあしきにつけ、この騒動がビヤガーデンや夏まつりの存在を内外に印象づける結果となったようだ。

この出来事は、昼間から酒を飲むのは男性という風潮が主流だった時代だからこそ考えついた発想であり、50年たった現在では考えもつかないことだけに、逆に時代ののどかさが伝わってくるエピソードである。

まつりに商工振興の色合いを加味

## 第6回から『さっぽろ商工夏まつり』に 商工振興を前面に出しての取り組みを推進

夏まつりは、第6回から名称が『さっぽろ商工夏まつり』に変わり、この名称で第10回まで開催された。

改称の狙いは、これまで定着してきた夏まつりを基盤に、1) 夏季における小売り商店街などの販売増進 2) 夏の札幌の観光をさらに売り込む、などとして、市内商工業の発展と、この夏まつりを全国規模の行事に成長させることを目的としたものであった。

名称の変更と同時に、催しの内容にも工夫が見られた。例えば、会期中に行われた「毎日お楽しみセール」では、ビヤガーデン、バーゲンセールなども行われ、市民に喜ばれて大いににぎわったという。

また『ライラックまつり』が行われたのも、昭和34年（1959）の第6回が最初であった。この時には、「ライラックの歌」の発表や、高見順、小林秀雄といった文豪らの文化講演会なども開かれている。

商工業振興の色合いが強いまつりの名称変更だったが、文化的な内容の催しなども積極的に取り入れており、一概に商売色が強くなったとは言いきれない。現代から見ると、まつりの内容がバラエティ豊かになったという印象が強く、第6回から昭和38年（1963）の第10回までに、今日の夏まつりの基盤をしっかりとつくり上げた時期ではないだろうか。

その他の夏まつりトピックス

## イベント色も徐々に増してきた第7回 第10回には郷土色を意識した各種盆踊り大会も

昭和35年（1960）に開催された第7回の夏まつりでは、大通の会場に80個の提灯が灯をともし、7丁目には植木市や金魚すくいの店も出てにぎわった。

また、8丁目の特設舞台では放送芸能大会が行われ、その模様は当時まだ珍しかったカラーテレビで放送されて人気となった。

第8回では、提灯の数も200個以上に増え、大通公園でバラエティー演芸大会やギター演奏などが披露されたり、ビヤガーデン、アイスクリームガーデンなども相変わらずの人気であった。

昭和37年（1962）に開催された第9回では、開催期間が2日伸びて10日間開催された。

催しものとしては、爆笑バラエティーショーなども開催されて、このあたりからイベント色も徐々に強くなっていくことになる。

そして第10回目では、より華やかさを増し、主催している札幌市や商工会議所、商店街振興連などは、前年より20万円多い100万円の予算を計上するほどまでになった。

会期も10日間から15日間に伸び、およそ1,300個もの提灯が飾られた大通8丁目を中心会場にして、盛りたくさんの行事が繰り広げられた。

また、これまで「郷土色が生かされていない」との批判もあったことから、会期後半で各種の盆踊り大会を催し、大人から子どもまで楽しめる内容を盛り込んだのが特徴である。



▲風船や花輪で飾られたパレード車



▲8回夏まつり盆踊りの様子

## 後世に受け継がれる夏まつりの発展を祈念して

札幌商工会議所 会頭 西尾 長光



昭和29年から始まったさっぽろ夏まつりも50回を数えることになりました。

札幌商工会議所も主催者の一員として当初より夏まつりの運営に深く関わってまいりましたが、昭和50年代後半から、札幌に新しいまつりを提案していこうという機運が盛り上がり、さっぽろ夏まつりに連動するかたちで、昭和59年の第31回夏まつりに合わせ、第1回北方圏さっぽろ国際フェスティバルを開催しました。

初めての試みである大倉山ジャンプ競技場でのサマーコンサート、札幌駅前通りを遮断してのカーニバルパレード、夏まつり納涼ガーデンに初めて登場した世界のビールまつりなど、北国の夏を盛り上げる新しい試みとして、多くの市民、観光客に楽しみを提供しました。

全体の事業は3年間実施され、その後も単独で開催可能なものについては夏まつりに組み込まれる形で継続して実施されています。

大倉山のコンサートは夏の野外イベントとして定着し、改修工事のための中断を挟み平成13年まで続きました。カーニバルはその姿を盆踊りに変え、大群舞として現在に引き継がれています。勿論世界のビールも大通西10丁目で現在まで引き継がれ、納涼ガーデンに彩りを添えて



▲第50回大通納涼ガーデンにて。巨大なジョッキがひととき目立った

いることは周知のとおりであります。

このように、さっぽろ夏まつりは様々な手法を加えながら札幌の夏を代表するイベントとしてしっかりと市民に定着し、親しまれ受け継がれている事を、我々主催者を構成するものとして誇りに思っているところでもあります。

さて、現在我々を取り巻く経済環境は厳しい状況が続き、不況感漂う世情となつてはおりますが、このような時こそ、それを打破するエネルギーの結集が必要とされており、北国の短い夏を謳歌するこのさっぽろ夏まつりが益々発展し、夏の一大イベントとして長く親しまれていくことは大変重要なことであると考えております。

50年という節目を迎え、市民、観光客に親しまれているこのまつりを、我々としても今後益々発展させ、後世に受け継いでいく事が主催者の一員としての商工会議所の責務であることを肝に銘じ、努力して参りたいと考えておりますので、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



▲第24回会場全景。提灯の灯りがメイン装飾だ

## 盆踊り・仮装コンクールから参加した 夏まつりの思い出

札幌市女性団体連絡協議会会長 中易 愛子



このたび歴史ある夏まつりが「さっぽろ夏まつり50回記念誌」として冊行されますことを心からお祝い申し上げます。

札幌市女性団体連絡協議会が結成されたのが、昭和29年でしたから1年違いくらいの歴史を重ねたこととなります。

かえりみますと当時の札幌市の人口は40万人たらずで、戦後の混乱からようやく立直ろうとするころと思います。

そのころの夏まつりのことは全く覚えておりませんが、札女連が関わって来たのは大通西8丁目で行われる盆踊りと仮装コンクールで、故・上田叔子会長のころだったと思います。

約30年くらい前のことでしょうか盆踊りの輪ができるまでの呼び水的役割として、当時は1晩100人を目標に動員し、8月13日から20日までの8日間とコンクールの先頭を踊る人も入れると期間中1000人を動員していました。

なかなか日程の調整が難しく、13日は各家庭の墓参りが多く、15日、16日は地域での盆踊りがあってそちらでの参加が多く、5月頃から申込みを受付けていますがどうしても17日、18日に集中いたします。

せっかく申込んでも満員となるとまた団体に帰って会員と相談して日程変更ということになり、役員が団体で穴を埋めるという無理をかけております。

各団体もそのために浴衣やハッピーをお揃いで新調したりして張切って出向いても、小雨ですっかり情けない姿になったり、雨降りでも晴れる事を期待して集まって来ても結局流会という残念なこともありました。

また櫓の上で踊っていると何となく誇らしく、それが楽しみで毎年参加していますという方もいます。

10年くらい前までは加盟団体の中からも数多くコンクールに参加して、賞を頂いたこともありましたが、熱響舞夏やよさこいソーラン祭りが盛んになったころから沙汰止みになっています。

現在では女性団体も高齢化が進み、若い会員は働く婦人が多く動員もなかなか難しくなっておりますが、市民が楽しみにしている夏まつりですので何とか協力をお願いしております。

子供盆踊りが分らない団体には教えに行ったり、HBCの社員がコンクールの前踊りに参加されるとの事でその方々に踊りの講習をしたりもいたしました。

外国人の方等も子供連れで楽しんでいられるのも見受けませんが、大通という街中の集り易い場所での夏まつりは札幌の自慢の一つと思いません。

大通納涼ガーデンも好評ですし、さっぽろバザールを始め、狸まつり、定山溪かっぱまつり、すすきの祭り等、多彩な行事が益々盛んになり、市民のいやしのまつりとなりますように願って、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 夏まつりの基盤をつくり、さらに飛躍を遂げた時代

- 第11回／昭和39年（1964）8月7日～8月12日（6日間）
- 第12回／昭和40年（1965）8月6日～8月12日（7日間）
- 第13回／昭和41年（1966）8月6日～8月12日（7日間）
- 第14回／昭和42年（1967）8月5日～8月12日（8日間）
- 第15回／昭和43年（1968）8月3日～8月20日（18日間）
- 第16回／昭和44年（1969）8月2日～8月20日（19日間）
- 第17回／昭和45年（1970）8月1日～8月20日（20日間）
- 第18回／昭和46年（1971）8月1日～8月20日（20日間）
- 第19回／昭和47年（1972）7月29日～8月20日（23日間）
- 第20回／昭和48年（1973）8月4日～8月20日（17日間）



▲第16回「心の里親会ピヤガーデン」

### 夏まつりの名称変更へ

#### 名称変更で『さっぽろ夏まつり』へよりシンプルで効果的な浸透力を狙う

第1回のさっぽろ夏まつりが開催されて以降、まつりは札幌市民はもとより道内外から訪れる観光客にとっても楽しみな行事の一つとして成長し、10年がたった。

第11回のさっぽろ夏まつりが開催された昭和39年（1964）は、94カ国が参加した東京オリンピックが開かれた年でもあり、これに合わせたテレビの普及なども手伝い、明るい話題が続いた年であった。

まつりの名称は、第6回から『さっぽろ商工夏まつり』になっていたが、この年になってもとの『さっぽろ夏まつり』に名称が戻されることになった。

その理由として、市勢の伸展とともに、このころすでに冬の雪まつりと肩を並べるくらいの、全市的なまつりに成長したことで、ことさら商工業振興の趣旨を印象づける必要がなくなったこと。市民にもっと参加してほしいという思いや、道内外に対するPRの面からも、シンプルで分かりやす

いネーミングのほうが効果的と考えられたからである。

以降、このまつりの名称は今日に至るまで『さっぽろ夏まつり』として定着している。



▲第17回盆踊り風景

## 夏まつり大型化への契機ともなる時期 交通規制で行政との間であつれきも

まつりの名称を変更した翌年の昭和40年（1965）には、夏まつりの機運をさらに高め、雪まつりと並ぶ札幌の名物まつりとして存在させるために、これまでの北海盆踊りや狸まつりに加えて、新しく『すすきの祭り』と『定山溪かっぱまつり』も加わることになった。これによって夏まつりはいよいよ大型化の様相を呈しはじめた。

まつりの大型化に伴い、問題も浮上してきた。夏まつりがいよいよ市民や観光客の間に定着してきたことに加え、日本経済の発展期とも重って札幌市の人口が増えてきたことで、華々しいパレードを一つするにも交通規制などの問題が出始めたのである。

まつりは厳しい交通規制などを受け始め、しばしばパレードの中断や縮小なども余儀なくされた。これによって、まつりを長期間にわたって続けていくということが現実的に難しい状態になったのである。

この問題は、群舞や野外特設ステージなどにも



▲第17回「すすきのまつり」でのおいらん道中

関連してきていた。新しい企画やデモンストレーションなども、すぐさま規制による拘束を受けた。パレードなどでも、当時は警官がピッタリとつきっきりで規制を行ったため、行進が中断したり停滞したりして、盛り上がりを欠いた原因にもなったという。

またすすきの祭りの開催にあたっては、特設ステージの設営が規則に少しはみでただけで作り替えを指示され、大いに閉口したという当時の関係者のエピソードが夏まつり三十年誌に載っている。

人間同士が裸になってふれあうことのできるまつりの場に、規制を導入しなければならず、当時のまつりの運営に与える影響も多大なものであったことがしのばれる。



▲第13回盆踊り風景

### 新しいまつりの誕生

## 『すすきの祭り』の誕生で賑わいに華さっぽろ夏まつり大型化の契機にも

東京以北最大の歓楽街といわれるススキノに『すすきの祭り』が誕生し、昭和40年（1965）に開催された第12回さっぽろ夏まつりから参加することになった。このすすきの祭りの参加によって、さっぽろ夏まつりは、まつりの大型化へと向かった。

しかし、すすきの祭りの誕生までには、納涼ガーデンと同様に、さまざまな問題をクリアする必要があったようだ。

第一に、当の飲食店関係者からの意外な拒絶反応の多さであった。というのも、この時代はまだ



▲第17回「すすきの祭り」でのおいらん道中

飲食店関係者の間では、“まつり”を敬遠する風潮があった。まつりの日は客が外に出てしまい、店に閑古鳥が鳴くというジンクスがあったからだ。

今日では、イベントの開催によって集客を狙うという考えが一般的なだけに、この時代を感じるエピソードの一つであろう。

また、ススキノが全国有数の飲食店街ということで業態別の組合や会などはあったが、お互いのつながりが稀薄であり、連携を望むのが難しいとも考えられていたこと。さらに経営者の交代が頻繁にあることから、地域が連帯して事業活動を行うという取り組みに馴染まないのではないかとも言われていた。

このような問題を抱えつつも、すすきの祭りを運営する関係者の不断の決意と努力によって、地域の一体化、連帯感を強める契機ともなるまつりが形づくられていった。

今日では、夏まつりのメイン行事の一つにも成長した『すすきの祭り』だが、誕生までにはさまざまな苦勞があったのである。

難問をクリアしながら行われたまつりだったが、フタをあけてみると好評のうちに終了。翌昭和41年（1966）に行うまつりの実施要綱には、その趣旨を「ススキノ地区の町内会、商店街、飲料店が一丸となり、夏の行事として恒例的に「すすきの祭り」を開催し、ススキノを広く全国にPRすること。札幌市民はもちろん、来札する観光客の集いの場として、ススキノ地区が飛躍的な発展をすることを目的とする」として、まつりを積極的に行っていく心意気も感じられる。

この時のまつりは『ロックンロール！こんにちは』という、いかにもススキノらしい陽気なテーマが設定されている。

#### 新しいまつりの誕生

### 『定山溪かっぱまつり』も加わり会場も広域に大通公園でのPR行事も話題に

すすきの祭りに加えて、昭和40年（1965）に開催された第12回さっぽろ夏まつりに参加することになったもう一つのおまつりが、同年誕生した『定山溪かっぱまつり』である。

定山溪温泉は、札幌の奥座敷として長い間人びとに憩いと癒しの場を提供してきたが、この時期に至って札幌市内のホテル進出や大型化の余波と、レクリエーションの質的变化に伴い、徐々に集客に陰りが見え始めていた時期であった。この状況を打破するために、まつりを誕生させて、集客にひと役買ってもらうというものだった。

#### かっぱ踊りを披露

### 定山溪温泉のキャラバン

「定山溪かっぱまつり」初年度となったこの年は、6日から開幕する前日に、まつりをPRするためのさまざまなイベントが、大通りの夏まつり会場で繰り広げられた。

まず人目をひいたのが、定山溪を象徴するカッパをテーマにつくられた「かっぱ踊り」であった。有名な作曲家でもある、いずみ・たく氏によって

作られたオリジナルの「かっぱ音頭」に合わせて、定山溪温泉に勤める仲居さんや芸者さんたちおよそ100名が華やかに踊りを初披露した。

女性たちは「かっぱまつり」と染め抜かれたお揃いのゆかたを着て、頭にはカッパのイメージに合わせたお皿ハットが。歌詞がおどけているせいか、踊りのフリもなかなかユニークで、陽気な音頭が大通公園に鳴り響いた。

「定山溪かっぱまつり」キャラバン隊が踊り始めたのはちょうどお昼頃だったこともあり、周囲のオフィスビルなどから出てきたサラリーマンやOLも、道行く市民や観光客に混じって踊りの輪を見守っていた。

翌日の6日からの定山溪でのまつりでは、大通公園で披露された、かっぱまつり大群舞のほかに、当時流行っていたゴーゴー大会、かっぱ天国の開放、青空市場、豊平峡マラソン大会、オリエンテーリングなどが催され、観光客や大勢の参加者が、華やかで陽気な定山溪温泉のまつりのひとときを楽しんだ。

#### 夏まつりの顔づくり

### 『北海盆踊り』を夏まつりの顔に 商店街が中心となって取り組み

夏まつりに欠かすことのできない盆踊りは、日本人の郷愁をかきたてる郷土色豊かな無形の文化財の一つであろう。その盆踊りが夏まつりに本格



▲第13回「かっぱまつり」での踊り子たちのパレード



▲第18回盆踊り風景

的に加えられたのは、郷土色を求められた第10回からである。

そして今日では、夏まつりの盆踊りを代表する『北海盆踊り』もまた、このころに本格的に定着している。

その始まりは、昭和41年（1966）に開かれた札幌観光協会の総会で、当時の舟橋要会長から提案されたのがきっかけであった。

そのころは、各地域で盛んに盆踊りが行われていたが、主催の新聞社が豊平川河畔で行われていた盆踊りを辞めてしまったため、この盆踊りを復活させて夏まつりの目玉にしようとしたのである。

開催にあたっては、地域商店街の了解を得たり、賞品集めに奔走したりと、苦労はあったようだが、中でも大変だったのが盆踊りコンクールの審査員選びだったという。

踊りの世界には多くの会派があり、それぞれからいろいろな注文が出され、公正で妥当な顔ぶれを揃えるのに大変な苦労がいったという。このほか、会場設営に関する規制などの苦労も経て、北海盆踊りは夏まつりの顔として定着していった。

北海盆踊りが夏まつりの行事として登場するのは、昭和39年（1964）の第11回の『北海盆踊り大会』からであるが、昭和41年（1966）以降の第13回か第14回からが、今日のようなコンクールの要素も加わった北海盆踊りのイベント形式として形成されたようである。

夏まつりトピックス・アラカルト

## 姉妹都市からも関係者を招待 国際色豊かな夏まつりに成長

昭和41年（1966）に行われた第13回の夏まつりでは、すすきの祭りに、日劇ミュージックホールの踊りや当時人気の歌手などを呼んだことで、夜のススキノは大勢の見物客でごったがえし、ショーが終わるまで通行禁止となるほどの賑わいをみせた。

第14回では、前年まで行われていたエルムカーニバルが交通規制の関係から関係機関の賛同を得られず中止となった。

第15回が行われた昭和43年（1968）は、札幌市創建百年を迎えたことから開催期間も18日間と長くなり、大きな賑わいをみせた。

第16回ではさらに開催期間が1日伸び、19日間の中で、パレードや納涼まつりなど、さまざまな趣向を凝らした催しが行われた。

第17回の昭和45年（1970）は、ススキノに繁華街ができてから百年という節目を迎え、すすきの祭りを中心にさまざまな催しが行われた。

第18回は、翌年にオリンピックを控えていたことから、オリンピック音頭パレードなどが新たに



▲第19回パレード風景。ポートランド市からバラの女王も参加

行われ、夏まつりムードの盛り上げに一役買っていた。

昭和47年（1972）に行われた第19回では、姉妹都市のアメリカ・ポートランド市からバラの女王が来札し、ミスさっぽろとともにパレードに華やかさを添えていた。

そして第20回は、日本に乗り入れている国際線や国内線の客室乗務員らをはじめ、クイーン神戸なども招いて夏まつりを盛り上げた。

### ●北海道知事と札幌市長も参加して、踊りながら札幌オリンピックをPR

北海盆踊りがさっぽろ夏まつりの顔として定着しつつあった昭和44年（1969）の第16回と45年（1970）の第17回の北海盆踊りの時に、当時の北海道知事と札幌市長が浴衣姿で盆踊りの輪に加わった。

これは、昭和47年（1972）に開催された第11回冬季オリンピック札幌大会をPRし、歓迎ムードを盛り上げるために行われたものである。

知事や市長は、各地区で催された盆踊りにも参加して、積極的に札幌オリンピックのPRをしてまわった。



▲第18回「札幌オリンピック音頭」パレード風景

## 盆踊りがつづる思い出

札幌民謡連盟会長 佐藤 幸一



「さっぽろ夏まつり」が、50年の記念の年を迎えられたと聞きましたが、半世紀にわたる永い歲月、これを企画実施してこられた札幌市をはじめとする主催の各機関、また後援のマスコミ関係各社に対しまして、心から敬意を表する次第です。

納涼ガーデンやバザール、そして北海盆通りなどと、多彩に展開されるイベントの中で、私がかかわるものと言えば、まずは盆踊りであり、それから、ビールがいただける納涼ガーデンということになりましょうか…。わけても盆踊りとは、本当に永い付き合いであります。50回を迎える「さっぽろ夏まつり・北海盆踊り」よりも、歴史は古いです。

戦後間もなくの混乱の時代、我が国の復興の槌音と共に、盆踊りの太鼓の響きは、あの町、この村へと、復活して行ったものです。そのころの私は、15・6歳であったと思います。太鼓の音と唄声に誘われて私は、あちこちの櫓の梯子をして歩いたものです。中でも一際、目立ったのは、1条橋付近の、豊平川河川敷に立った櫓でした。会場を盛り上げ、活気づける役者が揃っていました。つまり、素晴らしい唄い手ぞろいであったということです。すでに故人となられた方々ですが、まず今井篁山師、中田篁輝師、そして山谷隆声師、久松秀峰師、佐々木登紀恵師等々、そのお名前を数えあげれば、枚挙にいとまがありません。これらの先生方は、札幌の民謡界の基礎を築き、今日への道をしっかりと方向づけて下さった方々です。そうして、昭和20年代後半になりますと、現在の札幌民謡連盟の重鎮であり、かくしゃくと後進の指導にあたっておられる、加藤貴美篁師、さらに松本晁章師と夫人の松本津和子師夫妻らが登場されてきたのです。1条橋の盆踊り会場が、いかに盛り

上がりを見せたものか、上記の先生方の顔ぶれを見れば容易に想像がつくというものです。

やがて、「さっぽろ夏まつり」の実行委員会が設立されたことで盆通り会場は、大通西6丁目に移され、昭和30年代後半からは、札幌民謡連盟が櫓のお手伝いをお引き受けすることとなったのです。当初は、踊りの人集まりが思わしくなく、民謡連盟の役員らが、手に手に提灯を掲げ、踊りの先頭に立って、人寄せにひと役かったこともあったものです。そういえばあのころは、櫓の唄声に合わせて、踊り手がおはやしを掛けていたものでした。現在のように、太鼓、横笛、唄、はやし、そして踊りと、それぞれの持ち場が、はっきりと整理されたのは、昭和40年代も後半であったと思います。ヤグラも西6丁目から西8丁目へと移り、今のような整然とした形ができあがり、踊りの輪も幾重にも広がり、その中に、外国の人の顔が見られるほどの、いわば、国際的とも言える規模にまで育ったのであります。

私が、8丁目会場の、仮設事務所へお手伝いに出掛けるようになってから、何年が経つでしょうか…。十数年かと思いますが、その間、1年も欠かさずに見かける人がおります。今はもう、お年寄りと呼んでも失礼にはあたらないと思える方です。彼の姿はまた、一度として変わったことはありません。キリリと向こう鉢巻き。「北海盆おどり会」と染め抜かれた浴衣の腰をグイと角帯で結び、そこに差し込んだ団扇が背中を飾っています。いなせな若い衆ならぬ、いなせなおじいちゃんは今年もきっと盆踊りの唄声と太鼓の響きに誘われて、粋な姿を見せてくれることでしょう。私は彼の姿に会えるのを、今から心待ちにしているのです。

## さっぽろ市民バザールの思い出

札幌古物商業連合組合（札古連）理事 森 良三



今から五十年前“夏まつり”が、札幌市に一つの行事として生まれたことなど覚えている人達は、私をはじめ数少なくなったことと思ひ、若かった日々を振り返って見ました。さっぽろ市民バザール、盆踊り、大通のピアガーデン、など、戦後何一つ人の集まるような楽しいイベントの無かった市民が夢中になった大勢の人々の波を思い出します。

さっぽろバザールの始まりのころは一週単位で、古物商、古本屋、骨董屋、手作りのアクセサリなど、午前10時から夜10時までの販売時間で、毎日商品を持ち込み、帰りは半分たらずの品が残るような売上と、人の集まりでした。夕方は盆踊りの始まる一時間も前から浴衣姿の人々が市内・外の遠くから集まり、バザールの品さだめに、そして踊りが終わってからの買物と前の店が見えないくらいの人々でにぎわいました。そのために午後11時までの片付の時間に間に合わずご迷惑をかけた毎日でした。

札幌古物商業連合組合 札古連（明治13年創立）の組合長でいらした成美堂書店、川人宇三美代さんの努力で昭和61年、第18回よりバザールの後半4日間を札古連で取りまとめ、組合員のみのお店として管理を行うようになりました。

初会からの出店は、成美堂、家具プラザ高橋、豆本屋、さかもと、ももや、マルエス商事、大西骨董店、河住画廊、戯屋留堂、森道具屋、など、多数のお店で、市民の人々は勿論、観光客などで賑わいました。

常連客の中では、洋画家の故・国松登先生、彫刻の本田明二先生、またお料理のテレビでおなじみの星沢幸子先生、河村通夫先生など、さまざまな趣味の人々に親しみ、品物のことでお教えいただいています。

ある日小品の油絵で、道庁の赤レンガの門と

鉄道クラブのロマンチックな格子を描いたものがありました。サインはありましたが見えにくく困って、国松先生に見ていただいたら、先生の友人で昔一緒に絵を描いた仲間の小山昇先生のものとのことで、直ぐ名刺を出され、間違いないことを書いていただいた時のことを思い出します。

またある日は、一角を占めているお店が、のぼり旗のように花嫁衣裳とウエディングドレス等を120枚程はためかせていました。お客様も業者も、若いころの話で盛り上がっていましたが、見るだけで御買上の人はいませんでした。ところが翌日になって見ると一枚も品物が見えず、聞いてみると東京の貸衣裳の業者が全部まとめて御買上げとのこと。そんな夢みtainなお話もありました。

しかしこのようなニコニコできるような毎回ではありませんでした。はりきって商品を並べ、さあこれからお客を向えて、と思ったとたんに、土砂降の雨にお店を閉めなければならず、濡れた体と商品で泣き面で帰ったことも度々ありました。その年によっては冷夏で夜になると毛布をまとしてすごしたり、むし暑いために虫の大群に追っかけられ、商のできない事もありました。

こうしたさまざまな思い出とともに、お客様、市の観光課の方々、札古連の役員の方々にお世話になりながらバザールも育ってきました。しかしながら各方面での大きな催し物に人々が分散し、多様化してきた現在、何がお客様を引きつける物なのか模索を続けているところでもあります。これからも若い世代を先取りする感覚で、80年、100年の先も生き続ける、さっぽろ夏まつりを夢みております。

## まつりの規模が拡大し、市民参加の時代へ

- 第21回／昭和49年（1974）8月3日～8月20日（18日間）
- 第22回／昭和50年（1975）7月26日～8月20日（26日間）
- 第23回／昭和51年（1976）7月24日～8月20日（28日間）
- 第24回／昭和52年（1977）7月20日～8月20日（32日間）
- 第25回／昭和53年（1978）7月26日～8月20日（26日間）
- 第26回／昭和54年（1979）7月21日～8月20日（31日間）
- 第27回／昭和55年（1980）7月26日～8月20日（26日間）
- 第28回／昭和56年（1981）7月25日～8月20日（27日間）
- 第29回／昭和57年（1982）7月23日～8月20日（29日間）
- 第30回／昭和58年（1983）7月23日～8月20日（29日間）



▲北海盆踊り風景（第24回）

### 市民参加の夏まつりへ

#### 20回を迎え市民参加の夏まつりに成長 きっかけとなった第21回の夏まつり

札幌は、昭和45年（1970）には、人口100万人を超える国内有数の大都市となり、昭和47年（1972）に、政令指定都市となった。

このような急激な都市化の中で開催されたさっぽろ夏まつりも、昭和49年（1974）で21回を迎え、すっかりさっぽろの夏のメイン行事として定着した。

このころからのまつりの特徴としてあげられるのは、市民が直接参加できる催しが数多くプログラムの中に用意されるようになったことだろう。見て楽しむまつりから市民が積極的に参加して楽しむまつりへと移行していったのである。

第21回の催しでは、遊び用具の貸し出しコーナーを設けて、子どもたちに開放するとともに、金魚の日、鯉の日、ヨーヨーの日、七夕の日など、日替わりのコーナーを設定したり、「チビっ子広場」「チビっ子映画大会」なども家族連れに喜ばれた。

この年に初めて若者たちの企画・運営による「若者の祭典」なども開催。期間中は、大通会場の清掃や、お年寄り、子ども、身障者へのお世話など、若者による積極的なボランティア活動なども行われ、市民に感謝されていた。

第22回から開催された札幌市民のコミュニティー広場「さっぽろバザール」は、「オークションの街」「趣味の街」「緑と花の街」「食べ物の街」「パークンの街」「若者の街」「遊びの街」と、縁日ムードの7つのコーナーが店開きし、観光客や市民で賑わいをみせた。

第24回では、豊平、北、白石、中央、南の各区で、それぞれに納涼大会が行われ、各地域でも楽しい催しが繰り広げられた。

第29回には、初めて大通西5丁目に「市民スポーツ広場」も設けられた。

あたらしく加わった催し

## フリーマーケットの先駆けともなる 「さっぽろバザール」がお目見え

20回を超えて、新しく夏まつりに加わった催しものとしてあげられるのが、昭和50年（1975）の第22回にお目見えした「さっぽろバザール」だ。

札幌市民のコミュニティー広場として実施しているこの催しは、5年目を迎えた第26回には、およそ55もの団体が参加して店を開き、日用品や手作りアクセサリー、玩具などが販売され見物客の興味をそそっていた。

夏まつり実行委員会もこの催しに参加し、直営でのヨーヨーつりや金魚すくい、大人から子どもにまで人気を集め、盛況のうちに終了となった。

第27回になると参加団体も5団体多い60団体が出店し、バラエティーに富んだ店舗を構成。期間中は天候がいまひとつで、人出も少なかったが、出店者の善意による寄付金は493,749円になり、前年の414,363円を上回る寄付があった。

各回のバザールの収益金は、社会福祉団体の活動資金に寄付された。

第29回に新しく登場したのが「市民スポーツ広場」だ。

大通西5丁目の広場に設営された会場では、市民の健康増進のためにスポーツ性を取り入れた、誰にでも楽しめるプログラムが用意され、若者や家

族連れで賑わいをみせた。

会場で行われた催しは、コンピュータ情報交番、ヘルシー広場、コンピュータロデオ、ローラースケート、綱引き大会、ヘッドフォンコンサート、太極拳、ハンマー스트ライカーなどである。



▲バザールで楽しむ人びと（第25回）



▲市民スポーツ広場で楽しむ人びと（第25回）



▲パレード風景（第21回）

新しく前夜祭も誕生

## まつり気分を盛り上げる「前夜祭」を設定 より華やかなイベントへと成長

昭和56年（1981）に行われた第28回の夏まつりでは、初めての前夜祭が、7月24日（金）に開催された（会場：道新ホール、午後6時から）。

会場では、観光月間のキャッチフレーズでもある“好きですSAPPORO”をサブタイトルとして、今回の夏まつりで催される各行事や踊り、歌などが紹介された。この前夜祭には、翌日から開催される『第28回さっぽろ夏まつり』の、市民への周知とまつりの成功を期待したメッセージがこめられた。

会場で行われた内容は次のとおり。

- ・札幌市消防局音楽隊
- ・さっぽろ音頭（札幌市婦人団体連絡協議会）
- ・かっぱ音頭（定山溪観光協会）
- ・藻南音頭（藻南公園まつり実行委員会）
- ・ディスコ・ギャル（すすきの観光協会）
- ・どさんこ太鼓（鼓章会）
- ・ゲスト 森雄二とサザンクロス、三升家勝二

姉妹都市のまつり参加

## 姉妹都市ミュンヘン市の参加で 「ミュンヘンウイーク」に協賛

昭和57年（1982）に開催された第29回のさっぽろ夏まつりは、ドイツ・ミュンヘン市との姉妹都市提携10周年を記念して行われた「ミュンヘンウイーク」に協賛するかたちで、前年より2日早い7月23日からまつりがスタートした。

札幌市とミュンヘン市は、昭和47年（1972）に、両市が夏と冬のオリンピック開催地となったことが縁で姉妹都市提携をしたもので、両市ともビールの生産地としても知られている。

7月23日から28日までの6日間で設定された「ミュンヘンウイーク」では、ミュンヘン市長をはじめ、約90名もの親善使節団が夏まつりの札幌市を訪れ、市内各所で演奏会なども催された。

また前年から、夏まつりの関係者が一堂に会して、夏まつりの開催を祝い、関係者相互の懇談の



▲初めて行われた前夜祭の様子（第28回）



▲前夜祭を楽しむ参加者（第28回）



▲オープニングビアパーティ（第29回）



▲「ミュンヘンウイーク」での市内パレード（第29回）

機会を設ける場としてオープニングパーティが催され、この年は、ミュンヘン市のイザールターラプラスバンドの特別出演もあり、夏まつりの幕開けにふさわしく賑やかなひとときだったようだ。

さらに、会期中は大通西4丁目にミュンヘン観光案内所も設置され、行き交う市民や観光客にミュンヘン市の観光PRを行い、連日大勢の人びとでにぎわった。

納涼ビヤガーデンのようす

### 『福祉協賛大通納涼ガーデン』に名称変更 猛暑続きで、年を追うごとに消費量も拡大

納涼ビヤガーデンは、昭和50年（1975）ころには、すっかり札幌の夏の風物詩として定着した。

ビヤガーデンは、従来収益の一部を福祉団体などに寄付するという取り組みを行ってきたが、昭和53年（1978）の第25回は『福祉協賛納涼ガーデン』と、福祉を前面に打ち出した名称となった。

第26回からは『福祉協賛大通納涼ガーデン』に変更。およそ3100個の提灯で飾られた西5丁目から西8丁目までの大通公園を会場に、大勢の来客でにぎわった。

この年は、期間中天候が不順であったことから、ビールの消費量も前年を下回る結果となった。

翌第27回は、期間中で好天に恵まれたことからこれまでで最高の消費量となった。

第28回では、初日から30度を超す猛暑が続いて、涼を求める大勢の市民や観光客でにぎわいをみせ

たが、後半は一転して台風の接近やその後の冷え込みの影響によって各ガーデンの売上も鈍化。結果として来客数は昨年並みになり、ビールの消費量は前年をやや下回る結果となった。

第29回は、期間中2日間が雨のために中止を余儀なくされたが、8月に入って蒸し暑い日が続く、公園内は多くの人びとでにぎわった。ビールの消費量もこれまでの最高となった。

第30回は、大通1、2丁目と5丁目から8丁目を会場に行われた。

この年の7月は異常な低温のためにビールの消費量、客の入り込みともに前年を下回る心配もされたが、8月に入ってから連日30度を超す猛暑が続く、来客数、ビール消費量とも過去最高だった前年を上回り、これまでで最高となった。



### ●まつりの大型化や好天にも恵まれビール消費量も年々増大

この10年間の『福祉協賛大通納涼ガーデン』は、まつりの大型化や好天に恵まれたこともあり、ビールの消費量も年々増大。第30回には、182,475リットルが消費された。

過去のビール消費量は別表のとおり。

開催年度	消費量(ℓ)	延べ来客数(約)人
第25回(昭和53)	174,783	
第26回(昭和54)	148,740	550,000
第27回(昭和55)	177,237	550,000
第28回(昭和56)	155,628	550,000
第29回(昭和57)	180,016	630,000
第30回(昭和58)	182,475	640,000



▲現在の名称に変更となった納涼ガーデン（第26回）



▲各界から関係者が集まって華やかに開催された祝賀ビアパーティ（第30回）

さっぽろ夏まつり30年

### 30年記念事業が盛大にとり行われ まつりに尽力した関係者の表彰も

昭和29年（1954）からはじまったさっぽろ夏まつりも、昭和58年（1983）年で30回を記念する大きなまつりに成長。これを記念して行われた『第30回記念式典及びビア・パーティ』は、7月22日（金）の午後5時30分から札幌ロイヤルホテルで行われた。

当日は、来賓として札幌市の河崎助役が出席する中で、夏まつりの発展に貢献してきた関係者約50名が一堂に会した。

これらの関係者に対し、札幌観光協会の今井道雄会長が感謝の意を表すとともに、感謝状と楯、記念誌が贈呈された。

引き続き行われたビア・パーティには、およそ250名の関係者が集まり、多彩なステージショーや相互の懇親の場として盛り上がり、華やかなひとときとなった。

記念感謝状の受賞者は次の方々である。

〈個人の部／敬称略〉石林 清、大場 実、薩 一夫、佐藤 昇、曾我樹司、中山大五郎、久末鉄男、吉田保一

〈団体の部／順不同〉サッポロビール（株）札幌支店、麒麟麦酒（株）札幌支店、北海道朝日麦酒（株）、サントリー（株）札幌支店、北海道酒類販売（株）、雪印乳業（株）北海道総括支店、北海道キリンレモンサービス（株）、札幌ヤクルト（株）、北海道ペプシコーラボトリング（株）、北海道コココーラボトリング（株）、森永乳業（株）札幌支店、札幌リボン飲料（株）、明治乳業（株）北海道支店、札幌市母子福祉連合会、（社）心の里親会、（株）サッポロライオン札幌支店、札幌国際観光（株）、キリンビアホール、（株）雪印パーラー、札幌雪販（株）、北海道放送（株）、北海道文化放送（株）、（株）北海道新聞社、（株）北海タイムス社、朝日新聞北海道支社、北海道観光事業（株）、（株）ユニ・フォト、（株）電通北海道支社、（株）協同広告社、大同電気工業（株）、すすきの祭り実行委員会、定山溪観光協会、狸まつり実行委員会、藻南公園まつり実行委員会、花のさっぽろ駅前まつり実行委員会、札幌市婦人団体連絡協議会、札幌民謡研究会、菊柳豊秀会、五條会五條珠淑、札幌民謡連盟、さっぽろ手づくり協会、さっぽろユース・グランドフェスト実行委員会、北海道警察音楽隊、札幌市消防局音楽隊、陸上自衛隊第11音楽隊、陸上自衛隊北部方面音楽隊

## さっぽろ夏まつりとHBC

北海道放送株式会社 常務取締役 白幡 嘉信



HBC北海道放送は、1951（昭和26）年に北海道で最初、全国で7番目の民間放送として誕生し、北海道における放送メディアの先駆者として、ラジオ・テレビの歴史を積み重ねてまいりました。

当社が一貫して目指してきたのは、地域からの情報発信と文化の創造、そして広告による北海道経済の発展であります。この間HBCとして信頼される番組、生活に役立つ番組、そして楽しい番組を放送するとともに、多くの事業イベントを展開してまいりました。

1952（昭和27）年8月、開局6ヶ月を経た弊社はラジオによる文化普及運動の一環として中島公園において「納涼ラジオ祭り」を開催し、連日万余の観衆が集まりました。2回目からは「HBC納涼大会」として継続され、期間中はクイズ、歌謡パレード、子供盆通りや仮装盆踊りなど盛りたくさんのプログラムが繰り広げられました。1959（昭和34）年からは会場を大通に移し、「さっぽろ夏まつり」の協賛行事として市民の夏のレクリエーションの恒例行事としても親しまれるイベントとなりました。

1971（昭和46）年からはサッポロビール様から大通西8丁目を会場とした「納涼ビアガーデン」の企画制作を弊社ラジオ局が委託され特設ステージを担当することになりました。札幌市とミュンヘン市との姉妹都市提携10周年記念の「ミュンヘンウィーク」や札幌オリンピック関連企画などを実施し、これらの企画を通じて国際親善にも参加することとなりました。

一方「さっぽろ夏まつり」のフィナーレを飾る「北海盆おどり」はHBCテレビ開局20周年を迎えた1977（昭和52）年、地域社会に密着した記念行事として弊社が全面的に協力することとなり、テレビ局が中心となって参画することと

なりました。盆踊り会場のシンボルは何といっても櫓。櫓はタワーとしての美しさを持ち、特設ステージとしての機能を果たさなくてはならない。そして規模が大きくなればなるほど安全には最大の注意を払わなければならない。かくて基礎に鉄骨を充分に使った堅牢で美しい櫓。高さ13.5m、ステージ面積13㎡、その上段に太鼓を設置するスペースをたっぷり取った見事な櫓が出来上がりました。設営費用は約500万円。全国的にも最大級のこの櫓は期間中の祭りの盛り上げの原動力となり、連日色とりどりの浴衣を着た大勢の市民や観光客が踊りの輪に加わり、初日3万人という予想を上回る人手は、日を追うごとに熱気呼んで膨れ上がり、最終日に実施された仮装コンクールの日は櫓を囲んで16列もの踊りの輪ができ群集整理のため250人の仮装コンクール参加者は街路で踊らなければなりません。7日間に配ったスポンサー名入りうちわ、手ぬぐいも大変好評でこの年の延べ参加人数は26万人にも達しました。以来、さっぽろ夏まつり実行委員会、札幌市を始め、協賛出演諸団体や会場設営関係者、そしてこのイベントを評価してくださっているHBCのラジオ・テレビのスポンサーのご理解、ご支援のおかげで現在まで「さっぽろ夏まつり」に参画させていただいております。

札幌の夏の風物詩として定着した「さっぽろ夏まつり」が第50回目の節目の年を迎えた今年、放送界はデジタル元年を迎えました。HBCをはじめ民間放送を取り巻く環境は大変厳しいものがありますが、これからの新しい時代もHBCは皆様に支持していただける北海道を代表する放送局として皆様の実りある生活に寄与していく決意で臨んでまいります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

## 盆踊り太鼓叩いて40年

どさんこ太鼓 主宰 難波 鼓章



札幌の夏の風物詩夏まつりが50年の節目を迎えられ誠にありがとうございます。今年は、記念となる事業を企画され札幌市をはじめとする関係機関の皆さんに心から敬意を表します。

さて、私が、初めて太鼓を叩いたのは、小学校3年の時でした。当時大樹町の学校に通っておりました。町では、盆踊りが盛んで見よう見まねで太鼓を叩いており町でも名前が知られておりました。

昭和30年頃に仕事関係で札幌に出て来ました。本市の当時の人口は約40万円で街並みは、現在のような舗装された道路ではなく砂利道で、馬車追いが散見され雪解けのころはよく馬糞風が街を吹きさらし、街の景観も現在のように整然としていなく高層ビルもなく丸井デパートが特に目立っており屋上には対照燈が札幌の中心部を照らし回っていました。

札幌に出てきてこの夏まつりの時期に大通りの盆踊りを見に行きましたところ規模の大きさに驚きました。何時かこのヤグラで太鼓を叩いてみようと思いをうかがっておりました。昭和40年にチャンスが到来し念願を果たしました。この時の感動は今も脳裏に焼きついております。太鼓は、この盆踊りには必要不可欠であり根幹をなしすべて太鼓のリードにより盛り上がります。唄、お囃子、横笛、踊り手の掛け声が一体となった時に気持が躍動します。

当時の櫓は、丸太を組んでおり、今のような頑強な造りではなく安定感に欠けるものであり常に揺れ動いている感じで、提灯の明かりで蚊が数多く飛び交い口の中に入ることもしばしばで身体中蚊に食われかゆいながらも太鼓を叩き続けていました。

地面は、この盆踊りで良くなされたものです。当時踊りに来た人の殆んどの人が下駄履きで踊っており下駄の緒が切れたりすり減ったり

しておりました。また、踊りに来た若い人達は、この盆踊りにかこつけ手ぬぐいで頬かむりし密かにデートを楽しんでいるカップルもいました。

歌の歌詞も当時は、品格を損ねるような歌詞が多くこれを楽しみに聞き入っている人もいました。あまりにも歌詞が露骨なので歌詞が選定されるようになったのが昭和38年ころであったようです。中には、櫓で太鼓を叩かしてくれと言って櫓に上るけれども踊りに合わなく殆んどの人が引き下がって行きました。その当時は、娯楽も少なくこの盆踊りに熱中し老若男女が入り交じりこの盆踊りに夜の更けるまで楽しんでいる姿が懐かしく思い出されます。

私は、昭和48年から夏まつりの一環で北方圏カーニバルパレードで「どさんこ太鼓」チームとして毎年パレードに参加しておりました。

昭和62年ころから「熱響舞夏」として昼間は、駅前通りに太鼓チーム25団体500名一同に会し太鼓の演奏をし多くの市民がこれに参加し楽しんでいただきました。夕刻からの大群舞でのスタートでは、各団体が駅前プロムナードを中心に南1条から、南3条そして中通り東西側で待機し一斉にスタートするための掛け声を掛けます。各ブロックから8列に輪になり、この大群舞に参加した市民は、多いときで1万人以上になり同時スタートすると、各路面が踊り手で埋め尽くされそれは見事なものでした。

この大群舞を、掛け声一つでスタートさせ、また太鼓一つで踊らせることができることは、この上もない喜びであり大変に名誉なことです。

現在のこの夏まつりの盆踊りは、大変立派な櫓、音響設備等素晴らしい環境で演奏させていただいております。この盆踊りが更に魅力のあるものとして企画されこれからの若い世代にも受け継がれていくことを念願しております。

## 多彩なイベントが加わり、夏まつりも多様化の時代へ

- 第31回／昭和59年（1984）7月23日～8月20日（29日間）
- 第32回／昭和60年（1985）7月21日～8月20日（31日間）
- 第33回／昭和61年（1986）7月21日～8月20日（31日間）
- 第34回／昭和62年（1987）7月21日～8月20日（31日間）
- 第35回／昭和63年（1988）7月21日～8月20日（31日間）
- 第36回／平成元年（1989）7月21日～8月20日（31日間）
- 第37回／平成2年（1990）7月21日～8月20日（31日間）
- 第38回／平成3年（1991）7月21日～8月20日（31日間）
- 第39回／平成4年（1992）7月21日～8月20日（31日間）
- 第40回／平成5年（1993）7月21日～8月20日（31日間）



▲さっぽろバザール風景（第32回）

### 開催期間の一定化へ

#### 充実の第31回夏まつりを経て 夏まつり開催期間の一定化へ

日本がバブル景気に湧き始めた昭和59年（1984）、『さっぽろ夏まつり』は第31回を迎えた。

この年の夏まつりは、札幌市とポートランド市の姉妹都市提携25周年を記念して「北方圏さっぽろ国際フェスティバル」が開催され、例年以上に

充実した内容となった。

行事は、恒例の「福祉協賛大通納涼ガーデン」や「北海盆踊り大会」「ふるさと芸能まつり」「さっぽろバザール」「市民スポーツ広場」のほかに、新たに「北方圏さっぽろ国際フェスティバル」や「サマージャンプ大会」なども開催。連日市民や観光客でにぎわいをみせた。

また翌年から、まつりの開催期間が31日間と一定化の方向に向かい、以降今日まで至っている。

開催期間を、それまでの流動的な日程設定から一定化へと向けたのは、このまつりを夏の観光資源として位置づけたことが理由だ。関係団体は、道内はもちろんのこと、道外からも大勢の観光客を誘致することを狙うとともに、市民に対してもまつりを一層PRすることにした。



▲ふるさと芸能まつりで熱唱する参加者（第31回）

新しいイベントの創設

## 第31回から始まった新しいまつり 北方圏さっぽろ国際フェスティバルの誕生

第31回からはじまった「北方圏さっぽろ国際フェスティバル」では、大倉山ジャンプ競技場を会場に、音楽祭（ミュージックフォーラム）が行われた。当日は、人気歌手・松山千春さんを招いてコンサートが実施された。

また、中島公園から駅前通りの約1.8キロの道を練り歩くカーニバルも開催された。ブラジルサンバチーム、吹奏楽団、バトン、みこし、踊りのグループなど、道内外の各都市から34団体、およそ2,500人が参加し、暑い夏のひとときを過ごしていた。

第32回では、前年同様、大倉山ジャンプ競技場でのミュージックフォーラムやブラジルのサンバチームなどによる行進のほか、大通西10丁目に国際広場も設けられた。

ここでは、外国ビールを中心とした北方圏グルメを提供し、従来から実施していた国産ビールのビアガーデンとともに、国際ビールまつりの試みとして実施された。

昭和62年（1987）の第34回からは、3年間にわたって実施した「北方圏さっぽろ国際フェスティバル」が終了し、これを引き継ぐかたちで「さっぽろ国際フェスティバル」が誕生。この年には、新たに大群舞―北海盆踊り、手づくり神輿コンテスト、千人太鼓競演なども加わり、華やかにイベ

ントが練り広げられた。

「さっぽろ国際フェスティバル」の催しとして定着してきた踊りと太鼓の饗宴は、平成2年（1990）の第37回に、「熱響舞夏（ねつきょうマイサマー）」と題して結実。期間中は、大群舞北海盆踊り、手づくりみこし大競演、連合神輿渡御、親子のふれあい太鼓などが催され、ひとときわにぎわった。

まつり環境の整備

## 違法露店商の規制を本格化し 健全な夏まつり環境の整備へ

金魚釣りやヨーヨー釣り、綿アメ販売など、夏まつりの期間中沿道を賑わす露店は、まつり気分を盛り上げる大切な役割を担っている。しかし一方で、違法露店の存在が例年、関係者の間で悩みのタネとなっていた。

この問題に本格的に取り組み、行動に移したのは、昭和62年（1987）の第34回の夏まつりからであった。

この年のまつりでは、違法露店＝暴力団系露店の一斉排除というかたちをとり、中央警察署をはじめ、関係諸官庁の協力を得て完全に排除することができた。

夏まつりの事務局では、これまでは例年に習うかたちで、健全な営業として商っている露店商も、暴力団系の露店商も合わせて出店を許可してきた。しかし、暴力団同士の抗争がこの年以前に激化し

ていたこと、暴力団系の露店商の売り上げが暴力団の資金源となる恐れがあったことなどから、意を決した事務局が、本格的に暴力団系露店商の規制に乗り出したのである。

このような夏まつりの動きを受けて、さっぽろ雪まつりや円山公園の札幌祭り（北海道神宮例大祭）でも徐々に違法露店の規制に乗り出し、排除に成功した。



▲第1回「北方圏札幌国際フェスティバル」のパレード風景（第31回）



▲健全なまつりの形を取り戻した第34回のまつり

郷土色を加えたまつりへ

### 夏まつりをさらに多彩に盛り上げる ふるさと芸能まつりで郷土色を導入

夏まつりに郷土色を取り入れようと、昭和56年(1981)の第28回から始まった「ふるさと芸能まつり」は、第30回以降になるとすっかりまつりの行事として定着し、第35回まで開催された。

毎年会場となる大通西6丁目のステージでは、各地の郷土芸能やパフォーマンスが繰り広げられた。

第31回では、郷土芸能のほかに、太鼓の競演やフォークソング、カラオケ、歌まね大会なども行われて、連日多くの人びとで賑わった。また、特別出演としては「青森のねぶた」が参加し、大通西6・7丁目の車道を行進。市民や観光客も交えて、ラッセラーのかけ声とともにハネていた。

第32回では、「沼田夜高あんどん」が、第33回では、「北海道アフリカ協会」の設立を目指した「北海道アフリカの夕べ」が開催された。当日の会場には、テレビでおなじみのオスマン・サンコンさんが来場し、楽しいトークも繰り広げられた。

またこの年には「あかびら火みこし」が登場し

華を添えた。第35回からは、「ゆかた美人コンテスト」も実施された。



▲「ふるさと芸能まつり」の一環で開催された「ゆかた美人コンテスト」(第35回)

### ●夏まつり期間中に部分日食

平成2年(1990)、第37回夏まつりが7月21日からはじまったが、その翌日に、国内で2年4ヶ月ぶりの日食が観測された。

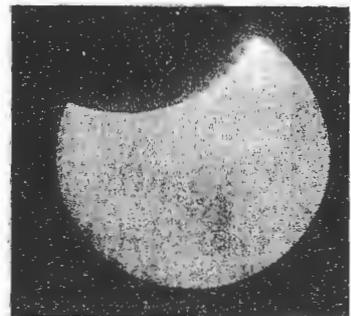
日食は午前11時頃から太陽が欠けはじめて、およそ1時間にわたって日食現象がおきた。この現象に、ピアガーデンで憩う人びとも、しばし天体ショーに見とれたようだ。

このような天体現象が、夏まつりの期間中に起きるのははじめてのことであった。

国内では昭和56年(1981)の第28回から始まった「ふるさと芸能まつり」は、第30回以降になるとすっかりまつりの行事として定着し、第35回まで開催された。毎年会場となる大通西6丁目のステージでは、各地の郷土芸能やパフォーマンスが繰り広げられた。第31回では、郷土芸能のほかに、太鼓の競演やフォークソング、カラオケ、歌まね大会なども行われて、連日多くの人びとで賑わった。また、特別出演としては「青森のねぶた」が参加し、大通西6・7丁目の車道を行進。市民や観光客も交えて、ラッセラーのかけ声とともにハネていた。第32回では、「沼田夜高あんどん」が、第33回では、「北海道アフリカ協会」の設立を目指した「北海道アフリカの夕べ」が開催された。当日の会場には、テレビでおなじみのオスマン・サンコンさんが来場し、楽しいトークも繰り広げられた。またこの年には「あかびら火みこし」が登場し

### 夏空高く日食ショー

二年四カ月ぶり道内でも観測



▲部分日食のニュースを伝える北海道新聞(平成2年(1990)7月23日)

## 札幌の夏の風物詩としてすっかり定着 納涼ガーデンに国際化の彩りもプラス

さっぱり夏まつりの顔であり、札幌の夏の風物詩としてもすっかり定着した「福祉協賛大通納涼ガーデン」。昭和59年（1984）の第31回は、期間中に1日だけ雨が降り、開催が中止となったが、それ以外は連日30度を超す猛暑が続いた。納涼ガーデンには涼を求める数多くの市民や観光客が訪れ、動員数、ビール消費量とも史上最高を記録した。

第32回は、前半は天候不順だったが、後半は連日30度を超し、昭和36年の第6回夏まつりから開催された納涼ガーデンが、初めて1日も中止することなく実施された。

また大通西10丁目の会場ではこの年から「北方圏国際広場」が設けられ、外国ビールや北方圏の料理が楽しめるようになった。

第33回は、全般的に天候が不順だったことから、合計6回の中止がたたり、観光客の入り込みやビールの消費量も前年を下回る結果となった。前年から始まった「北方圏国際広場」での外国ビールの導入も引き続いた。

第34回は、違法露店の一斉取り締まりが強化された関係で、納涼ガーデンの席数を前年より1,000席増やした。しかし、全般的に天候が不順だったことから観光客の入り込みや売り上げも鈍化、前年を下回る結果だった。

なお、大通西10丁目で開催されていた「北方圏国際広場」は、この年から「国際広場-世界のビール」と改称した。会場では、アメリカの樽生ビールを加え、合計3カ国、4種類の樽生ビールと8カ国15種類の缶ビールを提供して、人気を呼んでいた。

第35回は、席数を前年より600席増やし、合計7,162席を準備したが、

天候に恵まれたことから、連日超満員となる賑わいだった。

また、ドライビールなどの売り上げが好調で、この年の観光客の来客と消費量は過去最高となった。

第36回は、大通西10丁目の「国際広場-世界のビール」で、3カ国4種類の樽生ビールに、14カ国21種類の缶ビールを提供。第37回では、缶ビールが14カ国25種類に増え、第38回も同様であった。

また第39回、第40回も引き続きとどこおりなく納涼ガーデンが開催され、売り上げも福祉団体に寄付された。

開催年度	消費量(ℓ)	延べ来客数(約)人
第31回(昭和59)	231,024	650,000
第32回(昭和60)	231,079	650,000
第33回(昭和61)	199,801	520,000
第34回(昭和62)	188,455	461,000
第35回(昭和63)	262,996	710,000
第36回(平成元)	294,111	764,000
第37回(平成2)	275,654	726,000
第38回(平成3)	232,382	613,000
第39回(平成4)	224,939	590,000
第40回(平成5)	198,314	525,000



▲10年間で、最高のビール消費量を記録した第36回の納涼ビヤガーデン

各回の新しいとりくみ

## 各回で工夫を凝らしてまつりを盛り上げ 夏の恒例行事に新しい風を送り込み続ける

第31回の夏まつりでは、「定山溪かっぱまつり」が名称を変え、「'84定山溪ニューかっぱまつり」となった。また開催期間も、これまでの2日間から大幅に延長し、7月28日から8月15日までの19日間で開催された。

催し物としては、定山溪火おどり、ゲートボール大会、マラソン大会、盆踊り大会などが行われた。また第34回では、新たに仮装パレードや「ライブ・ザ・花火」などの催しも加わった。

第33回は、「大学対抗綱引大会」が新しく取り入れられた。会場も大通西7丁目に設営したが、開催前日からの大雨により中止となった。

この綱引大会は第34回が実質初めての開催で、男子の部に8チーム、女子の部に3チームの参加があり、力自慢の熱戦に、会場を取り囲んだ観客からも熱のこもった声援が飛び、予想以上の好評を博した。

第34回では、「レーザー・ライティング・ファンタジー」が新しい行事として取り入れられた。

この行事は、(社)札幌青年会議所との共催により、大通西1・2丁目の会場で行われた。大通公園の夜空に、ロックのリズムにのって青と緑のレーザー光線による幾何学模様が創り出され、行き交う人びとをしばし幻想の世界に誘っていた。

第35回は、「すすきの祭り」で、新たに「女衆み

こし」が登場し、まつりに一層の華やかさをもたせていた。

第36回は、「ふるさと芸能まつり」を「夏のバラエティーひろば」に改称し、催しをより幅広く展開していくことにした。

この「夏のバラエティーひろば」では、道内各地の郷土芸能の紹介をはじめ、恒例の太鼓競演会、ちびっこ民謡大会、浴衣美人コンテスト、カラオケ大会などは例年のふるさと芸能まつりを引き継ぐかたちとなった。これらに、丸太押し相撲、星空映画館などが新たに取り入れられ、第37回では氷彫刻大会なども催された。

第38回では、趣向を凝らしたカラオケ大会「KARAOKE LIVE」が実施され、連日多くの市民や観光客で賑わった。

第39回は、「ザッツ人間ワンダーランド」が大通西6丁目を会場にして行われた。女性チームによる綱引き大会や、外国人の大道芸を披露した「ストリートパフォーマンス天国」、さらにはダンス、コミック、サウンドの各部に分かれての「パフォーマンスステージ」などが行われてにぎわった。

第40回では、「アメリカンストリート」が大通西5丁目で行われた。会場全体がアメリカの雰囲気を漂わせ、大人気のバスケットボール「3on3」やわんぱくPK、ウォールペインティングストリートなどが催され、子どもたちや若者たちがスポーツ感覚いっぱい楽しんだ。



▲さまざまな参加者が特技を披露した「ザッツ人間ワンダーランド」

## さっぽろ夏まつり50年にあたって

サッポロビール株式会社 専務札幌支社長 土屋 徹



さっぽろ夏まつりが50年を迎えられ一言お祝い申し上げます。

さわやかな夏の札幌を彩る「さっぽろ夏まつり」が第50回という大きな節目を迎えるに至りましたことは、札幌市をはじめ関係者各位のご尽力の賜と敬意を表します。

弊社もご指名を受けている納涼ガーデンにも毎年多くの市民・観光客の方々にご利用いただき、50年の歴史の重みと責任の重大さを改めて感じる次第です。また納涼ガーデンの売上金の一部は福祉協賛という形で、札幌市の社会福祉事業に役立てていただいております、これも公共の場である大通公園をお借りしてビヤガーデンを運営する私どもにとりまして意義深いものと考えております。

私どもサッポロビールは明治9年、札幌の地で産声を上げ、札幌市民に愛され、親しまれ、育てられてまいりました。さっぽろ夏まつりの歴史がサッポロビールの歴史の一編であるといっても過言ではありません。

過去の記録をひも解くと、昭和29年の第1回では、狸小路のライオンビヤホールでビールの王様コンクールが行われています。現在のように大通会場でビヤガーデンが始まったのは第6回の昭和34年の頃からで、年々規模が大きくなり、24年前の昭和54年にはビールの消費量が148,740リットルだったと記録されています。

昨年は多少冷夏で伸び悩みましたが、253,000リットルでした。また、過去最高の消費量は平成6年の347,000リットルで、この年は猛暑であったと記憶しておりますが、未だにこの記録は更新されていません。次回はこの記録が塗り替えられることを期待しています。

今日では会場が大通1丁目から11丁目まで広がり、毎年80万人強のお客様にご来場いただく

納涼ガーデンは国内でも類のない規模であり、年々発展を続けているこの催しにいまさらながら深く感銘する次第です。

札幌の夏の風物詩として定着した納涼ガーデンに、今年も多くの市民・観光客をお迎えし、出来たての生ビールを楽しんでいただくために、私どもも50年の節目に気持ちを新たにして誠心誠意運営に取り組んで参る所存です。

最後になりましたが、さっぽろ夏まつりが今後も益々ご発展され、市民・観光客の憩いの場となれんことを祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



## さっぽろ夏まつり50年に寄せて

アサヒビール株式会社 北海道支社 理事 支社長 武田 充広



「さっぽろ夏まつり」開催50年にあたり、昭和28年の第一回開催以来、順風満帆のご発展を遂げられ、今日のご隆盛を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

弊社にとりまして、「さっぽろ夏まつり」は、とても縁の深いイベントの一つであり、「アサヒスーパービアパーク」という名称にて、例年、大通公園6丁目会場でビヤガーデンを出店させていただいております。大通のビヤガーデンは、昭和34年に開催された第6回「さっぽろ夏まつり」で実施されたビール販売が先端と聞いておりますが、弊社は、「社団法人心の里親会」様からお誘いをいただき、昭和37年の第9回「さっぽろ夏まつり」から参加させていただいております。以来40年以上の長きにわたり、大変お世話になっており、「さっぽろ夏まつり」50年の歴史の中の多くの時間を共に過ごさせていただきましたことを心より感謝しております。

一言で50年と申しましても、主催される「さっぽろ夏まつり実行委員会」の設立から、運営を軌道に乗せられた、今日に至るまでの札幌市職員の皆様をはじめ、札幌観光協会、役員、スタッフの皆様方には、一方ならぬご苦勞がございましたと思われれます。今日までの皆様方のご努力には、私どもも本当に頭の下がる思いでございます。

弊社は、この1～2年でターニングポイントともいえる大きな変化を迎えました。一昨年、北海道発祥の企業として、永年皆様にご支援、ご愛顧をいただいておりますニッカウヰスキー(株)との営業統合、そして、昨年、協和発酵社、旭化成社のアルコール飲料部門の営業譲渡、レミーマルタンをはじめとする世界有数のブランドを抱えるマキシアムワールドワイド社との業務連携により、総合酒類提案企業として新た

な歩みを始めました。

これからは、ビール・発泡酒のみならず、洋酒、焼酎、ワイン、低アルコール飲料と様々な分野で皆様にご支持いただける商品を提供できますよう、引き続き切磋琢磨してまいります。「さっぽろ夏まつり」においても、今後も引き続き、弊社商品を提供させていただくことが喜びであり、今後も弊社商品のご愛顧、ご愛飲を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

末筆になりましたが、「さっぽろ夏まつり」が道内のみならず、道外からの多くの観光客でますますご盛況されること、また、「さっぽろ夏まつり」の運営にあたられます札幌市職員の皆様をはじめ、札幌観光協会・役員、スタッフの皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、50年の祝辞にかえさせていただきます。



## 安全と環境に配慮した21世紀の夏まつりへ

- 第41回／平成6年（1994）7月21日～8月20日（31日間）
- 第42回／平成7年（1995）7月21日～8月20日（31日間）
- 第43回／平成8年（1996）7月21日～8月20日（31日間）
- 第44回／平成9年（1997）7月21日～8月20日（31日間）
- 第45回／平成10年（1998）7月21日～8月20日（31日間）
- 第46回／平成11年（1999）7月21日～8月20日（31日間）
- 第47回／平成12年（2000）7月21日～8月20日（31日間）
- 第48回／平成13年（2001）7月21日～8月20日（31日間）
- 第49回／平成14年（2002）7月22日～8月20日（30日間）
- 第50回／平成15年（2003）7月22日～8月20日（30日間）



▲上田新市長とミスさっぽろも一緒になって踊りに参加しながら夏まつり50回を祝う

夏まつりの広報・宣伝もIT時代へ

### 夏まつり専用のホームページを開設してインターネット時代に対応した情報発信

バブル経済の終焉にともない、日本経済が凋落の一途をたどり始めた平成6年。さっぽろ夏まつりは、第41回を迎えた。

この時期以降になると、まつりもすっかり安定化の様相を呈し、さまざまなイベントも回を重ねての落ち着きが見られるようになった。

こうしたなかで、新しい時代の広報・宣伝ツールとして、インターネットにホームページを開設したのが、第45回の夏まつりからである。まつりのPRと期間中の内容を、全国に向けて情報発信するこの試みは、この年の11月2日現在で1,332件のアクセス件数があり、まずまずの実績を得ることができた。

ホームページでは、納涼ビヤガーデンや北海盆踊り、狸まつり、定山溪かっぱまつり、そしてすすきの祭りなどの各種催しの開催時期、場所、時間などを告知し、催しの楽しさを伝える文章も加えて、夏まつり全体の様子が分かる内容となって

おり好評であった。

以降、ホームページは毎年新たな情報を更新しながら運営が続けられており、1年中気軽に夏まつりの情報を閲覧できる魅力が加わった。



▲IT技術を駆使した広報活動を取り入れたこの年、イベントでは懐かしい催しも行われた（第41回）

安全と環境に配慮した夏まつり

## 世相を反映し夏まつりにも新たな取り組み これまで以上に「安全と環境」に配慮徹底

20世紀最後の年となった第47回さっぽろ夏まつりは、関係者の間ではピリピリしたムードの中で始まった。というのも、この年（平成12年）の6月に開催された「YOSAKOIソーラン祭り」において爆発事件が起きたからであった。この事件は、大通公園内に設置されていたゴミ箱の中に爆発物が仕掛けられていて、清掃作業中のスタッフが爆発に巻き込まれてケガをしたというものであった。

これを受けた夏まつり実行委員会では、各運営会社や団体に協力を要請し、新たな事件発生を未然に防ぐ努力を重ねたところ、すべての行事を無事に終了させることができた。またその強化体制については、各関係方面からも一定の評価を得ることができた。

今後の会場内の警備強化、並びに会期中の会場周辺での違法駐車の実態についても中央警察署の多大な協力を得ながら進められ、安全で楽しい夏まつりが運営できるようにとの配慮が続けられた。



▲警備体制と環境に配慮し、訪れた人々も爽やかにひとときを楽しんでいる（第49回）

また、第49回からは、札幌市が平成13年11月22日付けで、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得したことを受けて、各会場において省エネ対策の推進やごみの削減に努める取り組みも実施された。

このように、近年の夏まつりはこれまで以上に「安全と環境」に配慮した取り組みが行われている点が、特徴の一つである。

納涼ガーデンに地ビール登場

## 市民や観光客に人気の納涼ガーデンに新風道内地ビールが参加して多彩な飲み比べも

さまざまなまつりが集まって、札幌の夏を彩る華やかな期間を形成しているさっぽろ夏まつり。第41回からの10年間に、過去40回の歴史を積み重ねながら変化し、より充実した内容の催しとして成長してきた。夏まつりの目玉行事の一つ、「福祉協賛大通納涼ガーデン」もその一つだ。

第41回（平成6年）は、記録的な猛暑となった。会期中は、1日の最高気温が25度以上となる「夏日」が続き、30度以上となる「真夏日」は11日間あった。特に8月7日の日曜日は、札幌の観測史上最高の36.2度を記録。長雨続きとなった前年とは対照的に、好天に恵まれた。ビールの消費量もこれまでの最高を記録した。

第42回は、7月下旬が好天で出だしは好調だったが、8月に入ると気温は高いものの天候不順な空模様で、会期終了直前は、雨による中止・時間短縮が4日間あった。第43回も同様の空模様で、前半は好天で後半が雨模様という天候の中、消費量は前年並みとなった。なおこの年には、道内で食中毒が多数発生していたので警戒し、各出店者への衛生管理の徹底をお願いしたこともあり、事故もなく終了することができた。

第44回は、雨による中止が1日あったものの、前半の好天により平成6年の第41回に続く消費量を記録。会場は大勢の市民や観光客で賑わい、短い北国の夏を満喫していた。

第45回（平成10年）からは、平成9年に発足した、道内地ビールメーカー17社で組織する「地ビ

ール連絡協議会」が新たに参加。会場となった大通西11丁目の「地ビールひろば」では、道内の約40銘柄の地ビールが勢ぞろいし、納涼ガーデンの新たな顔としてお目見えした。期間中は、大勢の市民や観光客がビヤガーデンの新しい顔となった地ビールひろばにも訪れ、全体の消費量も前回に比べて8.4%増えた。

第46回は、期間中を通して暑い日が続いたため、前年を18.6%上回る消費量を記録。第47回がそれに続き、平成6年の第41回、第46回、第47回がそれぞれ歴代消費量第1位から3位を記録した。

前年の消費量を大幅に下回ったのは第48回で、期間中のはっきりしない天気と低温が影響した。第49回も引き続き前年を下回る消費量となり、現在の会場体制になって以来の低い数字となった。

このほか第41回から、協賛行事として「テレビ塔納涼ビヤガーデン」が開催されるようになった。この催しは第47回からは「さっぽろテレビ塔サマースクエア」と名称を変更し、テレビ塔の下で楽しむビヤガーデンは、すっかり夏の風物詩の一つとして定着した。

なお、各ビールメーカーによる売上金の福祉機関への寄付については、例年通りサッポロビール、アサヒビール、キリンビール、サントリー各社に

加え、第45回からは地ビール連絡協議会が加わった。また第49回からは、世界のビール推進会議とテレビ塔サマースクエア実行委員会が加わり、それぞれ福祉機関への寄付を行った。



▲納涼ガーデン開催以来、最高の消費量を記録した第41回

### ●過去10年間のビール消費量～地ビール参加や天候の影響で変動大

過去10年間の『福祉協賛納涼ビヤガーデン』は、新たに地ビールメーカーの参加などもあったが、天候の変動が激しかったことから、消費量も増減を繰り返した。

過去のビール消費量は別表のとおり。

開催年度	消費量(ℓ)	延べ来客数(約)人
第41回(平成6)	347,221	920,000
第42回(平成7)	232,614	618,000
第43回(平成8)	212,323	566,000
第44回(平成9)	254,977	678,000
第45回(平成10)	276,489	736,000
第46回(平成11)	327,935	869,000
第47回(平成12)	313,752	831,000
第48回(平成13)	265,589	714,000
第49回(平成14)	256,007	672,000
第50回(平成15)	255,951	670,000

歴史ある3大まつりに新鮮さをプラス

## 狸まつり・定山溪かっぱまつり・すすきの祭り 進化し、発展し続ける3大まつりの多彩な催し

夏まつりの中でも歴史ある、狸まつり・定山溪かっぱまつり・すすきの祭りは、第40回以降もさまざまな催しを工夫し、また従来の行事内容に改良を加えながら、華やかに開催されていった。

狸まつりは、第41回から第50回を通して、恒例の小路の装飾をほどこして狸小路アーケード全体の雰囲気盛り上げながら、「ナイトバーゲン」「ふるさとまつり2002」「狸みこし」など、商店街らしい趣向をこらした催しが行われた。

定山溪かっぱまつりは、第41回でまつりが30周年になった。これを受けて、従来の「かっぱ大群舞パレード」や「ステージショー」などの恒例行事に加えて、全国のかっぱ村の村民が集めた「かっぱサミット」や、30周年記念特別宿泊割引なども行われた。また翌年の第42回は、定山溪温泉の開湯130年にあたることから、「かっぱ大群舞とよさこいソーラン踊り」「定山溪カラオケグランプリ大会」なども華やかに開催された。

第45回は、新たに「第1回札幌定山溪豊平峡の森トレイルフェスティバル'98」も開催。温泉街では、夜間のコンサートや花火大会などで賑わった。また翌年の第46回は、まつりが35回目を迎えたことを記念して、新たなかっぱ音頭も披露され、第50回の今日に踊り継がれている。

すすきの祭りは、第41回で30回目を迎えたことから、「30万人参加カラオケ大会」や「富籤抽選会」など、新しい行事を盛り込む多彩なプログラム編成となり、期間中は150万人あまりの人出で賑



▲子どもたちも参加してまつりに華を添える（第48回）

わった。第42回から第49回を通しては、絢爛豪華な「花魁道中」や「連合御輿渡御」「ワゴンセール」などの多彩なイベントも繰り広げられ、夜の歓楽街もひととき大きな賑わいをみせた。



▲かっぱまつり30周年を記念して行われた行事（第41回）



▲毎年ススキノのきれいどころから選ばれる花魁も、すっかり夏まつりの顔として定着した（第45回）

創意工夫で時代の変化に対応

## 毎年新しい催しや協賛行事の登場で つねに新鮮な夏まつりの内容を提供

夏まつりを彩る多種多様なまつりや催しは、第41回以降も引き続いた。回ごとに新しく盛り込まれた催しや協賛行事を紹介する。

第41回では、「テレビ塔納涼ピヤガーデン」がまつりの期間中に行われ、涼を求める会社帰りの人びとや観光客で賑わいをみせた。

第42回は、大通西5丁目会場において、「パワーラウンジ」を開催。ステージから流れる心地よいサウンドとレーザー光線、照明による憩いの空間を演出して、DJのステージやカクテルをテーマにしたクイズが行われて、訪れた人々を楽しませた。

第43回は、大通西2丁目において「サポーターズパーク」を開催。この年に誕生したサッカーチーム・コンサドーレ札幌の選手によるサッカー教室やミニサッカー大会などの催しが行われ、子どもやサッカーファンなどで賑わった。

第44回は、北海道を拠点に活躍を続けるプロ・アマミュージシャンが集まって、ホットな野外ステージ「サウンドストリート'97」が開催され、夏の風に吹かれながらのひとときを大勢の聴衆が楽しんだ。

第45回は特に新しい行事は加わらなかったが、ホームページを開設し、全国にまつりを広報し認知度を高める取り組みを行った。

このほか、第46回は「さっぽろ夏まつりフットサル大会」、第47回は「さっぽろテレビ塔サマースクエア2000」、第48回はファッション元気主義イン札幌」などの協賛行事も行われた。

第49回は、恒例の北海盆踊り大会において、「ザ・パレード～大群舞・仮装コンクール」を実施した。これは、前年まで実施されていた「さっぽろ国際フェスティバル」の「熱響舞夏」で催された「大群舞・北海盆踊り」と、恒例の「仮装コン



▲サポーターズパークで催しに参加する子ども(第43回)



▲プロ・アマミュージシャンの演奏を楽しむ観客(第44回)

クール」を同じ日に実施するという試みで、合わせて107チーム、2,775人が参加し、沿道を埋めた67,000人の観客の目を楽しませた。

第50回では、新しく札幌の顔となった上田新市長もパレードの輪に加わり、ミスさっぽろとともに爽やかな浴衣姿で踊りのひとときを楽しんでいた。

#### 50回記念事業の開催

### 夏まつり半世紀を記念し 第50回でさまざまな催しを開催

昭和29年(1954)から始まった「さっぽろ夏まつり」も、平成15年(2003)で第50回を迎え、半世紀を祝うさまざまな記念行事が行われた。

まず、これまでの夏まつりの軌跡を写真で振り返る「50回記念パネル展」が、まつり開催前の7月15日から始まり、8月17日までの間に、地下街や市役所ロビー、地下鉄大通駅コンコースなどで催された。訪れた人々は、パネルの写真を眺めながら、半世紀に及ぶまつりの歴史に触れていた。

また、毎年大勢の踊り手や観客で賑わう北海盆踊り「ザ・パレード」大群舞・仮装コンクールのフィナーレでは、会場に設置されたスクリーン上で、50回の歴史を振り返るスライドショーも催された。

さらに、夏まつり開催期間中に「思い出半世紀ありがとうキャンペーン」と銘打った催しも実施され、50回にちなんだクイズに答えると、抽選で豪華な賞品がもらえるキャンペーンも実施。応募先のキャンペーン事務局には、総勢13,505通の応募があった。



▲あらたな半世紀にむかって歩みだした「さっぽろ夏まつり」(第50回)

夏まつりの多彩な行事に加え、50年を積極的にPRした催しを実施されたことで、札幌市民や観光客らは夏の札幌をひととき印象的に楽しんでいた。

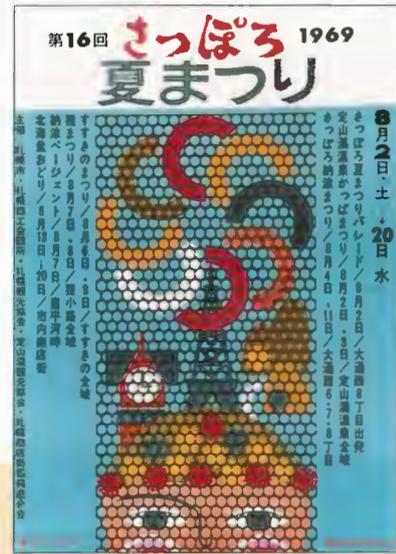
# 資料編

夏まつり ポスターの歴史 .....	62
開催期間と行事内容 .....	65
年 譜 .....	108

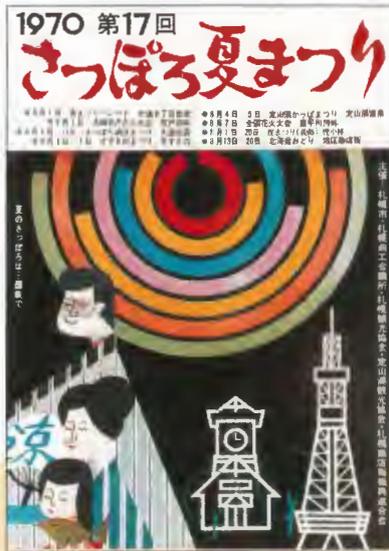
夏まつり  
ポスターの歴史



第15回



第16回



第17回



第18回



第23回



第26回



第34回



第35回



第38回



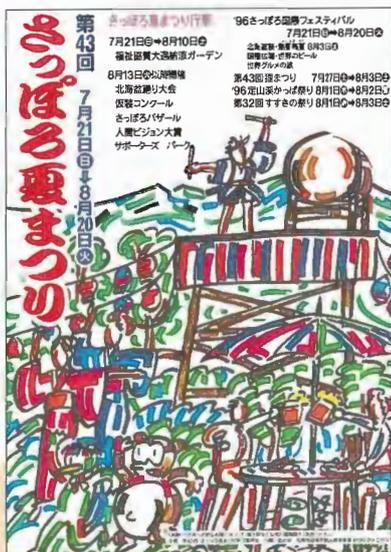
第40回



第41回



第42回



第43回



第44回



第45回



第47回



第50回

## 開催期間と行事内容

### [第1回] 昭和29年(1954)7月17日～8月17日/32日間

#### ■概況

夏の札幌をいろどる札幌市、札幌観光協会主唱の『第1回札幌夏まつり』は17日の中島公園ボート祭りで華やかに幕を開き、午後1時30分から市内商社の宣伝カー、スクーターなど約20台が市内を行進、大通西2丁目広場および中島公園でゆかたとハッピー姿の女給さんたち65名が札幌おどりのメロディーに乗って“盆踊り”を公開、市民の人気を集めていた。なお夏まつりは8月17日まで1ヵ月間開かれ、花火大会、ほたる狩り、七夕祭りなど数々の催しものが繰りひろげられた。

#### ■催しもの

夏まつりパレード(7月17日・市内行進) / ボート祭り(7月17日～8月8日・中島公園) / 全国花火大会(7月18日・豊平河畔) / 子供相撲大会(7月18日・中島児童公園) / 海水浴(7月18日～8月18日・オタネ浜) / 宮城

道雄演奏会(7月20日・中央創成小学校) / 納涼バス(7月20日～8月20日・茨戸) / 第1回夏まつり懸賞写真募集(7月20日～8月31日・市内各催物会場) / ビールの王様コンクール(7月下旬・狸小路ビヤホール) / ほたる狩り(7月24日～26日・円山公園) / 六大学ジャズバンド(7月24日、25日・中島球場) / 舞踊(7月24日・中島児童公園) / 明治デー(7月25日・中島児童公園) / ページェント(7月31日～8月1日・スポーツセンター) / 三つの歌(7月31日・中島児童公園) / 漫才、浪曲、民謡など(8月1日・中島児童公園) / 七夕祭り(8月7日・中島公園) / 森永デー(8月7日・中島児童公園) / バンビデー(8月8日・中島児童公園) / 盆踊り(8月13日～17日・中島公園) / 納涼電車(日時不明・定山溪) / 遊覧飛行(毎土、日曜・市内および郊外)

### [第2回] 昭和30年(1955)8月4日～8月17日/14日間

#### ■概況

新名物の狸まつり2日目の7日は狸小路1丁目特設舞台で『素人のど自慢コンクール』、美人探しなどが行われたが、夜は6日に引き続き狸おどりと行灯行列が町内をねり歩き、さらにこどもたちに提灯とローソクをプレゼント、2,000名の行列を行うなど狸小路は押すな押すなの人波でゴッタ返した。

HBCの七夕まつりもこれと前後して午後6時30分から催され、七夕提灯をぶらさげたこどもの行列が南1条西3丁目のHBC本社前を出発、えんえん長蛇の列をなして中島公園に入り、児童遊園地に特設された舞台で展開されるバラエティ七夕物語など、歌と踊りに楽しい一夜を過ごした。

また中島池では恒例のボートまつりが催され、宝さがし、クイズ大会に続いて午後5時から模型モーターボート競走が行われ、エンジンボートが水しぶきをあげて走り回り、観衆からヤンヤの拍手をうけていた。このほか幌北地区の遊園地では婦人会が主催して七夕まつりが行われるなど、可愛いゆかた姿に提灯をぶらさげた子供たちでどの地区にもぎわった。

#### ■催しもの

夏まつりラジオ体操会(8月4日～17日・中島児童公園) / 伊夜日予神社祭(8月4日～6日・中島公園) / 移動演芸会(8月4日～10日、8月14日～17日・市内各所) / 納涼バス(8月4日～17日・茨戸) / 第9回全道少年野球大会(8月5日、6日・中島球場) / 夏まつり納涼音楽会(8月6日・中島相撲場) / 中島ボート祭り(8月6日～12日・中島公園) / 森永デー(8月6日・中島児童公園) / コロンビア・コンクール(8月6日・中島スポーツセンター) / 狸まつり(8月6日、7日・狸小路) / HBC七夕祭り(8月7日・中島児童公園) / 釣大会(8月7日、13日・中島釣堀) / オトギバナシ行列(8月7日・市内行進) / 明治デー(8月7日・中島児童公園) / 納涼松竹映画大会(8月8日～10日・中島公園) / アバック小町娘さがし(8月8日～10日・中島池) / 日本舞踊(8月8日・中島公園) / 子供相撲大会(8月9日・中島相撲場) / 漫才、浪曲、民謡など(8月9日・中島児童公園) / 花の友の夕べ(8月10日・中島児童公園) / 映画会(8月11日、12日・中島公園) / 全国花火競技大会(8月13日・豊平河畔) / 納涼大会(8月13日～16日・豊平河畔) / 洞爺湖アバック招待夏まつり全市連合大売出し(8月4日～16日・全市)

## 【第3回】 昭和31年（1956）8月4日～8月20日／17日間

### ■概況

市内各校のブラスバンドによるパレードで幕をあげた夏まつりは、連日、各所で多彩な催しものをくりひろげた。小嶋くるみ、白鳥みずえ、楠トシエ、桜井長一郎、松井スイセイらのタレントも続々来札して花を添え、8月16日には公開放送番組に登場、電波に乗って全国へ中継放送された。

会期中「地方からの人出十五万人」（札幌観光協会30年記念誌・年譜）といわれ、各会場とも市民や観光客でにぎわった。

### ■催しもの

音楽吹奏パレード（8月4日・市中行進）／夏まつり納涼バス（8月4日、5日、11日、12日、18日、19日・茨戸）／夏まつりラジオ体操会（8月4日～20日・中島児童公園）／音楽夢クラブ（8月4日・中島中学校講堂）／ボート祭（8月5日・中島池）／舞踊（8月5日・中島公園）／ピン釣競争（8月5日・中島公園）／日本舞踊（8月5日・中島公園）／子供提灯コンクール（8月7日・中島公園特設舞台）／バレエ（8月7日・中島公園特設舞台）／七夕クイズショー（8月7日・中島公園特設舞台）／みこしパレード（8月7日・市中行進）／狸まつり（8月7日・狸小路1丁目～8丁目）／武者行列＝白鬚大神祭（8月7日・市中行進）／子供盆踊り（8月11日～16日・中島公園）／東西コンボ合戦（8月11日・中島公園特設舞台）／大人盆踊り（8月11日～13日・中島公園特

設舞台）／木工品展示会（8月11日～15日・中央創成小学校）／夏のバスガイド（8月12日・中島公園特設舞台）／蝦夷花の歌シリーズ（8月12日・中島公園特設舞台）／花火大会、納涼大会、灯籠流し（8月12日～16日・豊平河畔）／民謡舞踊、民謡カーニバル、大人盆踊り（8月13日・中島公園特設舞台）／地区対抗盆踊り（8月14日・中島公園）／ハワイアンバンド、歌うミス・ミスター（8月14日・中島公園特設舞台）／漫才、双子兄弟素人ものまねコンテスト（8月15日・中島公園特設舞台）／HBCリズムスターズの演奏、仮装盆踊り（8月15日・中島公園特設舞台）／商社歌合戦、商社対抗盆踊り（8月16日・中島公園特設舞台）／印刷文化展（8月17日～20日・中央創成小学校）／夏まつり写真コンクール（8月17日～20日・市内各催物会場）／商店街提灯飾りつけ（8月4日～12日・市内各協賛商社）



▲音楽吹奏パレード（第3回）

## 【第4回】 昭和32年（1957）8月7日～8月16日／10日間

### ■概況

大通公園、豊平川河畔、中島公園の各会場を中心に狸まつり、野外演奏会、観光の夕べ、ボートまつりなど数々のプログラムが繰りひろげられた。今年から新たに時代風俗行列、本道郷土芸能大会、花火大会などが加わり、お祭り気分をいっそうたかめた。

時代風俗行列は大和朝時代から現代までの衣裳の移り変わりを行列をつくって市民に披露、本道郷土芸能大会は美国、札幌をはじめ全道各地からアマチュア芸能人に集ってもらい郷土の民謡や踊りのかずかずを紹介。

花火大会は豊平川河畔を舞台に打ち上げ花火700発、仕掛け花火80発が夏の夜空に打ち上げられた。このなかで本道に初めてお目見えしたのが、延長300メートルにおよぶ大規模な仕掛け花火“大滝”である。これは豊平川を渡る滝の流れの中を大小さまざまな魚が泳ぎ回り、

滝付近に札幌の名所の一つ時計台を浮き彫りにして市民をアツといわせた。

### ■催しもの

狸まつり（8月7日、8日・狸小路）／時代風俗行列（8月7日・市中行進）／子供提灯コンクール（8月7日・大通西2丁目広場）／道新こどもの夕べ（8月8日・大通西2丁目広場）／プロムナード・コンサート（8月9日・大通西2丁目広場）／映画会（8月9日・大通西2丁目広場）／北海道郷土芸能大会（8月10日・大通西2丁目広場）／野外演奏会（8月11日・大通西2丁目広場）／観光の夕べ（8月12日・大通西2丁目広場）／ボート祭り（8月13日・中島公園）／納涼ページェント（8月14日・スポーツセンター）／花火大会（8月15日・豊平河畔）／灯籠流し（8月16日・豊平河畔）

## 【第5回】 昭和33年（1958）8月7日～8月10日／4日間

### ■概況

7日の夜はちょうど七夕と札幌夏まつりのふたあけとなつて街は非常にぎわい。繁華街は涼みがてらそぞろ歩きを楽しむゆかた姿の家族連れや牽牛、織女星を気どるアベックなどで埋まり、あちこちで開かれた各種の催し物も大変な盛況、人波とちようちんとネオンの光が街いっぱい広がった夜だった。

午後7時、大通7丁目広場には日の丸舞踊団のかわいい子供たち120人が、すずらんをあしらったそろいのゆかたで勢ぞろいした。市と商工会議所、市観光協会の共催の夏まつりパレードだ。2台の宣伝カーから流れる札幌音頭のメロディーで踊りながらのパレード。南大通5丁目、1丁目など目抜きを通過してテレビ塔で終わったが、これに便乗した映画の宣伝カーなどもゾロゾロ練り歩いて宣伝効果満点。

狸小路では1丁目、6丁目の特設舞台で歌謡コンクール、舞踊などが行われて両方とも身動きできぬほど。7時過ぎ、恒例のあんどんパレードが行われ、商店主や使用人たちがねじりはちまき、ゆかた姿で威勢よく踊りまくった。このころの人出は最高、交通整理に当たったポイスカウトたちが懸命になって人波を支えていた。

### ■催しもの

郷土時代風俗行列（8月7日・市中行進）／狸まつり（8月7日、8日・狸小路）／松前神楽、民謡ほか（8月7日・観光センター）／夏まつり夜のパレード（8月7日・市中行進）／駒おどり、民謡ほか（8月8日・観光センター）／夏まつり芸能祭（8月9日・観光センター）／夏まつり市民レクリエーション大会（8月10日・観光センター）

## 【第6回】 昭和34年（1959）8月1日～8月9日／9日間 ※この回から『さっぽろ商工夏まつり』と改称。

### ■概況

仕掛け花火60余り、打ち上げ花火1,500発が夏の夜空をけんらんといろどる豊平河畔の納涼ページェントで幕をあけた。

動物園の愛きょう者が珍芸を披露する『動物園まつり』、夏向きのデラックス・ショー『氷の即席彫刻会』、まつりに彩りをそえる『市内有名ジャズバンド競演』、涼を呼ぶ藻岩山ろくの『民謡踊り』などの多彩な新企画をおりこみ、会期中、市内は夏まつり一色に塗りつぶされた。圧巻は7日のパレードで、道警、札商、経済高、光星高のプラスバンドを先頭に、総勢70人の仮装パレード、60人の札幌音頭の列が続き、約2時間にわたって市内を行進した。

とくに仮装パレードは白鬚神社の七福神手古舞いをはじめ、会津の白虎隊、札幌詩武館の剣舞などが加わって華やかな雰囲気盛りあげ、最後は趣向をこらして美しく装飾した50台の自動車隊がつらなり、市民や観光客を魅了した。

### ■催しもの

〔1日〕／納涼ページェント（豊平河畔）／市内有名ジャズバンド競演（テレビ塔下）

〔2日〕／動物園まつり（動物園）／氷の即席彫刻会（テレビ塔下）／商社対抗歌謡合戦（テレビ塔下）／涼を呼ぶ藻岩山麓の民謡踊り（ロープウェー園地）

〔3日〕／道警吹奏楽（大通8丁目特設舞台）／腹話術

（大通8丁目特設舞台）／お好み芸能大会（大通8丁目特設舞台）／商工夏まつり素人のど自慢大会予選（テレビ塔下）

〔4日〕／光星高校吹奏楽（大通8丁目特設舞台）／郷土民謡の夕べ（大通8丁目特設舞台）／全国民謡踊り大会（大通8丁目特設舞台）／商工夏まつり素人のど自慢大会決選（テレビ塔下）

〔5日〕／札商高校吹奏楽（大通8丁目特設舞台）／腹話術（大通8丁目特設舞台）／全国民謡大会（大通8丁目特設舞台）／郷土花形歌手ヒットパレード（テレビ塔下）／市民合唱の夕べ（テレビ塔下）

〔6日〕／経済高校吹奏楽（大通8丁目特設舞台）／郷土花形歌手ヒットパレード（大通8丁目特設舞台）／全国民謡と踊りの夕べ（テレビ塔下）

〔7日〕／商工夏まつりパレード（市中行進）／七夕子供納涼大会（大通8丁目特設舞台）／動物ショーと奇術（テレビ塔下）／納涼子供の集い（テレビ塔下）／狸まつり（狸小路）

〔8日〕／撮影会（大通4丁目～8丁目）／吹奏楽（大通8丁目特設舞台）／白虎隊90周年追悼剣舞大会（大通8丁目特設舞台）／NHK納涼大会（大通8丁目特設舞台）／素人民謡コンクール（テレビ塔下）／狸まつり（狸小路）

〔9日〕／動物園まつり（動物園）／第2回タイムスマラソン／映画主題歌コンクール（テレビ塔下）／商工夏ま

つり市民レクリエーションの夕べ（大通8丁目特設舞台）

■おたのしみセール（会期中）

ピヤガーデン（大通6丁目）／納涼市（金魚、植木、小鳥、骨とう品など・大通7丁目）／特選品ショー（土産

品、特選品、中元物・大通7丁目）／北海道の清酒展示試飲会（大通7丁目）／バーゲンセール（特価品、見切品など・大通8丁目）

【第7回】 昭和35年（1960）8月1日～8月8日／8日間

■概況

大通りの会場には80本の“ぼんぼり”が淡い灯をともし、7丁目の植木市や金魚すくいの出店が並んだ。

8丁目には特設舞台が設けられ、午後6時過ぎの自衛隊吹奏楽で催しの幕があいた。ついで舞台上にくり広げられた放送芸能大会のもようは、8丁目広場の2カ所に特設されたカラーテレビに受像。札幌ではまだ珍しいだけに人気は上々だった。

狸小路の名物“狸まつり”の前夜祭では、みこしを先頭に“ワッショイ、ワッショイ”かけ声勇ましく、ハッピー姿の若い衆が練り歩き、続いて各商店が思い思いに趣向をこらしたあんどんパレード。一目見ようという人垣はみるみるふくれあがって、行進はあちこちで立ち往生。秋田の竿（カン）頭をまねたものやら、PRも兼ねた竜の踊りなどもあって、1丁目から8丁目までぎっしりうずめた観衆は大喜び。楽しい“狸まつり”は夜遅くま

で、笑いをふりまいた。

大通公園の8丁目では夏まつりが最高潮。かわいい子供パレエが特設舞台いっぱいには飛んだり、はねたり。そのたびに芝生をうずめた3,000人余の市民たちから盛んな拍手がまきおこった。

■催しもの

大通西1丁目～西8丁目、地区商店街、動物園、円山公園、中島公園、ロープウェー園地、豊平河畔などを会場に、納涼ページェント、狸まつり、芸能ショー、動物園まつり、日米子供大会など多彩な催しものをおこなった。

■おたのしみセール（会期中）

夏まつりショー（札幌名産品展示即売会など・大通西7丁目）、納涼市（大通西7丁目）、ピヤガーデン・アイスクリームガーデン（大通西6丁目）など。

【第8回】 昭和36年（1961）8月1日～8月8日／8日間

■概況

200余りのぼんぼりにいろどられた主会場の大通公園では、夕方6時、8丁目の特設舞台でバラエティー演芸大会、パレエ、ギター演奏などが3時間たっぷり続いて、夕涼みがてら出かけた市民を楽しませた。

東隣の7丁目には40基の水銀灯照明展の明りを受けて納涼園芸市が並び、もう一つ東側の6丁目にはピヤ・ガーデン、クリーム・ガーデンが店開きしていた。

東端のテレビ塔でも、フロアを舞台に納涼演芸大会が開かれ、ひぎやかに夏まつりの一日目をかざった。

■催しもの（大通西8丁目特設舞台）

バラエティー演芸大会（1日）／古典曲芸と大神楽獅子舞公演（2日）／お好み演芸大会（3日）／マジックジャグラーショー（4日）／全国民謡踊りの夕べ（5日）／北酒販納涼のど自慢大会（6日）／森永子供七夕大会（7日）／道産スイカまつり（8日）

■おたのしみセール（会期中）

納涼市（大通西7丁目）／夏まつりセール（大通西7丁目）／ピヤガーデン、アイスクリームガーデン（大通西6丁目）

■協賛行事

テレビ塔納涼演芸大会（1日～8日・テレビ塔）／水銀灯による新しい照明展（1日～8日・大通西7丁目）／商店街パレード、野外映画会（1日～8日・市内各地区商店街）／さっぽろ物産まつり（1日～6日・㊥今井デパート）／円山動物園まつり（3日、6日・円山動物園）／第3回月寒公園まつり（4日～6日・月寒公園）／定山溪温泉夏まつり（5日、6日・二見公園）／ロープウェー納涼まつり（6日・ロープウェイ園地）／狸まつり（7日、8日・狸小路）



▲納涼大会のようす（第8回）

## [第9回] 昭和37年(1962)8月4日(前夜祭)～8月13日/10日間

4日午後1時、前夜祭パレードがスタートし、夏まつりの幕をあけた。台風がもたらした雨もカラリと上がり、パレードは午後1時に南6条西9丁目の北酒造前と北1条西5丁目のHBC会館前から出発。バトン・ガールが先導したブラスバンドや鼓笛隊など、参加した総勢は両方合わせて500人、それに市内商工業者の自動車約50台がつけられた。5日は午後6時から大通り西8の特設舞台で開会式、引き続き『爆笑バラエティーショー』が上演される

ほか、毎日午後6時から市内の商社提供の各種演芸が披露された。

またHBCの納涼大会も11日から3日間、大通会場で開かれ、夏まつりに色どりをそえ、納涼市、夏まつりセール、ピヤガーデン、野外生け花展など催しいっぱい。狸小路商店街も7、8日の2日間『狸まつり』を開催、にぎわいを盛り上げた。

## [第10回] 昭和38年(1963)8月3日～8月17日/15日間

「さっぽろ商工夏まつり」は今年で10回目。年々華やかさを増し、主催の市、市商工会議所、市商店街振興連などは予算を昨年より20万円も多い100万円を計上するほど。会期も、2週間に延ばして、3日の前夜祭から17日まで、大通8丁目舞台を中心に盛りだくさんの行事が繰りひろげられた。

これまで『どうも郷土色が生かされていない』との批判があったため、ぐっと趣向を変え、後半の12日～16日まで各種の盆踊り大会を並べた。まず12日は今井篁山さんの指導で、市民を集め盆踊り指導大会。13日は名士盆踊り大会、14日には施設の子供たちを招いて子供盆踊り

大会を催した。さらに15日は民謡のど自慢盆踊り大会、16日仮装盆踊り大会と続けて、お盆の人出を大通会場に呼び込もうというプランが立てられた。これらも各種行事を通し、前年の倍以上、60万人を動員しようと計画された。

会場の大通3丁目から8丁目まではすでに約1,300個の美しいちょうちんが飾られ、8カ所に豪華なアーチ、4カ所に塔が立てられた。舞台のある8丁目広場には生け花展示場、クリームコーナーが置かれ、6、7丁目にもピヤガーデン、納涼市、物産展示場、納涼園芸市が店開きした。

## [第11回] 昭和39年(1964)8月7日～8月12日/6日間 ※この回から『さっぽろ夏まつり』と改称。

### ■概況

新しい名称となった「さっぽろ夏まつり」は、7日から12日までの6日間、大通6丁目～8丁目で開催された。第11回は札幌の特産品の一つ、ビールと乳製品を中心に行事を催し、夏の景気を盛り上げた。会場は大通西6丁目～8丁目、6丁目はサッポロビールと雪印乳業、7丁目は麒麟ビール、8丁目はアサヒビールと森永乳業が担当、それぞれ大きなピヤガーデンや乳製品の売り場を特設、郷土の味を大々的に売り出そうというねらい。7日目では植木や盆栽を並べた納涼市も開かれた。

初日の7日には納涼ページェント、全国花火コンクールも豊平河畔で開催された。狸まつりは7、8の両日、それ

に先がけて全商店街を飾りつけ、1日から3日までは納涼市も開催。装飾は平塚、仙台のたなばた祭りに倣ったものだが、各丁目が思い思いのアイデアをこらした傑作ぞろい。“漫画の国”から海の底を模した“海底のロマンス”などさまざま。7、8の両日の本まつりには、舞踊パレードやたるみこしも繰り出し、はなやかな夏の風物詩をかなでた。

### ■催しもの

雪印子供花火まつり(7日)／北海盆踊り大会(8日～10日)／海上自衛隊吹奏楽演奏会(10日)／ハワイアン夕べ(11日)／北海道民謡大会(12日)／納涼花火まつり(12日)／狸まつり(7日、8日・狸小路)

## [第12回] 昭和40年（1965）8月6日～8月12日／7日間

### ■概況

ことしから“雪まつり”に並ぶ名物にするため、いままでの“北海盆おどり”“狸まつり”に新しく“定山溪温泉かっぱ祭り”“すすきの祭り”を加えて大型化をはかっただけに催しはぐんと充実。大通会場では12日まで、他会場は9日までにぎやかに行事を繰り広げた。

初日の見ものはなんとといってもエルムカーニバル。これには各会場の踊り手のほか市民仮装団も参加。1,000人からなる大パレードが繁華街へ繰りだした。これに続いて大通西8丁目で午後6時30分からキャンプソングを歌う会、北海盆踊り大会が開かれた。

札幌の夏を象徴する“エルム”になぞられたエルム・カーニバルは夏まつりのメインイベント。昨年まで、盆踊りをおもな行事としてひっそり行ってきた夏まつりに定山溪、薄野、狸小路の三まつりを加え、札幌の夏の名物として全国的に売り出すことにしたもののだが、いずれも思い切って予算をつぎ込んだだけに予想以上のできばえ。

パレードのトップを切った定山溪かっぱ祭り団の先頭は珍妙なかっぱ大王のみこし。ついで定山溪の芸者さんたちがそろいのゆかた姿で“かっぱ音頭”に合わせてかっぱ踊りを披露。ついで狸まつり団が子供みこし、女みこしで景気をつけ、かわいい女の子たちが狸おどりを楽しそうに踊り続けた。

従来の夏まつりを代表する“北海盆踊り団”が3番手で笛や太鼓のはやしにもぎやかに“エンヤコラヤ”と盆踊りをみせた。しんがりは薄野地区のホステスさんたちで構成した“すすきの祭り団”。そろいのゆかたに赤いけだしというなまめかしい姿で“すすきの音頭”に合わせて踊った。このほか仮装自動車なども参加。パレードは大通西8～拓銀前（現北洋銀行中央支店）～薄野十字街～南6西4間で1時間30分余りも繰り広げられた。沿道を埋めた市民や観光客たちからは「こんなに楽しいふん

いきとは知らなかった」と大がかりなパレードに感嘆。外人観光客も「ワンドフル」と手をたたいて喜んでいった。

この祭りに先立って定山溪では二見橋上流のよどみを“かっぱヶ淵”と名づけて午後1時から入魂式を行い、定山溪小・中の児童・生徒が温泉街をパレードして初のかっぱ祭りの開幕を祝った。また午後3時から全町かっぱパレード、夜は8時から定山溪あげてかっぱ群舞を全町で繰り広げた。

一方、大通会場でも盆踊りが夜おそくまで続き、薄野会場でも負けじとグリーンビル前に特設舞台を設け、内海突破らの司会で午後6時からホステスらの踊り、ピール早飲みコンクール、韓国親善舞踏ショー、伊藤久男歌謡ショーなどを開催、初のすすきの祭りを盛り上げる。

また狸小路商店街は1丁目創成川河畔を会場に7日午後5時から舞楽、狸おどりばやしを、8日は子供みこしなどで景気をつける。このほか7日、8日は薄野会場で薄野美人コンテスト、定山溪会場でもかっぱパレードや群舞、アトラクションを実施。大通会場では12日まで市民盆踊り、のど自慢、仮装盆踊りなどを連日繰り広げた。

### ■会場の構成

原則として大通6丁目～8丁目とし、水銀灯、提灯、ボンボリ、流水、舞台を設置し、水と花と光を強調した。

## [第13回] 昭和41年（1966）8月6日～8月12日／7日間

初日の呼びものはエルムカーニバル。そろいのゆかた姿の踊り手約千人が群舞する大パレードに沿道から拍手がわき、この日から大通公園には約1,500のちょうちんがいっせいに点火され、まつり気分をかきたてた。

西8丁目での全道フォークダンス大会に若者たちがどっと集い、全国花火コンクール、定山溪のかっぱ大群舞とどこも夜おそくまで夏まつりを憩う人たちでにぎわった。

すすきのまつり会場の南4西3特設舞台では午後5時30分からショーのふたあけ。すすきの音頭を舞う芸者連、日劇ミュージックホールの踊り、特別出演の九条万里子（コロムビア専属）の歌、ボードビルショーと、さながらナイトクラブをそっくりステージに移したような雰囲気。夜の料飲街をゆきかう人たちで黒山の人だかりとなり、9時すぎにショーが終わるまで車は通行禁止となるにぎわいとなった。最後に120人の応募者からえり抜か

れた27人のホステスによる美人コンテストが開かれ、水着姿の美女たちに拍手がわいた。

一方、狸小路では日中、子供みこしがねり歩き、夜は狸パレードが男女のみこしをともなって8丁目から1丁目へと行進、買い物客を楽しませた。

一方“里親ホーム”の運営資金を生み出すため、心の里親会が6日から12日まで大通西6の広場で開いているビヤガーデンは連日大はやり。

夕涼みがてらに勤め帰りのサラリーマンたちが“グイッ”とノドを潤してホームの資金に協力した。サービスはすべて同会会員のママさんたちだが、慣れない手つきがまたあいきょうを添えていた。益金はすべて施設を卒業した家庭のない子供たちの“愛のホーム”になっている里親ホームの運営に当てられた。

夏まつり期間中はまずまずの日よりに恵まれ、6日からの人出は道新納涼ページェント花火大会の30万人をトップに狸小路、薄野、定山溪と主会場の大通西6丁目～10丁目を合わせて、この7日間で約102万人（夏まつり実行委発表）。これは前年の11%増。

この夏まつりに先立って、5日からは初の全市景品つき大売り出し“商工まつり”がスタート。中元の買い物はぜひ当店でと客足を呼んだ。この商工まつりは14日まで大売り出しが続けられた。



▲祭りを賑わすエルムカーニバル（第13回）

## [第14回] 昭和42年（1967）8月5日～8月12日／8日間

### ■概況

大通を主会場とし、各地域においてそれぞれ各関係者の協力を得て開催したが、前回まで実施したエルムカーニバルは交通規制などの関係から各まつりの賛同が得られなかったため取り止めた。したがって開会式を実施しないため、まつりの前哨戦としては盛況さがなかったが、連日晴天に恵まれ気温があがってくるにつれて次第に人出が増し、盛大裡に終了した。

### ■実施行事

#### ○大通西6丁目会場（期間中）

アサヒビール、コカコーラの2社が出店したビヤガーデンは、連日盛夏の暑さで夕涼みを楽しむ市民や観光客でにぎわいをみせた。

#### ○大通西7丁目（会期中）

キリンビール、サッポロビール、雪印コーナー、納涼園芸市、また、12日は花卉・野菜品評会、山口西瓜即売会などがあり盛況だった。

#### ○大通西8丁目会場

##### ① 定山溪温泉かっぱ踊り（5日）

4日の前夜祭で幕を開けた定山溪温泉かっぱまつりを宣伝するため正午から特設舞台で、九州5地区から参加した『かっぱ娘』とともにかっぱ踊りを披露した。

##### ② 子供パレエ（6日・8日～12日）

毎日午後2時から特設舞台において6団体が交替で子

供パレエを上演し、親子連れの拍手をあびた。

##### ③ フォークダンス市民パーティー（5日）

午後6時から催され、多くの市民が参加して盛況であった。

##### ④ 子供盆踊り（6日～12日）

午後4時から7時まで『パーマン子供大会』を開いた。最近のブームを反映して親子連れに大好評だった。

##### ⑤ 夏まつり盆踊り（6日～8日）

午後7時から9時まで東西南北音頭や北海道民のうた『北海ばやし』を主体とした盆踊りが催され、夕涼みの市民や観光客で賑わった。



▲音楽演奏を楽しむ人びと（第14回）

## ⑥ 北海道盆踊り大会 (9日～12日)

午後7時から9時まで北海道盆踊り大会が催された。北海道古来の盆踊りであり、だれもが親しみ踊れるため連日大盛況であった。

## ○狸まつり (7日・8日)

狸小路で『子供みこし渡御』『装飾コンクール』『狸まつりパレード』などが催され連日人波がつづいた。

## ○すすきのまつり (7日～9日)

すすきの全域にわたって多彩な催しがおこなわれ、連日にぎわった。

## ○定山溪温泉かっぱまつり (4日～6日)

定山溪温泉全町で、九州5地区から参加した九州かっぱをまじえての大群舞をくりひろげるとともに、特設舞台では楽しい催しものが繰りひろげられ大盛況であった。

## ○さっぽろ商工まつり (会期中)

2日の大売り出しにはじまった商工まつりは、10日から16日までの7日間、地区盆踊り大会を市内11ヵ所で開催し、各地区で好評を博し盛況であった。また、車両パレードも人気をあつめた。

## ○協賛行事

- ① 道新花火大会
- ② HBC全国音楽ライトミュージック札幌予選

## ■広報宣伝

ポスター 1,000枚／車内吊りポスター 1,000枚／プログラム 10,000枚

## ■推定延観客数 (千人)

大通納涼まつり 300／定山溪かっぱまつり 80／狸まつり 300／すすきのまつり 100／道新花火大会 300／さっぽろ商工まつり 50／合計 1,130 (前回1,020／前回比11%増)

## [第15回] 昭和43年 (1968) 8月3日～8月20日／18日間

## ■概況

各地域における“まつり”は年とともに市民や観光客になじみ、また、今年には北海道百年、札幌市創建百年を慶祝して実施したため大きな盛りあがりを見せた。

初日、雨の中でスタートしたが、天候が回復するにしたがって人出が増し、盛況裡に終了することができた。

## ■実施行事

## ○さっぽろ夏まつりパレード (3日)

小雨のなか横断幕を先頭に大通西6丁目広場を出発、すすきの中心街まで勇壮なマーチをかなでながら練りだした。道警本部、自衛隊、経済高校のプラスバンド、小樽商高校のバトンガールなど総勢200人と、かっぱ、狸、すすきの、味覚まつりごとに装飾をこらした自動車をつらねた華やかな行進が行われた。

## ○さっぽろ味覚まつり (4日～11日)

大通西5、6丁目広場を主会場とし、ピヤガーデンやクリームガーデンを開いた。今回は会場の都合で、昨年にくらべ規模を縮小した。

## ○狸まつり (7日・8日/装飾期間=1日～20日)

子供みこし渡御、装飾コンクール、狸小路大パレードなどが催され連日にぎわった。

## ○すすきのまつり (7日～9日/装飾期間=3日～9日)

有名芸能人のショーをはじめ、すすきの全域で多彩

な催しがくりひろげられ連日大盛況であった。

## ○定山溪温泉かっぱまつり (3日・4日)

初日は豪雨に見舞われたが、小降りになるにつれてかっぱ仮装コンクール、かっぱ踊り大群舞、芸能人による歌謡ショーなど、定鉄駅前の特設舞台では楽しいプログラムがくりひろげられた。

## ○北海盆おどり (13日～20日)

22地区でひらかれ、各地区ともそれぞれ趣向をこらして催された。午後6時から8時までは子供盆おどり、8時から10時までは大人の盆おどりがおこなわれた。

## ○納涼ページェント (7日)

七夕の夜、豊平河畔 (南大橋－豊平橋の兩岸) で、全国15社の珠玉の作品が次つぎと打ち上げられた。かつてないスケールの花火大会で、夏の夜空をいろどる華麗な光の供宴を楽しむ市民や観光客を魅了した。

## ■広報宣伝

ポスター 1,000枚／プログラム 10,000枚／ボンボリ 51本

## ■推定延観客数 (千人)

味覚まつり 300／狸まつり 300／すすきのまつり 110／定山溪温泉かっぱまつり 80／北海盆おどり 70／納涼ページェント 300／合計 1,160 (前回1,130／前回比2.7%増)

## [第16回] 昭和44年(1969)8月2日～8月20日/19日間

### ■実施行事

#### ○さっぽろ夏まつりパレード(2日)

さっぽろ夏まつりを告げる吹奏楽パレードは午後5時、大通西8丁目広場を出発、北大通を西2丁目まで東進、南大通を経て駅前通を南6条まで南進、札幌中心街を行進した。バトンガール(小樽昭和高校)を先頭に小樽工業高校、札幌市消防局、高橋水産、札幌経済高校のプラスバンドなど総勢200人と装飾した自動車がつらなり、沿道の市民や観光客の眼をうばった。

#### ○納涼まつり(4日～11日)

大通西6丁目～8丁目広場を主会場として実施した。ビヤガーデンをはじめ出店はいずれも家族連れや観光客でにぎわった。大通8丁目広場中央の特設舞台では、歌や踊りなどのショーが期間中くりひろげられた。

#### ○狸まつり(7日・8日/装飾期間=1日～20日)

1日から狸小路のアーケードを飾って買物客を楽しませ、本まつりの初日は、午後2時からハッピー姿の子供みこしが狸小路をねり歩き、まつり気分を盛りあげた。午後7時からはきれいどころの踊り手や仮装した狸小路商店街役員を先頭に、“狸小路音頭”によるユーモラスなタヌキの舞いなど400人近い狸まつりパレードがねり歩いた。

#### ○すすきのまつり(6日～8日)

ネオン街の真ん中(南4西4)に設けられた特設舞台上で、“すすきの音頭”“さっぽろ音頭”の踊りでふたをあけ、連日、有名芸能人のショー、素人のど自慢コンクール、ビール早飲みコンクールなどが催された。

#### ○定山溪温泉かっぱまつり(2日・3日)

初日、定山溪小学校の鼓笛隊パレードで幕をあけ、引き続き二見公園のかっぱぶちでシンボルの“かっぱ大王像”の除幕式がおこなわれた。また、連日かっぱ

踊り大群舞、かっぱ仮装コンクールなど多彩な催しがあった。

#### ○北海盆おどり(13日～20日)

市内17地区で催され、20日の最終日には、各地区の代表が大通西8丁目広場中央の特設舞台上で盆おどりコンクールがひらかれた。

#### ○納涼ページェント(7日)

豊平河畔で午後7時45分、第1部のダイナミックショーで幕をあけた。第2部は午後8時から全国有名花火店15社による10発1組の早打ち、つづいて第3部グランドショーのフィナーレまで合計3500発が打ち上げられた。

### ■広報宣伝

ポスター 1,000枚/プログラム 10,000枚/ボンボリ 85個/提灯 1,650個

### ■推定延観客数

納涼まつり 300/狸まつり 300/すすきのまつり 115/定山溪温泉かっぱまつり 80/北海盆おどり 75/納涼ページェント 300/合計 1,170(前回1,160/前年比0.86%増)



▲すすきの祭りのイベント風景(第16回)

## [第17回] 昭和45年(1970)8月1日～8月20日/20日間

### ■概況

薄野百年を記念した『すすきのまつり』を中心に、夏まつりパレード、水郷茨戸花火大会、さっぽろ納涼まつり、狸まつり、定山溪温泉かっぱまつり、全国花火大会、北海盆おどりと盛りだくさんのプログラムが準備された。

### ■実施行事

#### ○さっぽろ夏まつりパレード(1日)

午後4時30分、大通西8丁目広場を出発、市内目抜き

通りを歩いて南6条西2丁目の中央寺で解散。各行事代表者が乗ったマイクロバスの前後に、小樽昭和女子高校のバトンガール、道警、経済高校、光星高校、札幌高校、消防局の各プラスバンド、さらに花の女王、すずらん娘の乗ったオープンカーが続いた。

#### ○すすきのまつり(1日～3日)

1日は前夜祭。パークホテルで畠山みどり、神戸一郎、薩めぐみらが歌った。2、3日は南5条西3丁目まで道産清酒PR試飲会。3日夕は、ホステスら250人が午

後5時30分からすすきの音頭を踊りながら薄野一円を巡り、このあと同6時30分、島原から招いたおいらん道中の一行50人が南5条通りと駅前通りを練り歩いた。5～7日は南4条西3丁目、グリーンビル前の特設舞台で、キャバレー提供のショー、しろうとのど自慢大会、ビール早飲みコンクール、水着の女王コンテストなどが行われた。

#### ○水郷茨戸花火大会 (1日)

午後7時30分から1時間、北郊の茨戸湖畔で、3,500発を打ち上げ。

#### ○さっぽろ納涼まつり (1日～11日)

大通西6～8丁目をちょうちんとぼんぼりで飾り、露店やピヤガーデン、クリームコーナーなどが店開き。西8丁目の舞台では、午後8時までプラスバンド、軽音楽、ハワイアンバンドの演奏、舞踊など。そのあとは恒例の盆踊り。

#### ○狸まつり (6日～8日)

1日から20日まで狸小路いっぱい豪華なデコレーションで飾り、6～8日は安売り大会。

#### ○定山溪温泉かっぱまつり (4日、5日)

4日午後2時、温泉街の南端、二見公園の豊平川かっぱ淵で幕あけの儀式。このあと、旧定山溪駅前の特設

会場でフォークダンスのつどい、全国民謡舞踊発表会、爆笑歌謡浪曲舞踊大会。午後9時から約1,000人のかっぱ踊りが温泉街一帯を群舞した。5日も午後2時から特設会場でアトラクションが続き、かっぱ淵の“溪谷花火ショー”で締めくくった。

#### ○全国花火大会 (7日)

午後7時45分から約1時間、南九条大橋と幌平橋の間の豊平川河畔で3,500発を打ち上げた。

#### ○北海盆おどり (13日～20日)

おなじみの民謡曲にのせて、市内約20カ所の商店街で踊りの輪をつくった。



▲パレード風景 (第17回)

## 【第18回】、昭和46年 (1971) 8月1日～8月20日/20日間

### ■概況

今回は好天に恵まれ、各会場とも夏まつりにふさわしい賑わいをみせた。とくに、今回はオリンピック音頭パレード、趣味の市などの新しい企画を積極的にとりいれ、市民参加の催しとした結果、非常な好評を受け、成功裡に終了することができた。

### ■実施行事

#### ○オリンピック音頭パレード (31日)

さっぽろ夏まつりの開催を告げるデモンストレーションとしておこなわれ、午後4時、大通西8丁目広場を出発、すすきのまでねり歩いた。パレードは新しい試みで、オリンピック模様の揃いのゆかたで装った1,000人を超える市婦人団体連絡協議会の婦人たちが、オリンピック音頭を踊りながら繁華街をねり歩いた。

#### ○全国花火大会 (31日)

午後7時45分から豊平川の河畔でおこなわれた。澄みきった夏の夜空に次つぎに打ち上げられる3千数百発の花火や“冬季五輪の花ジャンプ競技”をかたどった仕掛け花火も打ち上げられた。

#### ○納涼まつり (1日～11日)

大通西6、7、8丁目広場を主会場にして開催された。

とくに、大通西8丁目広場に大規模な特設舞台をもうけ、連日有名タレントのショーや楽しい催し物がおこなわれた。

#### ○狸まつり/装飾コンクール (1日～20日)

今回は装飾コンクールのみにとどまったが、札幌オリンピックを控え、オリンピックや北海道をテーマに趣向をこらした装飾が狸小路全域を彩った。

#### ○定山溪温泉かっぱまつり (4日、5日)

定山溪温泉郷を“かっぱ提灯”で華やかに装飾し、“かっぱ踊り大行進”“溪谷花火ショー”など多彩な催し物をおこない、定山溪温泉全域がにぎわった。

#### ○すすきのまつり (5日～7日)

メインステージをグリーンビル前の特設舞台におき、歌謡ショーなど各種の催しがおこなわれ、夜のすすきのに繰り出したサラリーマンや若いカップルなどで夜遅くまでにぎわった。

#### ○納涼ページェント (7日)

午後7時45分から豊平河畔で催され“伸びゆく札幌希望の賛歌”“札幌オリンピックを成功させよう”をテーマに、スターメイン、早打ち、仕掛けなど夏の夜空にくりひろげられる光と音の供宴に、会場の堤防を

埋めた浴衣がけの家族連れや若いグループなど心ゆくまで堪能した。

#### ○北海盆おどり (13日～20日)

市内14ヵ所で開催され、各地区毎にそれぞれ趣向をこらして盛大におこない、夏の夜を楽しむ市民で賑わった。最終日の20日には、大通西8丁目広場に各地区の代表が集まり、仮装による盆おどり決戦大会をおこない競演した。

#### ○趣味の市 (5日～8日)

新しい企画で、大通西7丁目北側並木沿でおこなわれた。市民の手による詩情豊かな緑日風の趣味の市で、夏まつりの風情をたかめる盆栽、盆石、植木などが市民や観光客を楽しませた。

#### ■広報宣伝

夏まつりポスター 1,000枚／プログラム 10,000枚／ボンボン 91個／提灯 2,270個

#### ■推定延観客数 (千人)

オリンピック音頭パレード 30／全国花火大会 250／納涼まつり 400／狸まつり 250／定山溪温泉かっぱまつり 50／すすきのまつり 150／納涼ページェント 200／北海盆おどり 100／合計 1,430 (前回 1,200/前年比11.9%増)



▲盆踊りの賑わい (第18回)

## [第19回] 昭和47年 (1972) 7月29日～8月20日／23日間

#### ■催しもの

オープニングパレード (7月29日)／狸まつり (7月29日～8月20日)／定山溪かっぱまつり (8月4日、5日)／すすきのまつり (8月5日～7日)／納涼ページェント (8月7日)／北海盆踊り (8月13日～20日)

#### ■概況

オープニングパレードが薄野をスタートしたのは午後3時。そろいのゆかたの札幌音頭手踊り、バトンガール、そして札幌の姉妹都市、アメリカ・ポートランド市の“バラの女王”メリー・アン・マツニー嬢 (17) とミス札幌、準ミスさっぽろが飾りつけた車上から愛きょうをふりまく。

総勢約2,000人。駅前通りを大通公園へと南下したが、人気はやっぱりバラの女王。沿道を埋めた人々から拍手がわき『すてきだわっ』と嘆声がわく。メリ嬢もクイーンの王冠をかぶり、手を振って投げキッスでこれにこたえ、また歓声。

メイン会場の大通公園は色とりどりのパラソルがパツと開いた。清涼飲料やビールをこの陰で味わってもらおうという。ちょうど土曜日の午後、しかも好天に恵まれ、親子連れ、勤め帰りのサラリーマン、カニ族たちで大変なにぎわい。中でも6丁目広場に陣取った心の里親会のピヤガーデンは、ことし10回目という“のれん”と「恵まれな子供たちに益金を」というキャッチフレーズに賛同者が多く、午後から宵にかけてほぼ満席。とくにカニ族たちは『いいときに札幌に来た』と、ジョッキを傾け、緑陰の風情を楽しんでいた。

このところ大型デパートや地下商店街に押され気味の狸小路も『夏まつりは不景気風を吹き飛ばす絶好のチャンス』と、アーケードの下に名物のたなばた飾りを下げて満艦飾。午後4時過ぎからは西5、6丁目にウスが持ち出され、若い衆がねじりハチ巻きでもちつき。『景気づけですよ』と、つきたてのもちを買い物客に配り、人だかりの輪を広げていた。(北海道新聞=昭和47年 (1972) 7月30日)



▲姉妹都市ポートランド市の「バラの女王」も参加したオープニングパレード (第19回)

## [第20回] 昭和48年（1973）8月4日～20日／17日間

### ■概況

従来の会期（24日間）を一週間短縮して17日間とし、行事内容を充実させた。また、名実ともに市民の夏まつりとするため、チビッ子からお年寄りまで気軽に楽しめるバラエティーにとんだ行事を実施した。

大きな特色としては、日本国内乗り入れの国際線各国航空会社スチュワーデス11名（11カ国）をはじめ、国内航空会社スチュワーデス6名（3社）およびクィーン神戸2名のゲストを迎え、オープニングパレードをはじめ各行事への参加を得て、夏まつりを盛りあげるとともに国際友好親善の成果をあげた。

会場は従来の大通西1丁目～西8丁目に加え、新たに西9丁目も会場とし、提灯400個で装飾して子供連れの家族に憩いの場として開放した。夕暮れ時から提灯照明の下で遊戯施設で楽しむ親子連れでにぎわった。

### ■実施行事

#### ○オープニングセレモニー（4日）

午後1時55分、大通西8丁目特設ステージで、名誉会長・板垣武四札幌市長をはじめ実行委員会会長以下各役員、関係者、オープニングパレード参加団体が参集し、五段雷花火を合図に盛大におこなわれた。

#### ○オープニングパレード（4日）

オープニングセレモニー終了と同時に、五段雷花火を合図に、大通西8丁目に集合した約1500人からなる大パレードが出発した。八軒小学校児童約100名のバトンガールと鼓笛隊を先頭に、約1kmにおよぶ隊列で北大通を東進し駅前通を南6条まで南進した。

#### ○大通り納涼まつり（4日～17日）

約4,000個の提灯で装飾された西1丁目～9丁目を会場とし、1、2丁目は清涼飲料や乳製品コーナー、6、7、8丁目は大ビヤガーデンとして市民や観光客に開放した。西8丁目会場には特設ステージを設け、だれもが気軽に楽しめる数多くの催し物をおこない夕涼みの親子連れや観光客で賑わった。6丁目会場に昔なつかしい縁台将棋コーナーを設けた。

#### ○狸まつり（1日～20日）

誕生以来、今年で百年目を迎えた狸小路商店街全域では近年にない大装飾をし、数々の百年記念行事や多彩な催し物をおこない夏まつりムードをいっそう盛りあげた。狸小路百年記念百万人の夕涼み大会をはじめ、狸おどり行列、狸太鼓公演、納涼狸小路盆踊り大会など連日多彩なプログラムをくりひろげた。

#### ○すすきのまつり（4日～7日）

すすきの本通りの南4条と6条の入口に特大気球をあげ、地区内は提灯、花飾り、カラフルな旗などで賑々しく装飾された。南4条西3丁目の特設ステージでは、連日各種豪華ショー、タレントショーをはじめすすきのファン参加によるビール早飲みコンクール、素人のど自慢大会、ビックボインコンテストなど数多くの楽しい催し物を行った。期間中、午後6時から深夜の1時までの7時間、地区内の歩行者天国、料飲店営業時間の1時間延長、時代考証を吟味したすすきの変遷史村の設置など、いずれも市民や観光客から喜ばれた。

#### ○定山溪温泉かっぱまつり（4日、5日）

かっぱ踊り大群舞パレード、仮装コンクールをはじめ、歩行者天国として実施されたかっぱ天国など数々の催し物に加えて、若者を中心にしたゴーゴー大会など子供から大人まで楽しめる多彩な行事がにぎやかにおこなわれた。また、姉妹提携した神戸市有馬温泉との記念行事もあわせておこなわれ、ミスさっぽろ、クィーン神戸との交歓や慶祝行事は大いに盛り上がりを見せた。

#### ○北海盆おどり大会（13日～20日）

市内26カ所で慣例の北海盆おどり大会を催した。17日予定していた大通8丁目での仮装盆おどりコンクールはあいにくの雨天のため中止となり、また18日も雨天と天候に恵まれなかったが、この2日間を取りもどすかのように他の6日間は各地区で盛大におこなわれ、随所で威勢のよい太鼓の音が夜遅くまで聞かれた。

### ■協賛行事

全国花火大会（7月28日/豊平河畔）／納涼ページェント（8月7日/豊平河畔）／若い市民の祭り＝中島公園開放大作戦（8月25日、26日/中島公園）

### ■主な施設と観客数

西8丁目特設舞台 1基／盆おどりヤグラ 1基／ポスター 1,000枚／プログラム 50,000枚／提灯 3,620個

### ■推定延観客数（千人）

オープニングセレモニー 5／オープニングパレード 100／全国花火大会 25／大通り納涼まつり 546／狸まつり 450／定山溪かっぱまつり 65／すすきのまつり 400／納涼ページェント 200／北海盆おどり大会 150／合計 2,166（前回比15%増）

## 【第21回】 昭和49年（1974）8月3日～8月20日／18日間

### ■概況

第21回夏まつりの特色として、次の5点が挙げられる。

#### ○チビッ子広場・風物詩的行事の実施

大通西9丁目広場をチビッ子広場として、遊び用具の貸出コーナーを設けてチビッ子に開放するとともに、日がわりコーナーとして、金魚の日、鯉の日、ヨーヨーの日、七夕の日を設定し、風物詩的行事をおこないチビッ子たちでにぎわった。

#### ○オープニングデモンストレーションの実施

オープニングセレモニーに先立ち、大通西1丁目～5丁目、それぞれプラスバンド、踊り、太鼓などによるオープニングデモンストレーション行事をおこなった。これは都心部の限られた会場の合理的利用とオープニングセレモニーの盛りあがりの面から非常に好評だった。

#### ○若者の参加

今回はじめて組織化された若者たちの企画・運営による『若者の祭典』がおこなわれ、活気あふれる盛りあがりをみせた。今後も若者を中心としたまつり行事の企画がのぞまれることとなった。

#### ○ボランティア活動

大通会場の清掃、お年寄り、子供、身障者の世話など、若者たちの活発なボランティア活動がみられ、会場を訪れた市民から感謝された。

#### ○出店コーナーの充実

従来、大通西1丁目～2丁目のみであった清涼飲料、乳製品コーナーは、今回から新たに西5丁目を加えるとともに新規の出店も認め内容を充実させた。

### ■実施行事

#### ○オープニングデモンストレーション（3日）

オープニングセレモニーに先立ち、大通西1丁目～5丁目の各広場で吹奏楽団、バトントワラー、狸太鼓、婦人団体による民謡踊りなどの披露がおこなわれた。演技終了後、セレモニー会場である西8丁目に向けて行進した。

#### ○オープニングセレモニー（3日）

午後3時40分、大通西8丁目特設ステージで、関係者と市民や観光客など約5,000人が参集し盛大におこなわれた。

#### ○オープニングパレード（3日）

五段雷花火を合図に、約1700人からなる大パレードが8丁目会場を出発、道警プラスバンドを先頭に1km余におよぶ隊列で北大通を東進し、駅前通りを南六条まで南進した。

#### ○大通り納涼まつり（3日～13日）

4,000個の提灯がつらなる西1丁目～9丁目を会場とし、1、2、5丁目の清涼飲料と乳製品コーナーや6、7、8丁目のピヤガーデンはいずれも満席。西8丁目の特設ステージでは多彩なプログラムが繰りひろげられた。

また9丁目をチビッ子広場として開放、遊具の貸し出しや風物詩的行事をおこない、夕暮れ時から連日チビッ子でにぎわった。

#### ○大通り納涼盆踊り大会（14日～20日）

毎日、午後6時から10時まで西8丁目会場に二段式ヤグラを組んでおこなった。最終日の20日におこなわれた仮装コンクールには90余りの団体が参加し、さらに二万人を超える予想外の人出で、8丁目会場はもとより7丁目広場まで埋まり大盛況だった。

#### ○百一年狸まつり（10日、11日）

7月20日から8月20日まで狸小路を歩行者天国としてベンチ、パラソル、ブランコ、植木鉢などを路上に設けるとともに、8月1日からは全丁目で『百一年狸まつり』の装飾をおこなった。8月10日、11日の両日は狸太鼓、みこし、狸おどり、30ヵ国にのぼる世界の民族衣裳を披露するパレードをおこなうとともに、四番街歩行者天国での狸おどり、大通西8丁目での百一年狸小路盆踊り大会など、連日、多彩なプログラムで市民や観光客から好評を博した。

#### ○すすきのまつり（5日～7日）

すすきの本通りの南4条から6条間を万国旗、電飾、花飾り、走馬燈などで賑々しく装飾するとともに、南4条西3丁目の特設ステージでは連夜、有名タレントショーをはじめ、すすきのファン参加によるビール早飲みコンクール、のど自慢大会など数多くの楽しい催し物を行った。期間中、地区内の歩行者天国、飲食店の営業時間延長をおこない、最終日の夜は、若者たちの熱狂的な『すすきのサンバ仮装コンテストカーニバル』で最高潮に達した。

#### ○定山溪かっぱまつり（4日、5日）

定山溪温泉街全域にわたって実施され、かっぱ踊り大群舞パレード、仮装コンクール、かっぱ天国の開放、若者を中心にしたゴーゴー大会、お楽しみコーナー、飲みもの大奉仕など子供から大人まで楽しめる多彩な行事がにぎやかに催された。姉妹提携した神戸市有馬温泉との記念行事もあわせておこなった。

#### ○四番街サマーフェスティバル（3日、4日）

オープニングパレードにバトントワラー、吹奏楽団

によるマーチング団体を編成して参加するとともに、4日にはさっぽろプロムナード会場内に2基の特設ステージを設け、四番街ミュージックカーニバルを行った。

#### ○北海盆おどり大会（13日～20日）

市内30カ所において恒例の北海盆踊り大会を実施した。天候に恵まれ夕暮れ時から連夜盛況で、随所で威勢のよい北海盆踊り太鼓の音が夜遅くまで聞かれた。

#### ■主な施設

大通西8丁目特設舞台 1基／大通西8丁目盆通りヤグラ 1基／ジャンボリー歓迎塔 1基／夏まつり歓迎塔 1基／ポスター 1,000枚／プログラム 50,000枚／提灯 3,100個

#### ■推定延観客数（千人）

オープニングセレモニー 15／オープニングパレード 150／全国花火大会 250／納涼まつり 600／百一年狸

まつり 200／定山溪かっぱまつり 95／すすきのまつり 450／四番街サマーフェスティバル 280／納涼ページェント 250／大通納涼盆踊り大会 140／北海盆踊り大会 240／合計 2,670（前年比23%増）



▲パレードで笑顔をふりまくミスさっぽろ（第21回）

## [第22回] 昭和50年（1975）7月26日～8月20日／26日間

#### ■催しもの

定山溪温泉かっぱまつり（8月4日、5日）／狸まつり（8月9日、10日）／すすきのまつり（8月5日～7日）／さっぽろ吹奏楽グランドフェア（8月4日・中島球場）／市民大盆通り大会（8月16日・駅前通りプロムナード）／札幌市民音楽祭（8月17日・駅前通りプロムナード）

#### ■概況

今回の目玉は初登場の“さっぽろバザール”。8月2、3の両日、正午から午後9時まで中島公園・スポーツセンター前に「オークションの街」「趣味の街」「緑と花の街」「食べ物の街」「バーゲンの街」「若者の街」「遊びの街」と7つのコーナーが店開きし、縁日ムードのなかで各種商品の安売りなどを行った。また、名物の大通り納涼ガーデンは例年通り初日からスタートし、西7丁目ステージでは8月10日まで、毎日午後7時～同8時30分までポピュラー・バンドが出演。西8丁目ステージでは、夕方、ステレオ・コンサート、夜はバンド演奏、歌謡ショーなどのプログラムが生まれ、それぞれ夕涼みの市民を楽しませた。8月2日の“さっぽろパレード”はプラス

バンド、バトンガール、鼓笛隊、さらに高知県から招いた“よさこい鳴子踊り”、福島県の“会津白虎隊”、山形の“花笠踊り”、そして狸まつり、かっぱまつりのキャラバンも含めて総勢700人。午後3時に薄野十字街を出発し、駅前通りなど繁華街を練り歩いた。また、恒例の大通り盆踊り大会は8月13日から20日まで。さらに、「第15回若者の祭典」も8月9、10の2日間、それぞれ大通西8丁目広場で行われ、夏を楽しむ人々で大いに盛り上がった。



▲バザールの風景（第22回）

## [第23回] 昭和51年（1976）7月24日～8月20日／28日間

#### ■概況

30度を超すカンカン照りで、祭りムードは一段と高まり、花火や夜店、それにビヤガーデンと、“暑くて長い夜”に涼を求める人たちがどっと出て、どこも大にぎわいだった。会場の大通公園には色とりどりの装飾ちょう

ちんがムードを盛りあげ、あちこちにビーチパラソルや売店がお目見え。公園を真ん中にはさんだ南、北大通から車はいっさいシャットアウトされ、“ナイト歩行者天国”となったこともあり、家族連れ、勤め帰りのサラリーマン、観光客らはゆっくりとまつりを楽しんだ。夜7

時から8時にかけては公園も道路も人であふれ、ひとときわ盛況を見せたのが納涼ビヤガーデンだった。昼間の暑さが夜になっても残るむし暑い夜だけに、生ビールをついだジョッキを傾ける人たちも多く、500のイスがすべてふさがり、入り切れない客まで…。この日（7月24日）の人出はおよそ20万人（札幌観光協会調べ）。

札幌・大通公園の西8丁目広場で13日から連夜にわたって繰り広げられてきた「納涼盆踊り」は、20日がフィナーレ。この夜はユーモラスな仮装踊りが登場、行く夏を惜しむ踊り手の輪が夜遅くまで広がった。この日は昼間、小雨に見舞われたが、夜になって上がり、午後6時

から太鼓の音が響き始めるとにぎやかな踊りの輪がぐんぐん膨らんだ。「エンヤコーラヤット」と、ヤグラの上から流れる“北海盆唄”もこれが最後とあって一段と熱がこもった。やがて午後8時過ぎ、踊りの輪の中に愉快的な仮装の人たちが登場。サーカスに出てくるピエロやヨロイ姿の日本武者、ひょっとこのお面をつけた若者、また“ロッキード疑獄”をもじったものなど、見物の市民から思わず笑いがこぼれ、名残りの盆踊りを心ゆくまで楽しんでた。

## [第24回] 昭和52年（1977）7月20日～8月20日／32日間

### ■催しもの

大通り納涼ガーデン（7月20日～8月10日／大通西1、2、5、6、7、8丁目）／オープニングパレード（7月20日／市中）／第3回さっぽろバザール（8月13、14日／大通西7丁目）／第5回さっぽろ太鼓競演会（8月4日／大通西8丁目特設ステージ）／さっぽろ納涼盆踊り大会（8月13日～20日／大通西8丁目および市内）／札幌味覚コーナー（8月11日～14日／大通西5丁目）／第13回定山溪かっぱまつり（8月5日、6日／定山溪）／第24回狸まつり（8月6日、7日／狸小路全域）／第13回すすきのまつり（8月5日～7日／すすきの全域）／第8回藻南公園まつり（8月6日、7日／藻南公園）

### ■協賛行事

第22回納涼ページェント（7月19日／豊平河畔）／第23回全国花火大会（7月30日／豊平河畔）／第4回さっぽろ吹奏楽グランドフェア（8月2日、3日／中島球場）／八丈島フラワーガーデン（7月28日～8月1日／テレビ

塔下）／北区民夏の夜を楽しむ集い（8月9日～11日／北区役所前）／豊平区納涼したん会（7月23日／平岸霊園）／白石ふるさとまつり（8月5日～7日／白石区役所広場）／子供納涼踊り大会＝中央区（8月17日／大通西12丁目広場）／納涼区民の集い＝南区（7月30日／真駒内中央公園）



▲夏まつりの夜を飾る提灯（第24回）

## [第25回] 昭和53年（1978）7月26日～8月20日／26日間

### ■催しもの

福祉協賛納涼ガーデン（7月26日～8月10日）／大通西1、2、5、6、7、8丁目）／ファミリーフェスティバル＝ビバ・プロムナード（7月30日／プロムナードスクランブル交差点）／第4回さっぽろバザール（8月12日～14日／大通西6、7丁目）／ちびっ子ワイワイ広場（8月16日～19日／大通西7丁目）／第6回さっぽろ太鼓競演会（8月3日／大通西8丁目特設ステージ）／さっぽろ納涼盆踊り大会（8月13日～20日／大通西8丁目）／第14回定山溪かっぱまつり（8月5日、6日／定山溪温泉街）／第25回狸まつり（8月4日～6日／狸小路商店街全域）／第14回すすきのまつり（8月4日～6日／すすきの地域全

域）／第9回藻南公園まつり（8月5日、6日／藻南公園）

### ■協賛行事

第23回納涼ページェント（7月20日／豊平河畔）／第24回花火大会（7月29日／豊平河畔）／5周年記念さっぽろ吹奏楽グランドフェア（中島球場／日時不明）

### ■広報宣伝

観光客誘致道内キャラバン／広報誌「さっぽろ」掲載／地下鉄など交通機関のポスター掲載／報道機関による宣伝／市内各所におけるポスター掲載

## [第26回] 昭和54年（1979）7月21日～8月20日／31日間

### ■概況

ポートランド市との姉妹都市提携20周年を記念し、ポートランド市からローズクィーンをはじめ多数の来賓を迎えて華やかに幕をあけた。天候は前半やや肌寒さを感じさせる日もあったが後半は回復して絶好のまつり日和となり、当初計画された多彩な行事を予定どおり消化することができた。

### ■実施行事

#### ○福祉協賛大通り納涼ガーデン（7月21日～8月7日）

西1、2丁目は清涼飲料や乳製品を中心とし、西5丁目～8丁目は全国に例をみないピヤガーデンとして市民、観光客に開放した。しかし、期間中、天候が不順で予想に反して低温が続き、ビールの消費量は前年を15%ほど下回った。

#### ○ビバ・プロムナード（7月22日）

夏まつりのオープニングを兼ね歩行者天国を利用して昨年よりも会場を広げ、バンド演奏、バトン演技、まつりばやし競演、どさんこ太鼓、札幌音頭の群舞など、多彩なプログラムを繰りひろげた。

#### ○'79さっぽろ夏まつりパレード（8月6日）

ポートランド市との姉妹提携20周年を祝して実施。音楽隊を中心としバトンガール、鼓笛隊、フロートにより構成し、市長、会長をはじめポートランドのバラの女王、バラまつり会長、使節団団長も参加して色どりを添えた。

#### ○第5回さっぽろバザール（8月10日～12日）

ボランティア団体、趣味のサークルなど55団体が出店してひらかれた。バザールの益金414,363円は社会福祉団体の活動資金として寄付された。

#### ○ちびっこ映画大会（8月13日～19日）

HBCの協力によってひらかれ、マンガ映画を楽しむ夕涼みの家族連れでにぎわった。

#### ○さっぽろ納涼盆通り大会（8月13日～20日）

天候に恵まれ連日、ゆく夏をおしむ市民や観光客で賑わい、大きな踊りの輪が幾重にも広がった。今年は早い時間に子供たちに開放したのでたくさんのチビ子が集まり、とぎれることなく婦人団体の『札幌音頭』そして『北海盆踊り』へと踊りつがれた。夏まつりの最後を踊る仮装コンクールには140組・500人が参加し、特設会場（8丁目車道上）を埋めつくした観客を楽しませた。

#### ○第15回定山溪かっぱまつり（8月4日、5日）

天候に恵まれた両日、かっぱの仮装大群舞やみこし

がまつりを盛り上げ、おまつり広場は多彩な催しでにぎわった。新企画である人間将棋大会は市民や観光客の人気をあつめた。

#### ○第15回すすきのまつり（8月3日～5日）

第1グリーンビル前に特設ステージを設け、期間中『世界の音楽めぐり』『チビっ子のど自慢』『ビール早飲み合戦』など楽しい行事が催された。さらに『屋外映画大会』『早飲みラリー』など地域の特色を生かした催しに市民や観光客が押し寄せ、フィナーレを飾る『大綱引き合戦』で幕を閉じた。

#### ○第26回狸まつり（8月3日～5日）

カラフルに飾りつけられたアーケードの下、みこしがねり歩き、子供たちの打ち鳴らす『狸太鼓』『ボンポコ踊り』などがまつりのムードを盛り上げた。各丁目独自に縁日コーナーも催された。

#### ○第10回藻南公園まつり（8月4日、5日）

公園内の特設ステージではゲーム大会や恒例の『藻南音頭』が披露され、家族連れでにぎわった。

### ■ポートランドウィーク（8月6日～12日）

#### ○'79さっぽろ夏まつりパレード（8月6日）

ポ市使節団もオープンカーで参加し、フロートに乗ったローズクィーンとミスさっぽろに、沿道の人垣から歓声がわいた。

#### ○吹奏楽グランドフェア（8月6日）

第6回さっぽろ吹奏楽グランドフェアと合同してポ市使節団の歓迎セレモニーをおこない、親善をつよめた。

#### ○記念植樹（8月11日）

ポ市バラ協会会長夫妻、ローズクィーン、ミスさっぽろらが参加し、バラの記念植樹をおこなった。

#### ○ローズクィーンと踊ろう盆踊り（8月12日）

ゆかた姿のポ市一行も踊りの輪に加わり、身振り手振りよろしくニッポンの盆踊りを楽しんだ。また、ローズクィーンを囲んでの茶会や婦人サッカーもおこない交流を深めた。

### ■協賛行事

第24回納涼ページェント／道新（7月20日・豊平河畔）／第25回全国花火大会／北海タイムス（7月28日・豊平河畔）／第6回さっぽろ吹奏楽グランドフェア（8月6日・中島球場）／第2回花のさっぽろ駅前まつり（8月1日～5日・札幌駅周辺）／北部方面音楽隊第5回定期演奏会（8月4日・市民会館）／ヤングフェスティバル（8月11日、12日・大通西6丁目）

### ■主な施設

盆踊りヤグラ（大通西8丁目） 1基／盆踊り提灯燈（大通西8丁目） 34基／夏まつり実施本部プレハブ（大通西8丁目） 1棟／バザール本部テント（大通西7丁目） 1張／盆踊りおよびバザール実施テント（大通西6～8丁目） 5張／会場電源、提灯照明、電気施設（大通西1～8丁目）／ポスター 500枚／バザール用のぼり 20本／装飾提灯 3,100個／ポ市姉妹都市提携20周年シンボル旗 3,000枚

### ■推定延観客数（千人）

福祉協賛大通り納涼ガーデン 550／ビバ・プロムナード 12／さっぽろバザール 150／夏まつりパレード 130／納涼盆踊り大会 170／すすきのまつり 700／狸まつり 500／定山溪かっぱまつり 100／藻南公園まつり 25／第6回吹奏楽グランドフェア 11／ちびっ子映

画大会 4／道新花火大会 150／タイムス花火大会 170／合計 2,672（前年観客数 2,666）



▲賑やかな狸まつりパレード風景（第26回）

## 【第27回】 昭和55年（1980）7月26日～8月20日／26日間

### ■概況

26日夕方、大通公園では西5～8丁目の各広場でビヤガーデンが店開きした。日が落ち始めた午後6時過ぎから、夕涼みの市民が続々と詰めかけ、ジョッキでまずグイッと一杯。遊歩道に飾りつけられた3100個のちょうちんに灯が入ると、雰囲気はグンと盛り上がり、舞台のバンド演奏やビール早飲み競争などを楽しみながら、夜遅くまでジョッキを重ねていた。

真駒内中央公園で行われた南区納涼のつどいは、約一万人の人出でにぎわった。鼓笛隊を先頭にしたパレードのあと、公園の特設会場では各地区婦人部の踊りや民謡、歌謡ショー、子供のひげダンス大会など次々と繰り広げられ、声援と爆笑のうず。縁日コーナーでは綿アメ店や金魚すくいなどの店が並び、夜8時からフィナーレの打ち上げ花火を楽しんだ。

午後7時（7月27日）からは、ステージでのバンド演奏、ゴーゴー踊りなどが始まり、夏の夜を楽しむ人の輪が広がった。また、「夏よ、早く本物に」と呼びかけるように豊平川河畔で打ち上げられた第26回全国花火大会の光の供宴が市民の目を楽しませた。

さっぽろ夏まつりのフィナーレを飾る、北海盆踊り仮装大会が20日夜、大通西8丁目広場で繰り広げられた。

盆踊り大会は13日から続けられていたが、この日が最終日。午後6時から響き出した太鼓の音に誘われ、踊りの輪がふくらみ、七重、八重になっていた。高さ12メートルの大やぐらの上からは、北海盆踊りの美声が流れ、無数の盆ちょうちんが揺れた。

呼び物の仮装コンクールのころになると人出も最高潮

となった。踊り手と見物人を合わせ4万人（主催者発表）と、過去最高。冷夏とはいえ、この日ばかりはゆかたにうちわという姿が目立っていた。

仮装コンクールに出場したのは131組600人。SLの義経号の大きなハリボテを持って踊る中年男性やヤナギの木を背負い幽霊の姿で出場した女性は背中には「交通事故では浮かばれない」の標語を付けていた。ナベヤカマをぶら提げた姿の五人組もいた。札幌刑務所の職員9人はヒヨコ姿で踊り回り、札幌ばかりでなく留萌市や三笠市からも大勢の出場者が参加した。



▲納涼ビヤガーデン風景（第27回）

## [第28回] 昭和56年（1981）7月25日～8月20日／27日間

### ■概況

前半は例年になく好天に恵まれ、各催しとも好調な滑り出しをみせた。しかし、8月に入り台風の影響で降雨や低温の日が続き、各地域のまつりや『大通り納涼ガーデン』などの観客の入り込みに若干の影響はでたものの、全体的には前年を上回る224万人の人出があった。

### ■実施行事

#### ○夏まつり前夜祭（7月24日）

今回初めて実施する前夜祭は、観光月間のキャッチフレーズ“好きですSAPPORO”をサブタイトルに、各行事の紹介、踊り、歌など多彩な内容で実施した。

#### ○福祉協賛大通り納涼ガーデン

会期前半は初日から30度を超す猛暑が続き、大通公園には涼をもとめて多くの市民や観光客が訪れた。しかし後半は一転して台風の接近とその後の冷え込みの影響により、順調に推移してきた観客の入り込みや各ガーデンの売り上げが鈍化し、観客数は昨年並みに、また、ビールの消費量は昨年をやや下回る結果となった。

#### ○北海盆踊り（8月13日～20日）

期間中、一日雨のため中止になったが全般的には好天に恵まれ、前回は上回る15万人の人出があった。夏まつりの最後を飾る『仮装盆踊り』は120組・650人が参加し、工夫をこらした扮装で観客を楽しませた。

#### ○さっぽろバザール（8月14日～16日）

期間中は好天に恵まれ六万人の人出を記録した。出店者から寄せられた寄付金は、社団法人北海道交通遺児の会、財団法人札幌福祉作業所の福祉事業にあてられた。

#### ○ふるさと芸能まつり（8月13日～20日）

今回から初めて実施された行事で、広く道内のふるさと芸能を一堂に会して紹介した。こうした道内一円のふるさと芸能を集めて紹介した前例はなく、市民や観光客の人気を呼んだ。例年、8丁目会場で催された『太鼓競演会』もおこなわれ、約四十人の出演者がその勇壮なバチさばきを披露した。このほか6丁目園内には『ちびっこ遊びの広場』も開設され、家族連れがシーソーやスピードガンに興じていた。

#### ○ちびっこ映画大会（8月13日～19日）

子供盆踊り終了後の午後7時30分から、HBC協賛でマンガ映画を上映した。

#### ○第17回定山溪かっぱまつり（8月8日、9日）

4日前の大雨で河の増水がいちじるしく、予定の『にじ鱒釣大会』は中止になったが、その他の行事は例年どおりおこなわれた。会期中は肌寒い日が続く、人出はいま一步であったが、『青空市場』『豊平峡マラソン大会』『OL・オリエンテーリング大会』などで連日賑わった。また、恒例の『かっぱ大群舞』には市民や観光客も加わり、温泉郷の一夜を楽しんだ。

#### ○第17回すすきのまつり（8月7日～9日）

メインステージでは『世界のショーめぐり』『カラオケのど自慢大会』『人形劇』などが人気を呼び、まわりの広場には恒例のワゴンセールが所狭しと立ち並び賑わった。フィナーレの盆踊りの輪には約1万人の市民や観光客が加わった。

#### ○第28回狸まつり（8月8日、9日）

七夕飾りのアーケードの下、勇壮な狸みこしや可愛い子供みこしがねり歩き、道ゆく市民の目を楽しませた。

#### ○第12回藻南公園まつり（8月2日）

『子供角力』『音楽隊演奏』『バンド演奏』のほか、『地元演芸』『ほまれ太鼓』『藻南音頭』など地域の特色を生かした催しものでにぎわった。

### ■協賛行事

第26回納涼ページェント／道新（7月22日）／第27回全国花火大会／北海タイムス（7月25日）／第1回さっぽろユースランドフェスト（7月28日）／第4回花のさっぽろ駅前まつり（8月1日～7日）

### ■主な施設

会期中、大通公園を3100個の提灯で飾り雰囲気盛り上げたほか、8丁目会場には運営本部を設置、観客の窓口として大いに利用された。さらに、『納涼ガーデン』オープン中、移動トイレを昨年より二台増設して観客の利益をはかった。

### ■推定延観客数（千人）

夏まつり前夜祭 1／福祉協賛大通り納涼ガーデン 550／さっぽろバザール 60／北海盆踊り大会 150／ふるさと芸能まつり 60／定山溪温泉かっぱまつり 40／すすきのまつり 650／狸まつり 250／藻南公園まつり 25／納涼ページェント 130／全国花火大会 210／ユースランドフェスト 10／ちびっこ映画大会 2／合計 2,238

## [第29回] 昭和57年（1982）7月23日～8月20日／29日間

### ■概況

今回はミュンヘン市との姉妹提携10周年を記念しておこなわれた『ミュンヘンウィーク』に協賛して約1か月にわたって開催された。

初日は雨に見舞われ、前半低温日が続いたが、8月に入ってからむし暑い日が続き、全体的には前年を50万人上回る274万人の人出があった。

### ■実施行事

#### ○ミュンヘンウィーク（7月23日～28日）

姉妹提携10周年を記念し、ミュンヘン市長をはじめ約90人の親善使節団が訪れ、市内各所で演奏会などが催された。また、大通西4丁目にはミュンヘン観光案内所を設置し、行きかう市民や観光客にミュンヘン市のPRをおこない好評だった。

#### ○オープニングビアパーティー（7月23日）

会場には約250人の関係者が集まり、また、ミュンヘン市から来札したイザールターラプラスバンドの特別出演もあり、華やかなオープニングとなった。

#### ○夏まつりパレード（7月24日）

ミュンヘン市、イザールターラプラスバンドの参加を得て3年振りに復活。参加団体は16団体、約800人を数え、すすきのから大通公園へ向かい約1500メートルを行進。沿道の大観衆は、姉妹都市提携シンボルマークの小旗を振ってこれを歓迎した。

#### ○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月23日～8月10日）

期間中、雨のために2日間中止を余儀なくされたが、8月に入ってむし暑い日が続き、公園内には涼を求めて多くの市民や観光客が訪れ観客数、ビール消費量とも史上最高となった。

#### ○さっぽろバザール（8月13日～15日）

ボランティアサークル、主婦のグループなど48団体が参加し、趣味の手づくり品や雑貨品などを市価より安く提供した。夏まつりに定着した青空市場は人気を呼び、珍品、逸品、掘り出し物をもとめる家族連れで賑わった。期間中は好天に恵まれ5万5千人の人出を記録し、出店者から寄せられた寄付金はそれぞれ福祉事業にあてられた。

#### ○北海盆踊り大会（8月13日～20日）

好天に恵まれ、連日、子供盆踊り、さっぽろ音頭、北海盆踊りが催された。踊りの輪には観光客、ことに外人の姿が目立ち市民とともに興じていた。夏まつりの最後を飾る『仮装盆踊り』は140組、650人が参加し、特設会場（7、8丁目の車道）を埋めた大観客の声

援と熱気わいた。

#### ○ふるさと芸能まつり（8月13日～20日）

郷土芸能のほか太鼓競演会、ニューミュージックもおこなわれ連日多くの人たちで賑わった。さらに今年は東北民謡めぐりが催され、特別出演として『ねぶた祭り』が5、6丁目の会場をねり歩き、はじめて見る“ねぶた”に市民や観光客は大喜びだった。

〈出演したふるさと芸能〉

羽衣太鼓／松前祇園ばやし／塊鉦黒獅子／白糠駒踊り／狸々獅子五段くずし／積丹鯨場音頭／くしろ蝦夷太鼓／道産子太鼓／すながわ桜太鼓／大野祇園ばやし／オロロン太鼓／白符荒馬踊り／北海わらべ太鼓／讃岐瑞穂神楽／日高駒踊り／八幡神社奉神楽

#### ○市民スポーツ広場（8月13日～20日）

市民の健康増進のため今年から初めて設けた広場。スポーツ性をとり入れ、だれもが気軽に参加できる楽しい内容で、若者や家族連れの好評を博した。

〈催しもの〉

コンピューター情報交番／ヘルシー広場／コンピューターロデオ／ローラースケート／綱引き大会／ヘッドホンコンサート／太極拳／ハスマーストライカー

#### ○ちびっこ映画大会（8月13日～19日）

子供盆踊り終了後の午後7時30分から芝生で人気まんがの映画を上映し、夕涼みの家族連れに喜ばれた。

#### ○第18回定山溪かっぱまつり（8月7日、8日）

地元住民と観光客が一体となり各催しが盛大におこなわれた。ハイライトの『かっぱ大群舞』には老若男女が参加し、温泉郷のゆく夏を惜しんだ。

〈催しもの〉

／にじ鱈釣り大会／マラソン大会／青空市場／花火大会／花笠音頭／ちびっこ太鼓／定山溪太鼓／カラオケ大会／フィーバーコンサート

#### ○第18回すすきのまつり（8月6日～8日）

地区全域に街灯設備が施され、街全体が夏まつり広場として華やかに彩られた。駅前通りをメイン会場とし、特設ステージでは多彩な催しがおこなわれ、恒例のワゴンセールで賑わった。フィナーレの『仮装盆踊り』には大観衆も参加して大きな盛り上がりを見せた。

#### ○第29回狸まつり（8月7日）

アーケード補修工事のため恒例の七夕祭りは実施できなかったが記念式典がおこなわれ、狸みこしがねり歩き、“すすきのまつり”“四番街まつり”と合流

し、地区全域がまつりムードにつつまれた。

○第13回藻南公園まつり（8月7日、8日）

7日の前夜祭にひき続き、8日の本祭りは地域の特色を生かした催しもので終日賑わった。

〈催しもの〉

藻南音頭／盆踊り／ロック大会／花火大会／子供角力／空手／剣道／ゲーム大会／地元演芸／カラオケ大会

■協賛行事

第28回全国花火大会／北海タイムス（7月31日）／第2回さっぽろユースグラウンドフェスト（7月27日）／第5回花のさっぽろ駅前まつり（8月2日～8日）／七夕まつり花火大会／朝日（8月7日）／四番街夏まつり（8月6日～8日）

■推定延観客数（千人）

福祉協賛大通り納涼ガーデン 630／夏まつりパレード 140／さっぽろバザール 55／北海盆踊り大会 170／



▲納涼ガーデンでミュンヘン市からの団体によるパフォーマンス（第29回）

ふるさと芸能まつり 65／市民スポーツ広場 60／ちびっ子映画大会 2／定山溪かっぱまつり 50／すすきのまつり 750／狸まつり 350／藻南公園まつり 25／全国花火大会 300／ユースグラウンドフェスト 13／七夕まつり花火大会 130／合計 2,740

[第30回] 昭和58年（1983）7月23日～8月20日／29日間

■概況

夏まつり30周年を記念して7月23日から8月20日まで約一ヶ月間にわたって開催された。

前半は異常低温が続き、大通り納涼ガーデン等の観客の入り込みが心配されたが、8月に入ってから真夏らしい天候となり、全体的には昨年を10万2千人上回る284万2千人の人出があった。

行催事の内容も年々充実し、30周年を記念して行われた式典、祝賀ビア・パーティをはじめ、恒例のオープニングパレード、ふるさと芸能まつり、さっぽろバザール、北海盆踊り等が催され、連日多くの市民や観光客でにぎわいをみせた。

■開催行事

○第30回さっぽろ夏まつり記念式典及び祝賀ビアパーティ（7月22日）

30周年を記念して行われた式典には、夏まつりの発展のために貢献した関係者約50名が一堂に会した。今井会長より感謝の意を表すとともに、関係者それぞれに感謝状、盾、記念誌が贈呈された。引き続き行われた祝賀ビア・パーティには、約250名の関係者が集まり華やかなパーティとなった。

○夏まつりパレード（7月23日）

30周年を記念して行われたパレードは、参加14団体、約800名を数え、ススキノから大通公園への約1500mを行進した。

○福祉協賛大通り納涼ガーデン（7月23日～8月10日）

7月中は異常低温のためビールの消費量も昨年を下回り、8月以降の客の入り込みが心配されたが、中盤から後半にかけて30℃を越す猛暑が続き、公園内には涼を求めて多くの市民や観光客が訪れ、観客数、ビール消費量とも昨年に引き続いて史上最高となった。

○さっぽろバザール（8月13日、14日）

9回目を迎えて市民にも定着。ボランティアサークル、主婦のグループ等趣味の手作り品や雑貨品等を市価より安く提供し、売り手も買い手も楽しみながらの爽やかなバザールであった。出店者から寄せられた寄付金は、それぞれ福祉事業に充てられた。

○北海盆踊り大会（8月13日～20日／8月20日）

今回も子ども盆踊り、さっぽろ音頭、北海盆踊りが催されて賑わった。まつりの最後を飾る「仮装盆踊り」は、前年を上回る申し込みがあり、ビッグイベントと期待されたが、19日からの断続的な雨のため20日、21日も実施が困難な状況となり中止せざるを得なかったのが残念であった。

○ふるさと芸能まつり（8月13日～20日）

今回で3回目を迎え、各郷土芸能のほか、太鼓競演会、フォーク、ニューミュージックも行われ、連日多くの人たちで賑わった。さらに東北民謡めぐりが催され、特別出演として「ねぶた祭り」が今回も登場し、6丁目会場を一周し、訪れた観客は間近に見るねぶたに感動して大盛況となった。

## ○市民スポーツ広場（8月13日～20日）

今回2回目を迎えたスポーツ広場は、前年より多様な遊具が用意され、行き交う若者や家族連れに人気だった。特に「見る広場」と「参加する広場」では指導員が付き添い、初心者も気軽に参加していた。

## ○第19回定山溪かっぱまつり（8月6日、7日7日）

恒例の「かっぱ大群舞」は市民、観光客も踊りに加わり定山溪温泉の一夜を楽しんでいた。催し物は、ニジマス釣り大会、マラソン大会、カラオケ大会、花火大会、定山溪夏の夕べ、定山溪太鼓、ハワイアンなど。

## ○第19回すすきのまつり（8月5日～7日）

駅前通りをメイン会場として、ステージを設置し、すすきの音楽祭、カラオケ大会、ビール早飲みコンテストなどが催され、周りの広場には恒例のワゴンセールが立ち並び「すすきの」らしいまつり広場となった。また「若衆コンコンみこし」やフィナーレの「仮装盆踊り」には大観衆が参加して大きな盛り上がりを見せた。

## ○第30回狸まつり（8月5日～7日）

今年は狸小路アーケードが改築されてはじめての夏まつりであったが、恒例の七夕祭りが復活し新アーケード下では記念式典、狸みこしが練り歩くなど諸行事が実施された。

## ○第14回藻南公園まつり（8月7日）

会期が1日のみに縮小となったが「子供角力」「地元演芸」「ゲーム大会」「カラオケ大会」など地域の特色を生かした催しが多く、充実したまつりとなった。

## ■広報宣伝

観光客誘致道内キャラバン、プログラム配布、広報誌「さっぽろ」掲載、報道機関による広報宣伝

## ■協賛行事

第29回全国花火大会（北海タイムス社）／第3回さっぽろユースグラウンドフェスト（中島体育センター）／第6回花のさっぽろ駅前まつり／第28回道新納涼ページェント／七夕まつり花火大会（朝日新聞社）／四番街夏まつり／第30回記念'83札幌ふれあい神輿祭（社団法人札幌青年会議所）

## ■推定延観客数（千人）

福祉協賛大通納涼ガーデン 640／夏まつりパレード 140／さっぽろバザール 50／北海盆通り大会 120／ふるさと芸能まつり 70／市民スポーツ広場 60／ちびっ子映画大会 2／定山溪かっぱまつり 51／すすきのまつり 750／狸まつり 350／藻南公園まつり 12／全国花火大会 250／ユースグラウンドフェスト 14／納涼ページェント 133／七夕まつり花火大会 100／第30回記念ふれあいみこし 100／合計 2,842



▲市民スポーツ広場（5丁目）での様子（第30回）

## 【第31回】 昭和59年（1984）7月23日～8月20日／29日間

## ■概況

31回目を迎えたさっぽろ夏まつりは大通公園を中心に7月23日から8月20日まで約1ヶ月間にわたって盛大に実施された。

またポートランド市との姉妹都市提携25周年を記念するとともに、北方圏さっぽろ国際フェスティバルが夏まつりと連動して開催され、例年になく充実したまつりとなった。

期間中は連日30度を越す好天に恵まれ、訪れた観客数も前年を27万2千人上回る311万4千人となった。

行事内容も年々充実し、恒例の納涼ガーデン、北海盆踊り大会、ふるさと芸能まつり、さっぽろバザール、市民スポーツ広場のほかに、新たに北方圏さっぽろ国際フェスティバルやサマージャンプ大会などが催され連日市民や観光客でにぎわいをみせた。

## ■実施行事

## ○オープニング・ピヤパーティ（7月23日）

会場には、約250名もの関係者が集まり、また、さっぽろカーニバルのテーマソングやサンバの踊りなども披露され、華やかなオープニングとなった。

## ○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月23日～8月10日）

期間中、雨のために一回中止を余儀なくされたが、ほかには連日30度を越す猛暑が続き、公園内には涼を求め多くの市民や観光客が訪れ、観客数、ビール消費量とも史上最高となった。

## ○さっぽろバザール（8月17日～19日）

ボランティア・サークル、主婦のグループなどの趣味の手づくり品や雑貨品などを市価より安く提供し、なかには珍品、逸品の類もあり売り手を買手も楽しみながらのさわやかなバザールであった。また、出店

者から寄せられた寄付金は、それぞれ福祉事業にあてられた。

#### ○北海盆踊り大会（8月13日～20日）

夏まつりを象徴する恒例の盆踊り大会は、今回も子供盆踊り、さっぽろ音頭、北海盆踊りが催され、連日市民、観光客のほか外国人客も踊りに参加して盛大に実施された。「仮装盆踊り」では149組約750人が参加し、思い思いの工夫を凝らした衣装で観客の目を楽しませた。

#### ○ふるさと芸能まつり（8月13日～20日）

各郷土芸能のほか、太鼓競演会、フォークソング、カラオケ、歌まね大会なども行われ連日多くの人びとで賑わった。特別出演として「青森のねぶた」が今年も登場し、大通西6・7丁目の車道を行進、市民、観光客もはねとの中に入り大盛況であった。

#### ○市民スポーツ広場（8月13日～20日）

3回目を迎えたスポーツ広場は、前回にも増やして多種多様な遊具が設置され、行きかう若者、家族連れに人気があった。特に昔懐かしい遊具広場では大人も子どもも一緒になって竹馬、竹トンボ、フラフープなどに興じていた。

#### ○北方圏さっぽろ国際フェスティバル（7月28日～8月6日）

音楽祭（ミュージックフォーラム）は、大倉山ジャンプ競技場の野外特設ステージに松山千春を招いてコンサートが実施された。カーニバルはサンバのリズムを主体と吹奏楽団、バンド、みこし、踊りのグループなど道内外の各都市から参加した34団体約2500人が中島公園から駅前通り1.8kmを練り歩いた。ほかに、北方圏諸国の食べ物、ビールの提供や写真展絵画展などが実施され夏まつりに彩りを添えた。

#### ○'84定山溪ニューかっぱ祭り（7月28日～8月15日）

今回から名称を新たに、期間も大幅に延長して行われた。地域住民と観光客が一体となって盛大に定山溪火おどり、ゲートボール大会、マラソン大会、盆踊り大会など各種の催しが行われた。

#### ○第20回すすきのまつり（8月2日～4日）

駅前通りをメイン会場とし、仮設ステージでは「すすきの音楽祭」「カラオケ大会」「ビール早飲み大会」などが催され、周囲の通路には恒例のワゴンセールが

立ち並んだ。最終日には「コンコンみこし」の練り込みのほか、20回記念特別企画の「おいらん道中」が登場し最高の盛り上がりを見せた。

#### ○第31回狸まつり（8月4日～5日）

新アーケードに改築されて2回目。恒例の装飾で雰囲気盛り上げ狸みこしパレード、式典など商店街らしい趣向を凝らした催しが行われた。

#### ○第15回藻南公園まつり（8月12日）

移動ステージを利用して地元演芸、バンド演奏、ゲーム大会などのほか子供角力、花火大会、盆踊り大会など地域の特色を生かした催しを実施された。

#### ■協賛行事

第2回札幌市長杯サマーjump大会／'84UHB杯サマーjump大会／第30回全国花火大会（北海タイムス社）／第4回さっぽろユースグランドフェスト／第7回花のさっぽろ駅前まつり／第29回道新納涼ページェント（北海道新聞社）／'84第3回さっぽろ七夕まつり花火大会（朝日新聞社）／四番街ふれあい夏まつり／札幌ふれあい神興祭

#### ■主な施設

会期中は、大通公園を3,500個以上の提灯で装飾したほか、ポートランド姉妹提携25周年記念及び北方圏さっぽろ国際フェスティバルを記念した旗も3000枚取付け、まつりの雰囲気を盛り上げた。8丁目には運営本部を設け観客の窓口として大いに利用されたほか、納涼ガーデンオープン中は移動トイレを4台設置し観客の利便を図った。

#### ■推定延観客数（千人、※印：主催者発表）

大通納涼ガーデン 650／さっぽろパザール 60／北海盆踊り大会 180／ふるさと芸能まつり 75／市民スポーツ広場 62／北方圏さっぽろ国際フェスティバル 118／'84定山溪ニューかっぱ祭り 193※／第20回すすきのまつり 850※／第31回狸まつり 300※／第15回藻南公園まつり 10※／第2回札幌市長杯サマーjump大会 1※／'84UHB杯サマーjump大会 1※／第30回全国花火大会 250※／第4回さっぽろユースグランドフェスト 14※／第29回道新納涼ページェント 130※／'84第3回さっぽろ七夕まつり花火大会 120※／'84札幌ふれあい神興祭 100※／合計3,114

## [第32回] 昭和60年（1985）7月21日～8月20日／31日間

### ■概況

納涼ガーデン、北海盆踊りを中心とした「さっぽろ夏まつり」は32回目を迎え、札幌の夏の風物詩として市民の間では定着した感がある。

期間中、前半はやや天候が不順であったが、後半になり真夏日が連日続き、当初予定のプログラムを完全に実施し、それぞれの会場は市民や観光客で賑わいをみせた。

今回の夏まつりでは、北方圏さっぽろ国際フェスティバルの関連事業として大通西10丁目に国際広場を設け、外国ビールを中心とした北方圏グルメを提供し、従来から実施していた国産ビヤガーデンとともに国際ビールまつりの試みとして実施された。

また、今回から開催期間を毎年7月21日から8月20日までとし、このまつりを観光資源として、道内外の観光客の誘引と市民に対するPRに務めることとした。

#### ■実施行事

##### ○ビヤパーティー（7月22日）

センチュリーロイヤルホテルを会場に、夏まつりの関係者が一堂に会して夏まつりの開催を祝い、関係者相互の懇談の機会として催された。

##### ○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月21日～8月10日）

前半は天候が不順であったものの後半は連日30度を越す猛暑が続き、第6回（昭和36年）からこのビヤガーデンが開催されて以来、初めて1日も中止することなく実施され、会場内は涼を求める多くの市民や観光客で賑わった。今回から大通西10丁目に「北方圏国際広場」を新設し、外国ビールを始め北方圏グルメを提供した。

##### ○さっぽろバザール（8月16日～18日）

ボランティアサークル、市民のグループなどの趣味の手づくり品や雑貨品などを市価より安く提供し、中には珍品、逸品の類もあり売り手も買い手も楽しみながらのさわやかなバザールとなった。

##### ○北海盆踊り大会（8月13日～20日）

夏まつりを象徴する恒例の盆踊り大会は、今回も「子供盆踊り」「北海盆踊り」が催された。夏まつりの最後を飾る「仮装盆踊り」は140組約650人が参加し、各自で工夫を凝らした仮装で観客の目を楽しませた。

##### ○ふるさと芸能まつり（8月13日～20日）

5回目。「太鼓競演会」「ちびっこ民謡大会」「カラオケ大会」「映画会」などが行われた。特別出演として「青森のねぶた」「沼田夜高あんどん」も登場した。

##### ○市民スポーツ広場（8月13日～20日）

4回目。前回にも増して多種多様な遊具が設置され、行き交う家族や若者に人気があった。

##### ○北方圏さっぽろ国際フェスティバル（7月27日～8月5日）

「ミュージックフォーラム」は、大倉山ジャンプ競技場の野外特設ステージにおいてコンサートが実施され、カーニバルはブラジルサンパチーム、吹奏楽団、バトン、みこし、踊りのグループなど、道内外の各都

市から参加した40団体約2,400人が中島公園から駅前通りの1.8kmを練り歩いた。他に北方圏諸国の食べ物、ビールの提供や写真展も実施された。

##### ○'85定山溪ニューかっぱ祭り（7月27日～8月4日）

「定山溪火踊り」「ゲートボール大会」「マラソン大会」「かっぱ大群舞パレード」などの催しで、地域住民と観光客が一体となって盛大に各種の催しが行われた。

##### ○第21回すすきのまつり（8月1日～3日）

期間中は「すすきの音楽祭」「カラオケ大会」「ビール早飲み大会」などが催され、周囲の通路には恒例の「ワゴンセール」が立ち並んだ。初日には、一般公募したおいらん2名が114年前の史実を再現して「おいらん道中」を行った。

##### ○狸まつり（8月3日～4日）

恒例の華やかな装飾で雰囲気盛り上げ、狸みこしパレード、式典など商店街らしい趣向をこらした催しが行われた。

##### ○第16回藻南公園まつり（8月11日）

「地元演芸」「バンド演奏」「ゲーム大会」「ロックコンサート」のほか、「子供角力」「花火大会」「盆踊り大会」などが催された。

#### ■協賛行事

第3回札幌市長杯サマージャンプ大会／'85UHB杯サマージャンプ大会／第31回全国花火大会（北海タイムス社）／第5回さっぽろユースグランドフェスト／第8回花のさっぽろ駅前まつり／第30回道新納涼ページェント（北海道新聞社）／'85第4回さっぽろ七夕まつり花火大会（朝日新聞社）／四番街ふれあい夏まつり／札幌ふれあい神興祭／'85さっぽろ電車まつり／藻岩山100年まつり／中島公園子供の国まつり

#### ■主な施設

会期中は、大通公園を3,500個以上の提灯で装飾したほか、8丁目には運営本部を設置。「納涼ガーデン」オープン中は移動トイレを4台設置した。

#### ■推定延観客数（千人、※印：主催者発表）

大通納涼ガーデン 650／さっぽろバザール 60／北海盆踊り大会 190／ふるさと芸能まつり 80／市民スポーツ広場 67／北方圏さっぽろ国際フェスティバル 194／'85定山溪ニューかっぱ祭り 83※／第21回すすきのまつり 920※／第32回狸まつり 300※／第16回藻南公園まつり 10※／合計2,554

## [第33回] 昭和61年（1986）7月21日～8月20日／31日間

### ■概況

33回目を迎えたさっぽろ夏まつりは大通公園を中心に約一ヶ月間にわたって盛大に実施。前年から開催期間を固定したことから、道内外の観光客や多くの市民で賑わった。

期間中は、近年になく降雨や低温の日が続き、当初予定していたプログラムに若干の影響が出たものの、全体的には前年を上回る255万7千人の人出があった。

特徴としては新規プログラムの「国際広場」を設け、「さっぽろバザール」の期間延長も行った。最終日に予定していた「大学対抗綱引き大会」は8月19日から続く断続的な雨で中止となった。また「仮装盆踊り」も雨の影響で8月21日に順延したので、前年を下回る103組の参加にとどまった。

### ■実施行事

#### ○オープニング・ビヤパーティ（7月21日）

6回目を迎えた会場には、約200名の関係者が集まり、華やかなオープニングのひとつを過ごした。

#### ○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月21日～8月10日）

期間中、全般に天候不順でプログラムの全部中止が3日、途中中止が3回あり、観光客の入り込みと各ガーデンの売上げも下がり、前年を下回る結果となった。前年から実施した大通西10丁目の「北方圏国際広場」では、今回から開催期間を他の会場と同じくし、外国ビールや北方圏グルメを提供して好評を博した。

#### ○さっぽろバザール（8月13日～18日）

古物商業連合組合の参加と、期間を3日間から6日間に延長したことから、前年を上回る9万人の人出を記録した。

#### ○北海盆踊り大会（8月13日～20日）

夏まつりを象徴する恒例の盆踊り大会は、今回も「子供盆踊り」「北海盆踊り」が催され、連日市民、観光客などで賑わった。夏まつりの最後を飾る「仮装盆踊り」は、19日からの断続的な雨のため8月21日に順延となり、いまひとつ盛り上がり欠けた内容となった。また、前回と同様に今回も車道の一部と歩道に敷物を敷いた。

#### ○ふるさと芸能まつり（8月13日～20日）

各「郷土芸能」のほか、「太鼓競演会」「ちびっこ民謡大会」「カラオケ大会」なども行われた。また、今回「北海道アフリカ協会」の設立を目指した「北海道アフリカの夕べ」が会場で催され、テレビで大活躍のオスマン・サンコン氏が登場した。特別出演として

「青森のねぶた」「あかびら火みこし」が登場した。

#### ○市民スポーツ広場（8月13日～20日）

「見る広場」「参加する広場」として設置されて5回目。「常設コーナー」では、指導員の付き添いのなかで大人や子どもも気軽に参加をしていた。

#### ○大学対抗綱引大会（8月20日）

初めて取り入れた行事。夏まつりのイベントのひとつとして期待されたが、19日からの断続的な雨のために実施困難となり、中止せざるを得なかった。

#### ○北方圏さっぽろ国際フェスティバル（7月26日～8月4日）

音楽祭（ミュージックフォーラム）は、大倉山ジャンプ競技場の野外特設ステージで開催され、若者中心の音楽祭に趣向をかえたことから会場内は若い熱気にあふれ、エネルギッシュな演奏に会場内も湧いた。

#### ○'86定山溪ニューかつぱ祭り（7月25日～8月3日）

地域住民と観光客が一体となって盛大に「定山溪火おどり」「ゲートボール大会」「マラソン大会」「盆踊り大会」など各種の催しが行われ、定山溪温泉の一夜を楽しんだ。

#### ○第22回すすきの祭り（8月7日～9日）

駅前通りをメイン会場とし仮設ステージでは「すすきの音楽祭」「ラーメン早食い大会」などが催され、期間中は過去最高の105万人の人出で賑わった。最終日には「おいらん道中」が登場して盛り上がりみせた。

#### ○第33回狸まつり（8月2日～3日）

恒例の装飾で雰囲気盛り上げ「狸みこしパレード」「式典」など商店街らしい趣向を凝らした催しが行われた。

#### ○第17回藻南公園まつり（8月10日）

「地元演芸」「バンド演奏」「ゲーム大会」などのほか「子供角力」「花火大会」「盆踊り大会」など地域の特色を生かした催しを実施され、家族連れで賑わった。

### ■協賛行事

第31回道新納涼ページェント（北海道新聞社）／第6回さっぽろユースグランドフェスト／第32回全国花火大会（北海タイムス社）／第9回花のさっぽろ駅前まつり／'86第5回さっぽろ七夕まつり花火大会（朝日新聞社）／札幌ふれあい神興祭（札幌青年会議所）／第4回札幌市長杯サマージャンプ大会／'86UHB杯サマージャンプ大会／四番街ふれあい夏まつり／中島公園子供の国夏まつり

## ■主な施設

会期中は、大通公園に5,210個の提灯を装飾したほか、西4丁目には「さっぽろ夏まつり」歓迎塔を設置した。納涼ガーデン中は移動トイレを4台設置し観客の利便を図った。さらに「観光月間」が夏まつりと連動して展開されたことから、大通西2丁目に「お母さんカッコウの窓口」が常設され、「さっぽろ夏まつり」のPRや主旨の啓蒙につとめた。

## ■推定延観客数（千人、※印：主催者発表）

大通納涼ガーデン 520／さっぽろバザール 90／北海盆踊り大会 170／ふるさと芸能まつり 75／市民スポーツ広場 67／北方圏さっぽろ国際フェスティバル 190／'86定山溪ニューかっぱ祭り 85※／第22回すすきの祭り 1,050※／第33回狸まつり 300※／第17回藻南公園まつり 10※／合計2,557

## 【第34回】 昭和62年（1987）7月21日～8月20日／31日間

### ■概況

34回目を迎えたさっぽろ夏まつりは大通公園を中心に、納涼ガーデン、北海盆踊りなどの行事が約一ヶ月間にわたって盛大に実施された。

期間中は降雨や低温の日が続き、真夏日がわずか1日と、例年になく冷夏であった。このため当初予定していたプログラムに若干の影響が出て、全体的には昨年を9万4千人下回る246万3千人の人出であった。

特徴としては最終日に予定していた「綱引き大会」が予想以上の観客を集め、新たな展開として注目すべきものであった。さらに「さっぽろバザール」も期間を延長し内容の充実を図った。

### ■実施行事

#### ○オープニングセレモニー（7月21日）

昨年まで実施していた「ビア・パーティー」に替えて、会場を訪れた観客と夏まつりの関係者が一堂になって夏まつりの開幕を祝った。

#### ○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月21日～8月10日）

今回は、違法露店対策及び観客サービスから、前年より客席を1,000席増やしたが、期間中は全般に天候が不順でプログラムの全部中止が3日、途中中止が1回あった。このため観客の入込みや各ガーデンの売上げも鈍化し、観客数、ビール消費量とも昨年を下回る結果となった。大通西10丁目で行われていた「北方圏国際広場」は「国際広場-世界のビール」と名称を改め、クアーズ（アメリカ）の樽生ビールを加え、計3カ国4種の樽生ビールと8カ国15種の缶ビールを提供して人気を呼んでいた。

#### ○さっぽろバザール（8月13日～19日）

前年からの古物商業連合組合の参加と、期間を7日間に延長したことからたくさんの人出で賑わった。

#### ○北海盆踊り大会（8月13日～20日）

夏まつりを象徴する恒例の盆踊り大会は、今回も「子供盆踊り」「北海盆踊り」が催され、連日市民、観光客などで賑わった。今回から、子供盆踊りの時間を

30分短縮し北海盆踊りをより一層普及させることとした。「仮装盆踊り」は136組約710人の参加があった。また、前回と同様に今回も車道の一部と歩道に敷物を敷いて観客サービスにも努めた。

#### ○ふるさと芸能まつり（8月13日～20日）

各郷土芸能のほか、太鼓競演会、ちびっこ民謡大会、カラオケ大会なども行われた。芸能まつりの幕開けとして恒例となった「青森のねぶた」や、特別出演「あかびら火みこし」も登場した。

#### ○市民スポーツ広場（8月13日～20日）

「見る広場」「参加する広場」として設置。「フアアエアポリン」「光線銃コーナー」などに人気を集まった。

#### ○綱引大会（8月20日）

前年の中止により、実質的に1回目となった行事。男子の部に8チーム、女子の部に3チームの参加があり、力自慢の熱戦に会場を取り囲んだ観客から熱のこもる声援が飛び、予想以上の好評を得た。

#### ○さっぽろ国際フェスティバル（7月21日～8月20日）

前年まで続いた「北方圏さっぽろ国際フェスティバル」が終了し、新たな催しとして実施された。期間中は「国際広場-世界のビール」「世界グルメの旅」「'87大倉山ミュージックフォーラム」が従来通り開催された。新規プログラムとして「大群舞-北海盆踊り」は当日の雨の影響から若干規模を縮小して翌日に順延したにもかかわらず、「手づくり御輿コンテスト」「千人太鼓競演」などと連動して約20万人の観客を集めた。

#### ○'87定山溪かっぱ祭り（8月5日～9日）

期間中は肌寒い日々が続き、メイン行事の「かっぱ大群舞」も雨のために順延するなど人出は5万人と、いまひとつであったが、新たに「仮装パレード」「ライブ・ザ・花火」などの催しも行われた。

#### ○第23回すすきの祭り（8月6日～8日）

例年同様、駅前通りをメイン会場とした仮設ステージでは「すすきの音楽祭」「ラーメン早食い大会」な

どが催され、期間中は95万人の人出で賑わった。最終日には「おいらん道中」が登場したり、新たに「女衆みこし」が行われて盛り上がりを見せた。

○第34回狸まつり（7月25日～8月1日）

恒例の装飾で雰囲気盛り上げ「狸みこしパレード」「式典」など商店街らしい趣向を凝らした催しが行われた。このほか、「縁日コーナー」なども設けられて、市民や観光客に喜ばれた。

○第18回藻南公園まつり（8月9日）

「地元演芸」「バンド演奏」「ゲーム大会」などのほか「子供角力」「花火大会」「盆踊り大会」など地域の特色を生かした催しが実施され、家族連れで賑わった。

○レーザー・ライティング・ファンタジー（8月5日～7日）

初めての行事で、(社)札幌青年会議所との共催により実施された。期間中は1日雨による中止があったが、ロックのリズムにのって青と緑のレーザー光線が幾何学模様や文字となって夜空の大通公園にパフォーマンス空間を創り出した。

■協賛行事

第32回道新納涼ページェント（北海道新聞社）／第33回全国花火大会（北海タイムス社）／中島公園子供の国夏まつり／第7回さっぽろユースグランドフェスト／'87北

海道まるかじりフェア／第10回花のさっぽろ駅前まつり／第5回札幌市長杯サマーjump大会／光と音と花火の夕べ／'87第6回さっぽろ七夕まつり花火大会（朝日新聞社）'87UHB杯サマーjump大会／四番街ふれあい夏まつり

■主な施設

会期中は、大通公園に5,210個の提灯を装飾したほか、ミュンヘンとの姉妹都市提携15周年記念及び高校総体を記念した旗を5千枚取り付けて祭りの雰囲気を盛り上げた。西4丁目には「さっぽろ夏まつり」歓迎塔を設置した。納涼ガーデン中は移動トイレを5台設置し観客の利便を図った。

■推定延観客数（千人、※印：主催者発表）

大通納涼ガーデン 461／さっぽろバザール 112／北海盆踊り大会 210／ふるさと芸能まつり 85／市民スポーツ広場 67／綱引き大会 10／さっぽろ国際フェスティバル 200／'87定山溪かっぱ祭り 50※／第23回すすきのまつり 950※／第34回狸まつり 300※／第18回藻南公園まつり 10※／レーザー・ライティング・ファンタジー 8／合計2,463

【第35回】 昭和63年（1988）7月21日～8月20日／31日間

■概況

35回目を迎えたさっぽろ夏まつりは大通公園を中心に、納涼ガーデン、北海盆踊りなどの行事が約一ヶ月間にわたって盛大に実施された。

期間中は1日も行事を中止することなく、最終的には前年を56万3千人上回る302万6千人の人出があった。

■実施行事

○オープニングセレモニー（7月21日）

会場を前年の西8丁目から西7丁目へ移し、観客と夏まつり関係者が一体となって開幕を祝った。

○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月21日～8月10日）

会期中は、7月中に夜間は肌寒く感じる日もあったが、日中は暑くて好天が続き、8月に入ってからも真夏日が3日間続くなど天候に恵まれた。席も前年より600席増やし7,162席準備したが連日満員となった。またドライビールの人気などを背景に、観客・ビール消費量ともに過去最高を記録した。大通西10丁目の「国際広場-世界のビール」も実施。3カ国4種の樽生ビールと11カ国20種の缶ビールを提供して人気を呼んでいた。

○さっぽろバザール（8月13日～19日）

前半（13日～15日）は手作りの品を中心に、後半（16日～19日）は古物商業連合組合によるバザールを展開し、前年を上回る12万人の人出を記録した。

○北海盆踊り大会（8月13日～20日）

「子供盆踊り」「北海盆踊り」が催され、連日市民、観光客などで賑わった。「仮装盆踊り」は154組約800人の参加があった。

○ふるさと芸能まつり（8月13日～20日）

初行事「ゆかた美人コンテスト」が実施されたのを始め、各郷土芸能、太鼓競演会、ちびっこ民謡大会、カラオケ大会などの恒例行事も好評だった。

○市民スポーツ広場（8月13日～20日）

「見る広場」「参加する広場」として設置。「ペタンクコーナー」「光線銃コーナー」などに人気が集まった。

○綱引大会（8月20日）

2回目の開催だが、綱引き愛好者の人気を呼び、男子の部に16チーム、女子の部に4チームの参加があった。

- さっぽろ国際フェスティバル（7月21日～8月20日）  
 期間中は「国際広場-世界のビール」「世界グルメの旅」「'88大倉山ミュージックフォーラム」が従来通り開催された。特に8月6日の土曜日にはメイン行事の「大群舞-北海盆踊り」「手づくり御輿コンテスト」などが催され、30万人の観客を動員した。
- '88定山溪かっぱ祭り（8月3日～7日）  
 期間中は天候に恵まれ、特に6日の土曜の夜はメイン行事の「かっぱ大群舞」「仮装パレード」「花火大会」などの催しにたくさんの観客が集まった。
- 第24回すすきの祭り（8月4日～6日）  
 駅前通りをメイン会場とした仮設ステージでは、「すすきの音楽祭」「ラーメン早食い大会」などが催され、期間中は110万人の人出で賑わった。最終日には「おいらん道中」が登場したり、前年から登場した「女衆みこし」も盛大に行われて、一層華やかな祭りの夜となった。
- 第35回狸まつり（7月30日～8月7日）  
 恒例の装飾で雰囲気を盛り上げ「狸みこしパレード」「式典」など商店街らしい趣向を凝らした催しが行われた。このほか「縁日コーナー」なども設けられて、市民や観光客に喜ばれた。
- 第19回藻南公園まつり（8月13日～14日）  
 「地元演芸」「バンド演奏」「ゲーム大会」「ロックコンサート」など、地域の特色を生かした催しを実施された。

- レーザー・ライティング・ファンタジー（8月3日～5日）  
 前年から実施された行事。ロックのリズムによって青と緑のレーザー光線が幾何学模様や文字となって夜空の大通公園にパフォーマンス空間を創り出した。

#### ■協賛行事

第33回道新納涼ページェント（北海道新聞社）／第34回全国花火大会（北海タイムス社）／中島公園子供の国夏まつり／第8回さっぽろユースグランドフェスト／光と音と花火の夕べ／'88第7回さっぽろ七夕まつり、花火大会（朝日新聞社）／第11回花のさっぽろ駅前まつり／第6回札幌市長杯サマージャンプ大会／'88UHB杯サマージャンプ大会／四番街ふれあい盆踊り大会

#### ■主な施設

運営本部 西7丁目／会期中の提灯装飾 5,000個／移動トイレ 納涼ガーデン中に5台／その他 西4丁目に「さっぽろ夏まつり」歓迎塔設置

#### ■推定延観客数（千人、※印：主催者発表）

大通納涼ガーデン 710／さっぽろバザール 120／北海盆踊り大会 230／ふるさと芸能まつり 90／市民スポーツ広場 72／綱引き大会 10／さっぽろ国際フェスティバル 321／'88定山溪かっぱ祭り 55※／第24回すすきのまつり 1,100※／第35回狸まつり 300※／第19回藻南公園まつり 10※／レーザー・ライティング・ファンタジー 8／合計3,026

## [第36回] 平成元年（1989）7月21日～8月20日／31日間

### ■概況

平成に入ってから初めてのまつりで36回目を迎えた。大通公園を中心に、納涼ガーデン、北海盆踊りなどの行事が約一ヶ月間にわたって盛大に実施された。

期間中は例年になく暑い日々が続いた関係で、前年を大きく上回る330万7千人の人出があった。夏まつりの最後を飾る「仮装コンクール」は、西7、8丁目に加え、西9丁目にも拡大し、市民や観光客がゆっくりと楽しめるように配慮した。

### ■実施行事

- オープニングセレモニー（7月21日）  
 会場を西6丁目に、約2千人の観客と夏まつり関係者が一体となって開幕を祝った。
- 福祉協賛大通納涼ガーデン（7月21日～8月10日）  
 今回は、会期が始まるとともに暑い日が続く、期間中真夏日を8日間記録した。また夜になっても気温が下らず、ビールを味わうのに最適な天候が続いた。

座席は約7,000席用意したが連日満員となり、観客数・消費量とも記録を更新した。大通西10丁目「国際広場-世界のビール」では、3カ国4種の樽生ビールと14カ国21種の缶ビールが供された。

- さっぽろバザール（8月13日～19日）

初日は雨天のため中止となったが、手作り品中心の前半（14日～15日）、古物商業連合組合によるバザールが出る後半（16日～19日）を合わせ、10万8千人の人出を記録した。

- 北海盆踊り大会（8月13日～20日）

初日は雨のため中止になった。2日目以降はゆかた姿の観客などで大いに盛り上がりを見せた。「仮装盆踊り」は会場の混雑緩和のために、従来の西7・8丁目に加え西9丁目にも拡大させ、162組845人の参加者で賑わった。

- 夏のバラエティーひろば（8月13日～20日）

前年まで「ふるさと芸能まつり」の名称で実施して

いたが、より広範囲な事業を展開するために名称を変更した。道内各地の郷土芸能の紹介や「太鼓競演会」「ちびっこ民謡大会」「ゆかた美人コンテスト」などはそのままに、新しく「丸太押し相撲」「星空映画館」などが実施された。幕開け行事として予定されていた「青森ねぶた祭り」は雨のために中止になった。

○市民スポーツ広場（8月13日～20日）

「見る広場」「参加する広場」として設置。「ベタングコーナー」、「おもしろサイクルプラザ」などに人気が集まった。

○綱引大会（8月20日）

男子の部に9チームの参加があり会場では、力自慢の熱戦に会場を取り囲んだ観客から熱のこもる声援が飛び、好評を得た。

○さっぽろ国際フェスティバル（7月21日～8月20日）

期間中は「国際広場-世界のビール」「世界グルメの旅」「大倉山サウンドフラッシュ'89」が催された。

○第36回狸まつり（7月29日～8月5日）

恒例の装飾で雰囲気盛り上げた「狸みこしパレード」「式典」など商店街らしい趣向を凝らした催しが行われた。このほか「縁日コーナー」なども設けられて、市民や観光客に喜ばれた。

○'89定山溪かっぱ祭り（8月5日～6日）

期間中は天候に恵まれ5日の土曜の夜はメイン行事の「かっぱ大群舞パレード」「花火大会」などの催しにたくさんの観客が集まった。

○第25回すすきの祭り（8月3日～5日）

北専会館前に特設ステージを設け、「すすきの音楽祭」「ラーメン早食い大会」などが催され、期間中は

131万人の人出で賑わった。最終日には「おいらん道中」が登場したり、国際フェスティバルと連動した「連合御輿渡御」も登場して華やかな祭りが展開された。

○第20回藻南公園まつり（8月5日～6日）

「地元演芸」「バンド演奏」「ゲーム大会」「ロックコンサート」など、地域の特色を生かした催しが実施された。

■協賛行事

第34回道新納涼ページェント（北海道新聞社）/'89UHB杯サマージャンプ大会／中島公園子供の国夏まつり／第35回全国花火大会（北海タイムス社）／光と音と花火の夕べ／第7回札幌市長杯サマージャンプ大会／第12回花のさっぽろ駅前まつり/'89第8回さっぽろ七夕まつり花火大会（朝日新聞社）／四番街ふれあい盆踊り大会／第1回サマーパフォーマンス・カラオケフェスティバル

■主な施設

運営本部 西7丁目／会期中の提灯装飾 5,000個／移動トイレ／納涼ガーデン中に5台／その他 西4丁目に「さっぽろ夏まつり」歓迎塔設置

■各行事観客数（千人、※印：主催者発表）

大通納涼ガーデン 764／さっぽろバザール 102／北海盆踊り大会 210／夏のバラエティーひろば 86／市民スポーツ広場 79／綱引き大会 10／さっぽろ国際フェスティバル 385／第36回狸まつり 300※/'89定山溪かっぱ祭り 50※／第25回すすきの祭り 1,310※／第20回藻南公園まつり 11※／合計3,307

## 【第37回】平成2年（1990）平成2年7月21日～8月20日／31日間

■概況

37回目を迎えた「さっぽろ夏まつり」は、大通公園を中心に、納涼ガーデン、北海盆踊りなどの行事が約一ヶ月間にわたって盛大に実施された。

期間中は、7月に低温の日が続いたほか、8月中旬からは台風の影響で雨模様の日々が続き、納涼ガーデンの最終日も中止となった。しかしまつり全体としては、最終的に341万5千人の人出があった。

■実施工事

○オープニングセレモニー（7月21日）

会場の西5丁目で、約2千人の観客と夏まつり関係者が一体となって開幕を祝った。

○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月21日～8月10日）

会期前半の7月は真夏日が1日のみで、気温の低い日

が続いたが、8月に入ってから真夏日が4日間連続したことで消費量が一気に伸び、過去2番目の消費量となった。大通西10丁目「国際広場-世界のビール」では、3カ国4種の樽生ビールと14カ国25種の缶ビールが提供された。

○さっぽろバザール（8月13日～19日）

手作り品中心の前半、古物商業連合組合によるバザールが出る後半を合わせ、9万人の人出を記録した。

○北海盆踊り大会（8月13日～20日）

初日は雨のため中止になった。2日目以降はゆかた姿の観客などで大いに盛り上がりみせた。「仮装盆踊り」には、150組760人の参加者で賑わった。

○夏のバラエティーひろば（8月13日～20日）

道内各地の郷土芸能の紹介や「太鼓競演会」「ちび

っこ民謡大会」「ゆかた美人コンテスト」などのほか、新しく「氷彫刻大会」などが実施された。

○市民スポーツ広場（8月13日～20日）

「見る広場」「参加する広場」として設置。「フアファコーナー」、「わんぱくプラザ」などは子どもたちの人気を集めていた。

○綱引大会（8月20日）

道路上で行われるユニークな綱引きとして人気を呼んでいる大会。男子の部に3チーム、混成の部に4チームの参加があり会場では、力自慢の熱戦に会場を取り囲んだ観客から熱のこもった声援が飛んでいた。

○さっぽろ国際フェスティバル（7月21日～8月20日）

期間中は「国際広場-世界のビール」「世界グルメの旅」「大倉山サウンドフラッシュ'90」が催されたほか、8月4日にはメイン行事の、「大群舞北海盆踊り」「手作りみこし大競演」「連合御輿渡御」「親子のふれあい太鼓」が「熱響舞夏」と題して駅前通りを中心に実施され、46万5千人の観客を集めた。

○第37回狸まつり（7月28日・8月4日～5日）

恒例の装飾で雰囲気盛り上げ、「狸みこしパレード」「式典」など商店街らしい催しが行われた。このほか「縁日コーナー」なども設けられて、市民や観光客に喜ばれた。

○'90定山溪かっぱ祭り（8月1日～2日）

地域住民と観光客が一体となって多彩な行事が繰り広げられた。メイン行事の「かっぱ大群舞パレード」「花火大会」などの催しのほか、「豊平峡マラソン大会」「黄金湯ゴールドフェスティバル」なども催された。

○第26回すすきの祭り（8月2日～4日）

メインステージでは「すすきの音楽祭」「ラーメン早食い大会」などが催され、期間中は142万人の人出で賑わった。恒例の「おいらん道中」や「ワゴンセール」のほか、国際フェスティバルと連動した「連合御輿渡御」も登場して華やかな祭りが展開された。

○第21回藻南公園まつり（8月5日）

「地元演芸」「ゲーム大会」など、地域の特色を生かした催しが実施され、家族連れで賑わった。

■協賛行事

第36回全国花火大会（北海タイムス社）／光と音と花火の夕べ／中島公園子供の国夏まつり／第13回花のさっぽろ駅前まつり／'90第9回さっぽろ七夕まつり花火大会（朝日新聞社）／第35回道新納涼ページェント（北海道新聞社）／四番街ふれあい夏まつり／第2回TVhサマー・カラオケフェスティバル

■主な施設

運営本部 西7丁目／会期中の提灯装飾 5,000個／移動トイレ 納涼ガーデン中に4台／その他 西4丁目に「さっぽろ夏まつり」歓迎塔設置

■推定延観客数（千人、※印：主催者発表）

大通納涼ガーデン 726／さっぽろバザール 90／北海盆踊り大会 200／夏のバラエティーひろば 82／市民スポーツ広場 78／綱引き大会 10／さっぽろ国際フェスティバル 465／第37回狸まつり 300※／'90定山溪かっぱ祭り 40※／第26回すすきの祭り 1,420※／第21回藻南公園まつり 4※／合計3,415

【第38回】平成3年（1991）7月21日～8月20日／31日間

■概況

38回目を迎えた「さっぽろ夏まつり」は、大通公園を中心に、納涼ガーデン、北海盆踊りなどの行事が約一ヶ月間にわたって盛大に実施された。

期間中は、7月から8月上旬にかけて雨模様の日が続き、気温も低かったので前半の納涼ガーデンの人出はいまひとつだったが、8月中旬からは天候も持ち直し、後半の行事には大勢の観光客や市民がかけつけ、最終的には340万6千人の人出があった。

■実施行事

○オープニングセレモニー（7月21日）

西8丁目を会場に、約500人の観客と夏まつり関係者が一体となって祝杯をあげ、開幕を祝った。

○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月21日～8月10日）

会期中は長雨や低温の日が続いた関係で、前年に比べてビール消費量はいまひとつであったが、市民や観光客がジョッキを片手に短い札幌の夏を楽しんでいた。大通西10丁目「国際広場-世界のビール」では、3カ国4種の樽生ビールと18カ国24種の缶ビールが提供された。

○さっぽろバザール（8月13日～19日）

市民の手作り品中心の前半、古物商業連合組合によるバザールが出る後半を合わせ、12万人の人出を記録した。

○北海盆踊り大会（8月13日～20日）

期間中は連日天候に恵まれ、ゆかた姿の人びとや勤め帰りの市民、観光客ら大勢の人出があった。恒例の

「仮装盆踊り」には、116組約1千人の参加者で賑わった。

○KARAOKE LIVE (8月13日～20日)

「太鼓競演会」「ちびっこ民謡大会」に加え、新しく毎日いろいろと趣向を凝らしたカラオケ大会を実施したところ、連日多くの市民や観光客で賑わった。

○F1スポーツランド (8月13日～20日)

F1スポーツに注目した催しを展開。実物F1マシンの展示コーナーにはカメラを持った若者などが詰めかけたり、「ミニゴーカートコーナー」はちびっ子たちで賑わった。

○綱引大会 (8月20日)

道路上で行われるユニークな綱引きとして人気を呼んでいる大会。男子の部に5チーム、混成の部に3チームの参加があり会場では、力自慢の熱戦に会場を取り囲んだ観客から熱のこもる声援が飛んでいた。

○さっぽろ国際フェスティバル (7月21日～8月20日)

期間中は「国際広場-世界のビール」「世界グルメの旅」「大倉山サウンドフラッシュ'91」が催されたほか、8月3日にはメイン行事の、「大群舞北海盆踊り」「手作りみこし大競演」「連合御輿渡御」「親子のふれあい太鼓」が「熱響舞夏」と題して駅前通りを中心に実施され、43万2千人の観客を集めた。

○第38回狸まつり (7月27日～8月4日)

恒例の装飾で雰囲気盛り上げ、「狸みこしパレード」「式典」など商店街らしい催しが行われた。

○'91定山溪かっぱ祭り (8月1日～2日)

地域住民と観光客が一体となって多彩な行事が繰り広げられた。初日は小雨まじりの天気となったが、「かっぱ大群舞パレード」「花火大会」などの催しには大勢の観光客が集まって賑わいをみせた。

○第27回すすきの祭り (8月1日～3日)

メイン特設ステージでは、「すすきの音楽祭」「ラーメン早食い大会」などが催されたほか、「おいらん道中」や「ワゴンセール」など恒例の行事も大盛況で、153万人の人出で賑わった。

○第22回もいわ夏まつり (8月4日)

名称が「藻南公園まつり」から「もいわ夏まつり」に変更された。当日は「地元演芸」「ゲーム大会」など、地域の特色を生かした催しを実施され、家族連れで賑わった。

■協賛行事

第36回道新納涼ページェント(北海道新聞社) / 第37回全国花火大会(北海タイムス社) / 光と音と花火の夕べ / '91第10回さっぽろ七夕まつり花火大会(朝日新聞社) / 中島公園子供の国夏まつり / 第14回花のさっぽろ駅前まつり / 四番街ふれあい夏まつり / '91UHB杯サマーチャンプ大会 / 第9回札幌市長杯サマーチャンプ大会 / '91TVhサマー・ワールド(テレビ北海道)

■主な施設

運営本部 西7丁目 / 会期中の提灯装飾 5,000個 / 移動トイレ 納涼ガーデン中に4台 / その他 西4丁目に「さっぽろ夏まつり」歓迎塔設置

■推定延観客数(千人、※印:主催者発表)

大通納涼ガーデン 613 / さっぽろバザール 120 / 北海盆踊り大会 235 / KARAOKE LIVE 24 / F1スポーツランド 90 / 綱引き大会 10 / さっぽろ国際フェスティバル 432 / 第38回狸まつり 300※ / '91定山溪かっぱ祭り 45※ / 第27回すすきの祭り 1,530※ / 第22回もいわ夏まつり 7※ / 合計3,406

[第39回] 平成4年(1992)7月21日～8月20日 / 31日間

■概況

39回目を迎えた「さっぽろ夏まつり」は、大通公園を中心に、納涼ガーデン、北海盆踊りなどの行事が約一ヶ月間にわたって盛大に実施された。前半の納涼ガーデンは、7月24日に1日あたり過去最高のビール消費量を記録するなど、まずまずのスタートだったが、8月に入って気温の低い日が続く、人出はいまひとつであった。それでも中旬に入って天候がもちなおし、北海盆踊りなど後半の行事には連日多くの市民や観光客が詰めかけ、最終的には340万7千人の人出があった。

■実施行事

○オープニングセレモニー (7月21日)

西7丁目を会場に、約800人の観客と夏まつり関係者が一体となって祝杯をあげ、開幕を祝った。

○福祉協賛大通納涼ガーデン (7月21日～8月10日)

会期中は長雨や低温の日が続いた関係で、前年に比べてビール消費量のほうはいまひとつであったが、市民や観光客がジョッキを片手に短い札幌の夏を楽しんでいた。大通西10丁目「国際広場-世界のビール」では、3カ国4種の樽生ビールと18カ国24種の缶ビールが提供された。

## ○さっぽろバザール (8月13日～19日)

市民の手作り品中心の前半、古物商業連合組合によるバザールが出る後半を合わせ、9万人の人出を記録した。

## ○北海盆踊り大会 (8月13日～20日)

期間中は、初日、2日目があいにくの雨となったが、3日目からは連日天候に恵まれ、ゆかた姿の人びとや勤め帰りの市民、観光客ら大勢の人出があった。恒例の「仮装盆踊り」には、110組約900人の参加者で賑わった。

## ○ザッツ人間ワンダーランド (8月13日～20日)

女性チームによる「綱引き大会」、外国人大道芸を披露した「ストリートパフォーマンス天国」、ダンス、コサック、サウンドの各部に別れての「パフォーマンスステージ」などが催され、大勢の人出で賑わった。

## ○アドベンチャーランド (8月13日～20日)

スポーツMTBのデモンストレーションやおもしろ自転車など、子どもや若者がスポーツ感覚いっぱいに催しに参加していた。

## ○さわやかファミリーランド (8月13日～20日)

ちびっこたちが自由に工作を楽しめる「ちびっこ広場」やステージでは「早飲み大会」「イントロあてクイズ」などの参加型イベントから、「フラメンコナイト」などのショーも繰り広げられた。

## ○綱引大会 (8月20日)

道路上で行われるユニークな綱引きとして人気を呼んでいる大会。男子の部に6チーム、女子の部3チーム、混成の部に4チームの参加があり会場では、力自慢の熱戦に会場を取り囲んだ観客から熱のこもる声援が飛んでいた。

## ○さっぽろ国際フェスティバル (7月21日～8月20日)

期間中は「国際広場-世界のビール」「世界グルメの旅」「大倉山サウンドフラッシュ'92」が催されたほか、8月8日にはメイン行事の、「大群舞北海盆踊り」「手作りみこし大競演」「連合御輿渡御」などが「北海道祭・熱響舞夏 '92」と題して駅前通りを中心に実施され、45万5千人の観客を集めた。

## ○第39回狸まつり (8月1日～9日)

恒例の装飾で雰囲気盛り上げ、「狸みこしパレード」「式典」など商店街らしい催しが行われた。

## ○'92定山溪かっぱ祭り (8月2日～3日)

初日は小雨まじりの天気となったが、「かっぱ大群舞パレード」「花火大会」などの催しには大勢の観光が集まって賑わいをみせた。このほか「大抽選会」「メルヘンかっぱオリエンテーリング」なども行われた。

## ○第28回すすきの祭り (8月6日～8日)

南4西3の特設ステージでは、「すすきの音楽祭」などが催され、期間中は146万人の人出で賑わった。「おいらん道中」や「ワゴンセール」など恒例の行事も大盛況であった。

## ○第23回もいわ夏まつり (8月9日)

当日は台風の影響で、藻南公園での行事が実施できなくなり、屋内で実施した。

## ■協賛行事

第37回道新納涼ページェント (北海道新聞社) / 第38回全国花火大会 (北海タイムス社) / 光と音と花火の夕べ / '92さっぽろ夏まつり協賛朝日新聞花火大会 / 中島公園子供の国夏まつり / 第15回花のさっぽろ駅前まつり / 四番街ふれあい夏まつり / '92UHB杯サマーチャンピオン大会 / 第10回札幌市長杯サマーチャンピオン大会 / '92TVhサマー・ワールド (テレビ北海道)

## ■主な施設

運営本部 西7丁目 / 会期中の提灯装飾 5,000個 / 移動トイレ 納涼ガーデン中に4台 / その他 西4丁目に「さっぽろ夏まつり」歓迎塔設置

## ■各行事観客数 (千人、※印:主催者発表)

大通納涼ガーデン 590 / さっぽろバザール 90 / 北海盆踊り大会 200 / ザッツ人間ワンダーランド 140 / アドベンチャーランド 50 / さわやかファミリーランド 40 / 綱引き大会 10 / さっぽろ国際フェスティバル 455 / 第39回狸まつり 330※ / '92定山溪かっぱ祭り 42※ / 第28回すすきのまつり 1,460※ / 第23回もいわ夏まつり 0.3※ / 合計3,407



▲さわやかファミリーランドで遊びに興じる子どもたち (第39回)

## 【第40回】平成5年（1993）平成5年7月21日～8月20日／31日間

### ■概況

40回目の節目を迎えた「さっぽろ夏まつり」は、大通公園を中心に、納涼ガーデン、北海盆踊りなどの行事が約一ヶ月間にわたって盛大に実施された。40回を記念して、会場である大通公園を記念アーチやフラッグで装飾を施した。

前半の納涼ガーデンは、期間を通して寒い日が続いたので人出は芳しくなかった。8月中旬になっても寒い日が続いたが、後半の北海盆踊り大会などの行事には多くの市民や観光客が詰めかけた。夏まつりの最後を飾る「仮装コンクール」には107組890人が参加し、沿道を埋めた10万人の観客は、それぞれに工夫が施された仮装を楽しんだ。

### ■実施行事

#### ○オープニングセレモニー（7月21日）

西6丁目を会場に、約800人の観客と夏まつり関係者が一体となって祝杯をあげ、開幕を祝った。

#### ○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月21日～8月10日）

会期中は真夏日がわずかに1日で、全体に寒い日々が続いた記録的な冷夏となった。この影響でビール消費量は前年比88.2%の19万8千リットルにとどまった。大通西10丁目「国際広場－世界のビール」では、4カ国5種の樽生ビールと14カ国25種の缶ビールが提供された。

#### ○さっぽろバザール（8月13日～19日）

前半の3日間は市民の手作り品を中心に、後半の4日間は古物商業連合組合によるバザールを実施し、10万人の人出があった。

#### ○北海盆踊り大会（8月13日～20日）

期間中は、2日目のみが雨で中止となったが、それ以外は連日ゆかた姿の人びとや勤め帰りの市民、観光客ら大勢の人出で賑わった。恒例の「仮装盆踊り」には、107組約890人の参加者で賑わった。

#### ○ザッツ人間ワンダーランド（8月13日～20日）

「パフォーマンスステージ」を展開する参加各グループが、バラエティ、ダンス、サウンドの3部門に別れて「第2回人間ビジョン大賞」を目指して個性を競い合った。

#### ○アメリカンストリート（8月13日～20日）

会場全体がアメリカの雰囲気を漂わせ、大人気のバスケットボール「3on3」「わんぱくPK」「ウォール・ペインティング・ストリート」など、子どもたちや若者たちがスポーツ感覚いっぱい楽しんでいた。

#### ○どんどこ広場（8月13日～20日）

子どもたちが自由に楽しめる「ゲームコーナー」や、ステージ上では「早飲み大会」などの参加型イベントのほか、「コンサート」や「エレクトーン」など多彩な催しが行われた。

#### ○さっぽろ国際フェスティバル（7月21日～8月20日）

期間中は「国際広場-世界のビール」「世界グルメの旅」「大倉山サウンドフラッシュ'93」が催されたほか、8月7日にはメイン行事の、「大群舞北海盆踊り」に、「手作りみこし大競演」「連合御輿渡御」などが「北海道祭・熱響舞夏'93」と題して駅前通りを中心に実施され、46万3千人の観客を集めた。

#### ○第40回狸まつり（7月31日～8月8日）

恒例の装飾で雰囲気を盛り上げ、「ナイトバーゲン」「狸みこし&狸太鼓」など、商店街らしい催しが行われた。

#### ○'93定山溪かっぱ祭り（8月1日～2日）

「かっぱ大群舞」「花火大会」などの催しには大勢の観光が集まって賑わいをみせた。このほか「パークゴルフ大会」「メルヘンかっぱオリエンテーリング」「かっぱ川下り」なども行われた。

#### ○第29回すすきの祭り（8月5日～7日）

南5西3の特設ステージでは、「カラオケのど自慢大会」「ふるさと祭り」などが催され、期間中は139万人の人出で賑わった。「おいらん道中」や「ワゴンセール」など恒例の行事も大盛況であった。

#### ○第24回もいわ夏まつり（8月8日）

「リサイクルバザー」「子ども相撲」「ゲーム大会」「太鼓ショー」などが実施され、地元の人たちで大盛況であった。

### ■協賛行事

第38回道新納涼ページェント（北海道新聞社）／光と音と花火の夕べ／第39回全国花火大会（北海タイムス社）／'93さっぽろ夏まつり協賛朝日新聞花火大会／第16回花のさっぽろ駅前まつり／'93UHB杯サマーキャンプ大会／第11回札幌市長杯サマーキャンプ大会／'93TVhサマー・ワールド（テレビ北海道）

### ■主な施設

運営本部 西7丁目／会期中の提灯装飾 5,000個／移動トイレ 納涼ガーデン中に4台／その他 西4丁目に「さっぽろ夏まつり」歓迎塔設置

■推定延観客数（千人、※印:主催者発表）

大通納涼ガーデン 525/さっぽろバザール 100/北海盆踊り大会 195/ザッツ人間ワンダーランド 120/アメリカンストリート 30/どんどこ広場 60/さっぽろ

国際フェスティバル 463/第40回狸まつり 310※/’93定山溪かっぱ祭り 41※/第29回すすきの祭り 1,390※/第24回もいわ夏まつり 3※/合計3,237

【第41回】平成6年（1994）7月21日～8月20日/31日間

■概況

41回目を迎えた「さっぽろ夏まつり」は、7月21日から1ヶ月間にわたり大通公園を中心に開催され、大通納涼ガーデン、北海盆踊り大会など各種行事が実施された。

期間を通して30度を越える日が続き、期間中はもちろん、その前後を入れた夏日の連続記録も43日という札幌の観測史上始めて以来の猛暑となった。その影響で、ビールの消費量もこれまでの最高となり、後半行事の北海盆踊り大会等にも連日多くの市民、観光客等が詰めかけた。

観客等は、それぞれに工夫が凝らされた仮装を楽しんでいた。

■実施行事

○オープニングセレモニー（7月21日）

大通西5丁目を会場に、約500人の観客等と夏まつりの関係者が一斉に乾杯をし、開幕を祝った。

○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月21日～8月10日）

会期中は、1日の最高気温が25度以上となる“夏日”の連続で、30度以上となる“真夏日”についても11日間あり、夜になっても気温が下がらず、記録的な猛暑となった。特に8月7日は、札幌の観測史上最高の36.2度となり、記録的冷夏、長雨となった昨年とは対照的な天候であった。その影響で、ビールの消費量もこれまでの最高となり、市民、観光客等はジョッキを片手に、札幌の夏を満喫していた。大通西10丁目では国際フェスティバル実行委員会が、「国際広場—世界のビール」を実施し、4ヶ国5種の樽生ビールと21ヶ国26種の缶ビールを提供した。

○さっぽろバザール（8月13日～8月19日）

参加数81団体（古物商業連合組合32団体を含む）が参加して賑やかに開催された。前半の3日間は、市民の手づくりの品を中心とし、後半の4日間は、札幌古物商業連合組合によるバザールを実施した。期間中は、14日（日）が朝方からの激しい雨で全面的に、また18日（木）が途中で中止となったものの、多くの市民、観光客等で賑わいをみせ、9万人の人出があった。

○北海盆踊り大会（8月13日～8月20日）

18日（木）が雨で早目の終了となったが、毎日猛暑の連続で連日ゆかた姿の人々や勤め帰りの市民、さら

には観光客等が終了時まで幾重にも踊りの輪を練り広げていた。「仮装盆踊り」には、103組、830人の参加者があり、それぞれ工夫を凝らした仮装で、集まった12万人の観客等の目を楽しませた。

○ザッツ人間ワンダーランド（8月13日～8月20日）

「パフォーマンス・ステージ」を展開する参加各グループが、バラエティ・ダンス・サウンドの3部門に分かれて「第3回人間ビジョン大賞」を目指して、その個性を競いあった。

○パワーアイランド（8月13日～8月20日）

大人気のバスケットボール「3 ON 3」や最近注目を集め出した「ローラーホッケー」、親子連れを対象とした「わんぱく広場」など、子どもや若者がスポーツ感覚いっぱい楽しんでいった。

○どんどこ広場（8月13日～8月20日）

パットパットゴルフを楽しむコーナーや「早飲み大会」「太鼓教室」などの参加型イベントの他、「コンサート」や「巨大おりがみ教室」など、多彩な催しが行われた。

○さっぽろ国際フェスティバル（7月21日～8月20日）

期間中、「国際広場—世界のビール」「世界グルメの旅」や「大倉山サウンドフラッシュ'94」が開催されたほか、8月6日には、メイン行事である大群舞「北海盆踊り」「北海道祭・熱響舞夏'94」が駅前通りを中心に実施され、49万5千人の観客を集めた。

○第41回狸まつり（7月29日～8月7日）

恒例の装飾で、狸小路アーケード全体の雰囲気盛り上げ、「ナイトバーゲン」「狸みこし&狸太鼓」など、商店街らしい趣向を凝らした催しが行われた。

○'94定山溪かっぱ祭り（8月1日～2日）

地域住民と観光客が一体となり多彩な行事が練り広げられた。「かっぱ大群舞パレード」「ステージショー」などの行事に多数の観客等が集まり、賑わいをみせていた。また、全国のかっぱ村の村民が集合した「かっぱサミット」やかっぱ祭り30周年を記念して、特別宿泊割引なども行った。

○第30回すすきの祭り（8月4日～6日）

南5条西3丁目駅前通りの特設ステージを中心に、名物の「おいらん道中」や「連合みこし渡御」「ワゴン

セール」など恒例のイベントに加え、30回記念として「30万人参加カラオケ大会」や「富籤抽選会」など、新しい行事を盛り込む多彩なプログラムの編成となり、151万6千人の入出で賑わった。

#### ○第25回もいわ夏まつり（8月6日～7日）

「リサイクルバザー」「子供相撲」「カラオケ大会」「歌謡ショー」などが実施され、地元の人たちで大盛況であった。

#### ■協賛行事

第39回道新納涼ページェント（北海道新聞社）／光と音と花火のタベ／第40回タイムス全国花火大会（北海タイムス社）／'94朝日新聞花火大会（朝日新聞社）／第17回花のさっぽろ駅前まつり／'94uhb杯サマージャンプ大会／第12回札幌市長杯サマージャンプ大会／'94TVhサマーワールド／テレビ塔納涼ビアガーデン

#### ■主な施設

運営本部 西7丁目／会期中の提灯装飾 4,000個／移動トイレ 納涼ガーデン中に4台／その他 西4丁目に「さっぽろ夏まつり」歓迎塔設置、大通西3、4丁目に歓迎アーチ

#### ■推定延観客数（千人、※印：主催者発表）

大通納涼ガーデン 920／さっぽろバザール 90／北海盆踊り大会 220／ザッツ人間ワンダーランド 140／パワーアイランド 50／どんどこ広場80／さっぽろ国際フェスティバル 495／第41回狸まつり 33※／'94定山溪かっぱ祭り 44※／第30回すすきの祭り 1,516※／第25回もいわ夏まつり12※／合計 3,897

## 【第42回】 平成7年（1995）7月21日～8月20日／31日間

#### ■概況

期間中、前半は好天に恵まれたものの、8月に入ると曇りがちで近年になく降雨が続き、各種イベントの実施判断に関係者が苦慮した。しかし、全てのイベントが予定どおり実施され、会場には、多くの市民、観光客等が詰めかけ、最終的には357万1千人の人出となった。連動して開催された「さっぽろ国際フェスティバル」「狸まつり」「定山溪かっぱ祭り」「すすきの祭り」等のイベントも盛大に実施された。

#### ■実施行事

##### ○オープニングセレモニー（7月21日）

大通西8丁目を会場に、約800人の観客等と夏まつりの関係者が一斉に乾杯をし、さっぽろ夏まつりの開幕を祝った。

##### ○福祉協費大通納涼ガーデン（7月21日～8月10日）

会期前半の7月下旬は、夏日が続き好調な入出であったが、8月に入ると気温は高いものの天候不順な空模様となり、会期終了直前には降雨による中止・時間短縮が4日間あった。この影響で、ビールの消費量は記録的な猛暑で過去最高の消費量だった前年には及ばなかったが、市民や観光客は、ジョッキを片手に短い札幌の夏を満喫していた。大通西10丁目では国際フェスティバル実行委員会が、「国際広場―世界のビール」を実施し、4ヶ国5種の樽生ビールと22ヶ国27種の缶ビールを提供し人気を呼んだ。

##### ○さっぽろバザール（8月13日～19日）

前半の3日間は、市民の手づくりの品を中心とし、後半の4日間は札幌古物商業連合組合によるバザール

を実施した。期間中は、18日（金）が雨のため中止となり、人の入り心配されたが、多くの市民、観光客等で賑わいをみせ8万人の人出があった。

##### ○北海盆踊り大会（8月13日～20日）

期間中、18日（金）は雨で中止となったか、ゆかた姿の女性や勤め帰りの市民、観光客外国人等でにぎわった。「仮装盆踊り」には、64組、726人の参加者が、それぞれ工夫を凝らした衣装で、集まった8万人の観客等の目を楽しませた。

##### ○ザッツ人間ワンダーランド（8月13日～20日）

参加者がそれぞれ得意の「パフォーマンス・ステージ」を展開し、バラエティ・ダンス・サウンドの3部門に分かれて「第4回人間ビジョン大賞」を目指して個性を競いあった。

##### ○パワーラウンジ（8月13日～20日）

ステージから流れる心地よいサウンドと、レーザー光線、照明により憩いの空間を演出し、DJのステージやカクテルをテーマとしたクイズが行われた。

##### ○どんどこ広場（8月13日～20日）

ステージ上では「早飲み大会」「ナツメロイントロ選手権」などの参加型イベントの他、「江差追分選手権」や「北海太鼓セッション」など、多彩な催しが行われた。

##### ○さっぽろ国際フェスティバル（7月21日～8月20日）

期間中、「国際広場―世界のビール」「世界グルメの旅」や「大倉山サウンドフラッシュ'95」が開催されたほか、8月5日にはメイン行事である大群舞「北海盆踊り」や「北海道祭・熱響舞夏'95」が駅前通りを中

心に実施され、49万4千人の観客を集めた。

○第42回狸まつり（7月28日～8月6日）

恒例の装飾で、狸小路アーケード全体の雰囲気を盛り上げ、「ナイトバーゲン」「狸みこし渡御」「狸太鼓」など、商店街らしい趣向を凝らした催しが行われた。

○'95定山溪かっぱ祭り（8月1日～2日）

地域住民と観光客が一体となり多彩な行事が繰り広げられた。「かっぱ大群舞」「パークゴルフ大会」「ステージショー」などの行事に多数の観客等が集まり、賑わった。メインストリートには、多数の屋台や出店が並び、祭気分を盛り上げた。

○第31回すすきの祭り（8月3日～5日）

南5条西3丁目駅前通りの特設ステージを中心に、絢爛豪華な「おいらん道中」や道内各地から有名太鼓が集合し繰り広げる「北海祭り太鼓セッション」「ワゴンセール」など多彩なイベントが展開され、会場は149万人の人出で賑わった。

■協賛行事

第26回いわ夏まつり／第40回道新花火大会（北海道新聞社）／第41回タイムス全国花火大会（北海タイムス社）／'95朝日新聞花火大会（朝日新聞社）／第18回花

のさっぽろ駅前まつり／'95uhb杯サマージャンプ大会／第13回札幌市長杯サマージャンプ大会／'95TVhサマーワールド／テレビ塔納涼ビアガーデン

■広報宣伝

大通西4・10丁目に歓迎塔／西4丁目線中央分離帯に電飾の告知看板／西3・4丁目に歓迎アーチ4基を設置／大通西1丁目から10丁目に歓迎フラッグ80枚取付け

■主な施設

運営本部 西7丁目／会期中の提灯装飾 4,000個／移動トイレ 納涼ガーデン中に4台。ゴミ収容庫を設置し、大量に出るゴミが美観を損なわぬよう配慮。防臭対策等にも細心注意。

■推定延観客数（千人、※印：主催者発表）

大通納涼ガーデン 618／さっぽろバザール 80／北海盆踊り大会 180／ザッツ人間ワンダーランド 160／パワーラウンジ 40／どんどこ広場 130／さっぽろ国際フェスティバル 494／第42回狸まつり 330※／'95定山溪かっぱ祭り 49※／第31回すすきの祭り 1,490※／合計 3,571

## 【第43回】平成8年（1996）7月21日～8月20日／31日間

■概況

前半の「大通納涼ガーデン」は、オープン直後は曇天低温が続き出足が鈍っており、8月に入っても晴天に恵まれなく気温も低かったため今ひとつの人出であったが、8月中旬からは天候も持ちなおし、「北海盆踊り」等の後半の行事には連日多くの市民や観光客が詰めかけ、最終的には316万3千人の人出となった。連動して開催された「さっぽろ国際フェスティバル」「狸まつり」「定山溪かっぱ祭り」「すすきの祭り」等のイベントも盛大に実施された。夏まつりの最後を飾る「仮装盆踊り」には、77組、597人が参加し、沿道を埋めた12万人の観客はそれぞれに工夫が凝らされた仮装を楽しんでいた。

■実施行事

○オープニングセレモニー（7月21日）

大通西7丁目を会場に、約500人の観客等と夏まつりの関係者が一斉に乾杯をした。

○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月21日～8月10日）

会期前半の7月下旬は、曇天低温が続き出足が鈍ったが、徐々に気温も上昇して夏日が続く中、29日には真夏日を記録し会場は大勢の人出で賑わった。しかしこの暑さも長続きせず、8月に入ってもなかなか晴天に恵まれなく気温も低く推移したため、今ひとつの人

出であったが、幸い降雨の影響をほとんど受けなかったため、雨天等による中止は1回しかなかった。また猛威を振るった食中毒は、各出店者において衛生管理を一層強化徹底し、事前の未然防止に努めたことから無事行事を終了できた。大通西10丁目では国際フェスティバル実行委員会が「国際広場・世界のビール」を実施し、4ヶ国5種の樽生ビールと20ヶ国24種の缶ビールを提供した。

○さっぽろバザール（8月13日～19日）

期間中は、15日（木）が雨のため午後3時に中止となり、人の入りが心配されたが、多くの市民、観光客等で賑わいをみせ、9万人の人出があった。

○北海盆踊り大会（8月13日～20日）

今回は特に観光客外国人等が多く目立ち、夜更けまで幾重にも踊りの輪を繰り広げていた。夏まつりの最後を飾る「仮装盆踊り」には、77組、597人の参加者があった。

○人間ビジョン大賞（8月13日～20日）

参加者がそれぞれ得意の「パフォーマンス・ステージ」を展開し、バラエティ・ダンス・サウンドの3部門に分かれて「第5回人間ビジョン大賞」を目指して個性を競いあった。

## ○サポーターズパーク (8月13日～20日)

ミニサッカー大会や、コンサドレ札幌の選手によるサッカー教室など多彩な催しが行われ、子ども達に楽しまれていた。

## ○さっぽろ国際フェスティバル (7月21日～8月20日)

期間中、「国際広場・世界のビール」や「世界グルメの旅」が開催されたほか、8月3日には、メイン行事の大群舞「北海盆踊り」「北海道祭・熱響舞夏'96」などで48万4千人の観客を集めた。

## ○第43回狸まつり (7月27日～8月4日)

恒例の装飾で狸小路アーケード全体の雰囲気盛り上げ、「ナイトバーゲン」「狸みこし渡御」「狸太鼓」などの催しが行われた。

## ○定山溪温泉開湯130年記念かっぱ祭り (8月1日～2日)

定山溪温泉開湯130年を記念し、「かっぱ大群舞とよさこいソーラン踊り」「定山溪カラオケグランプリ大会」など、記念行事に多数の観客等が集まり、地域住民と観光客が一体となり賑わいをみせていた。また「温泉の日・130円チャリティー入浴」として、8月1・2日を温泉の日と定め、抽選により130円で入浴でき好評であった。

## ○第32回すすきの祭り (8月1日～3日)

南5条西3丁目通りの特設ステージを中心に、絢爛豪華な「おいらん道中」や道内各地から有名太鼓が集合して「北海祭り太鼓セッション」や「ワゴンセール」など恒例の行事も大盛況だった。

## ■協賛行事

第41回道新花火大会 (北海道新聞社) / 第42回タイムス全国花火大会 (北海タイムス社) / '96朝日新聞・HTB花火大会 (朝日新聞社) / '96UHB杯サマーチャンプ大会 / 第14回札幌市長杯サマーチャンプ大会 / '96TVhサマーワールド / テレビ塔納涼ビアガーデン / 第19回花のさっぽろ駅前まつり / 第27回もいわ夏まつり / 第3回ストリート・サッカー in SAPPORO'96

## ■広報宣伝

大通西4・10丁目に歓迎塔 / 西4丁目線中央分離帯に電飾の告知看板 / 西3・4丁目に歓迎アーチ4基設置 / 西1丁目から10丁目に歓迎フラッグ80枚取り付け

## ■主な施設

運営本部 西7丁目 / 会期中の提灯装飾 4,000個 / 移動トイレ 納涼ガーデン中に4台。ゴミ収容庫を設置し、大量に出るゴミが美観を損なわぬよう配慮。防臭対策等にも細心注意。

## ■推定延観客数 (千人、※印：主催者発表)

大通納涼ガーデン 566 / さっぽろバザール90 / 北海盆踊り大会 227 / 人間ビジョン大賞 160 / サポーターズパーク 120 / さっぽろ国際フェスティバル 484 / 第43回狸まつり 300※ / '96定山溪かっぱ祭り 26※ / 第32回すすきの祭り 1,190※ / 合計3,163

## [第44回] 平成9年 (1997) 7月21日～8月20日 / 31日間

## ■概況

30度を超える真夏日が会期初日から連続6日間続き、初日5日間のビール消費量は、記録的な猛暑だった平成6年 (1994) も上回ったが、8月に入ると曇りがちで雨のため1日、大通納涼ガーデンが中止となった。しかし後半は全てのイベントが予定どおり実施され、会場には多くの市民、観光客が詰めかけ、最終的には245万人の人出となった。

また期間中さっぽろ夏まつりと連動して開催された「さっぽろ国際フェスティバル」「狸まつり」「定山溪かっぱ祭り」「すすきの祭り」等のイベントも盛大に実施された。

「仮装盆踊り」には73組、560人が参加し、沿道を埋めた15万人の観客は、それぞれに工夫を凝らした仮装を楽しんでいた。

## ■実修行事

## ○オープニングセレモニー (7月22日)

大通西6丁目を会場に、約800人の観客と夏まつりの関係者が一斉に乾杯をし、開幕を祝った。

## ○福祉協賛大通納涼ガーデン (7月21日～8月10日)

前半の7月下旬は、真夏日が続く好調な出足であったが、8月に入ると曇りがちな空模様となり、雨による中止が1日あった。しかし当初の好調な天気の影響で、ビール消費量は前年の2割増となり、市民や観光客は、ジョッキを片手に短い札幌の夏を溝喫していた。西10丁目では国際フェスティバル実行委員会が、「国際広場・世界のビール」を実施し、4ヶ国5種の樽生ビールと、18ヶ国22種の缶ビールを提供した。

## ○さっぽろバザール (8月13日～19日)

期間中はまずまずの天気が続き、中止が1日もなく、多くの市民、観光客で賑わいをみせ、11万人の人出があった。

## ○北海盆踊り大会 (8月13日～20日)

期間中、ゆかた姿の女性や勤め帰りの市民、観光客や外国人が、夜更けまで幾重もの踊りの輪を繰り広げていた。16日(土)には、「子供盆踊りスペシャル」として、ステージでキャラクターショーが行われた。「仮装盆踊り」には73組、560人の参加者が工夫を凝らした衣装でユーモアたっぷりに踊り、観客の目を楽しませた。

## ○サウンドストリート'97 (8月16日～8月20日)

北海道を拠点に活躍を続けるプロ・アマミュージシャンが集まり、大通りを渡る夏の風に吹かれながら野外ステージを築しんだ。

## ○さっぽろ国際フェスティバル (7月21日～8月20日)

期間中、「国際広場・世界のビール」「世界グルメの旅」が開催されたほか、8月9日にはメイン行事である大群舞「北海盆踊り」「北海道祭・熱響舞夏'97」が実施され、31万人の観客を集めた。

## ○第44回狸まつり (8月2日～10日)

恒例の装飾で、狸小路アーケード全体の雰囲気盛り上げ「ナイトバーゲン」「狸みこし」「狸太鼓」などが行われた。

## ○第33回定山溪かっぱ祭り (8月1日～2日)

「かっぱ大群舞」「ステージショー」などの行事に多くの観客等が集まり、メインストリートには多数の屋台や出店が並び、祭気分を盛り上げた。

## ○第33回すすきの祭り (8月7日～9日)

南5条西3丁目駅前通りの特設ステージを中心に「おいらん道中」や、道内各地から有名太鼓が集合して繰

り広げる「北海祭り太鼓セッション」「連合神輿渡御」「ワゴンセール」など多彩なイベントが展開され、60万人の人出で賑わった。

## ■協賛行事

'97道新・UHB花火大会(北海道新聞社・UHB)／第43回タイムス全国花火大会(北海タイムス社)／'97朝日新聞・HTB花火大会(朝日新聞社・HTB)／'97UHB杯サマージャンプ大会／第15回札幌市長杯サマージャンプ大会／'97TVhサマーワールド／テレビ塔納涼ビアガーデン／第20回花のさっぽろ駅前まつり／第28回もいわ夏まつり／第4回ストリート・サッカー in SAPPORO '97

## ■広報宣伝

大通西4・10丁目に歓迎塔／西4丁目線中央分離帯に電飾の告知看板／西3・4丁目に歓迎アーチ4基を設置／西1丁目から10丁目に歓迎フラッグ80枚取付け

## ■主な施設

運営本部 西7丁目／会期中の提灯装飾 4,000個／移動トイレ 納涼ガーデン中に4台。ゴミ収容庫を設置し、大量に出るゴミが美観を損なわぬよう配慮。防臭対策等にも細心注意。

## ■推定延観客数(千人、※印：主催者発表)

大通納涼ガーデン 678／さっぽろバザール 105／北海盆踊り大会 230／サウンドストリート'97 150／さっぽろ国際フェスティバル 310／第44回狸まつり 350  
※／第33回定山溪かっぱ祭り 28／第33回すすきの祭り 600／合計 2,451

## [第45回] 平成10年(1998)7月21日～8月20日／31日間

## ■概況

初日から25度を超える夏日が連続7日間続くなど天候に恵まれたことや、北海道地ビール連絡協議会が新たに新店し、話題性を提供したことなどで、前半の大通納涼ガーデンは連日大勢の人出で賑わった。また、後半は、雨天のため全面中止になった1日を除くと全てのイベントが予定どおり実施され、会場には多くの市民、観光客が詰めかけ、最終的には259万人の人出となった。

また期間中、さっぽろ夏まつりと連動して開催された「さっぽろ国際フェスティバル」「狸まつり」「定山溪かっぱまつり」「すすきの祭り」等のイベントも盛大に実施された。

さらに、さっぽろ夏まつりの最後を飾る「仮装盆踊り」には70組、487人が参加した。

## ■実施工事

## ○オープニングセレモニー (7月21日)

大通西5丁目を会場に、約1千人の観客と夏まつりの関係者が一斉に乾杯をし夏まつりの開幕を祝った。

## ○福祉協賛大通納涼ガーデン (7月21日～8月10日)

前半の7月下旬は夏日が続き好調な出足だった。8月に入ると曇りがちな空模様が多くなったが、中止はなく順調であった。最初の好調な天気の影響と北海道地ビール連絡協議会の参加で、ビールの消費量は前年より8.4%増え、最近の7年間の中では、猛暑だった平成6年(1994)に次ぐ276,489ℓを記録した。大通西10丁目では国際フェスティバル実行委員会が、「国際広場・世界のビール」を実施し、4ヶ国5種の樽生ビールと21ヶ国23種の缶ビールを提供した。

## ○さっぽろバザール (8月13日～19日)

期間中は、雨で中止になった1日を除くとまずまずの天気続き、9万人の人出があった。

## ○北海盆踊り大会 (8月13日～20日)

期間中、ゆかた姿の女性や勤め帰りの市民、さらには観光客や外国人が夜更けまで幾重もの踊りの輪を繰り広げていた。夏まつりの最後を飾る「仮装盆踊り」には、70組、487人の参加者が、ユーモアあふれる踊りや工夫を凝らした衣装で踊りを披露した。

## ○サウンドストリート'98 (8月13日～16日)

北海道のプロ・アマミュージシャンによる野外ステージが行われた。

## ○さっぽろ国際フェスティバル (7月21日～8月20日)

期間中は「国際広場・世界のビール」「世界グルメの旅」が開催されたほか、8月8日には、メイン行事である大群舞「北海盆踊り」「北海道祭・熱響舞夏'98」が駅前通りを中心に実施され、天候にも恵まれ45万人の観客を集めた。

## ○第45回狸まつり (8月2日～10日)

「ナイトバーゲン」「ふるさとまつり'98」「狸みこし」や「狸太鼓」など、商店街らしい催しが行われた。

## ○第34回定山溪かっぱ祭り (8月1日～2日)

「森と湖のつどいin定山溪」や「第1回札幌定山溪豊平峡の森トレイルフェスティバル '98」などが開催され、地域住民や観光客が美しい白然の中で楽しんだ。温泉街ではコンサートや花火大会が実施されて祭気分を盛り上げた。

## ○第34回すすきの祭り (8月6日～8日)

「おいらん道中」や、道内各地から有名太鼓が集合し繰り広げる「北海祭り太鼓セッション」「連合神輿渡御」「ワゴンセール」など多彩なイベントが展開され、96万人の人出で賑わった。

## ■協賛行事

'98道新・UHB花火大会 (北海道新聞社・UHB) / '98朝日新聞・HTB花火大会 (朝日新聞社・HTB) / '98UHB杯サマージャンプ大会 / 第16回札幌市長杯サマージャンプ大会 / '98TVhサマーワールド / テレビ塔納涼ビアガーデン / 第21回花のさっぽろ駅前まつり / 第29回もいわ夏まつり / 第5回ストリート・サッカー in SAPPORO'98

## ■広報宣伝

## ○ポスター・リーフレット・地下鉄などポスター

ポスター1,000枚、リーフレット30,000枚、地下鉄等ポスター1,100枚を作成し、広く市民や観光客に夏まつりをPRした。

## ○歓迎塔・歓迎アーチなど

会期前から、大通西4・10丁目に歓迎塔、西4丁目線中央一分離帯に電飾告知看板、西3・4丁目に歓迎塔アーチ4基を設置して夏まつりの周知に努めた。会期中は、大通西1丁目から大通西11丁目に、日中の会場装飾として歓迎フラッグ84枚を取り付け。夜用には3,415個の提灯を設置した。

## ○ホームページの開設

新しくインターネット上にホームページを開設し、全国へ向けて夏まつりの情報を発信した。(アクセス件数1,332件・平成10年11月2日)

## ■主な施設

運営本部 西7丁目 / 移動トイレ 納涼ガーデン中に4台。ゴミ収容庫を設置し、大量に出るゴミが美観を損なわぬよう配慮。防臭対策等にも細心注意。

## ■推定延観客数 (千人、※印：主催者発表)

大通納涼ガーデン 736 / さっぽろバザール 90 / 北海盆踊り大会 190 / サウンドストリート'98 135 / さっぽろ国際フェスティバル 450 / 第45回狸まつり (主催者未発表) / 第34回定山溪かっぱ祭り 30※ / 第34回すすきの祭り 960※ / 合計 2,591

## [第46回] 平成11年 (1999) 7月21日～8月20日 / 31日間

## ■概況

会期中は、気温30度以上の真夏日が10日間、25度以上の夏日が20日間を数えるなど最高の天候に恵まれ、大通公園で開催された納涼ガーデンは、連日大勢の観客で賑わった。

後半の北海盆踊り大会、さっぽろバザールとも好天のもと予定どおり実施され、多くの市民、観光客が詰めかけた。

連動して開催された「さっぽろ国際フェスティバル」「狸まつり」「定山溪かっぱまつり」「すすきの祭り」等のイベントも盛大に実施された。さっぽろ夏まつりの最後を飾る「北海盆踊り大会仮装コンクール」には、70組601人が参加し、沿道を埋めた8万人の観客も仮装を楽しんでいた。

夏まつり全体としての人出は最終的に226万5千人となった。

## ■実施行事

### ○オープニングセレモニー（7月21日）

大通西8丁目を会場に、約1,000人の観客と夏まつりの関係者が一斉に乾杯をし、さっぽろ夏まつりの開幕を祝った。

### ○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月21日～8月10日）

会期中を通して例年になく暑い日が続いたため、予想を上回る人出となり、各会場とも大いに賑わった。全会場のビールの消費量は前年を18.6%上回る327,935ℓとなり歴代2位の記録であった。2回日の参加となった大通西11丁目の地ビールは、さらに豊富な種類を揃えて観光客等の人気を集めた。大通西10丁目では国際フェスティバル実行委員会が、「国際広場・世界のビール」を実施し、外国の樽生ビールや料理を提供して女性客等に人気を博していた。

### ○さっぽろバザール（8月13日～19日）

「さっぽろバザール」も25回を数え、広く市民等に定着。期間中は10万人の人出で賑わった。

### ○北海盆踊り大会（8月13日～20日）

例年同様に子ども盆踊りを実施し、期間中は、ゆかた姿の女性や勤め帰りの市民、観光客や外国人が夜更けまで幾重もの踊りの輪を繰り返していた。「仮装コンクール」には、70組601人の参加者があった。

### ○'99さっぽろ国際フェスティバル

7月21日～8月20日（31日間）

期間中、「国際広場・世界のビール」「世界グルメの旅」が開催されたほか、8月7日には、メイン行事である大群舞「北海盆踊り」「北海道祭・熱響舞夏'99」が駅前通りを練り歩き、45万人の観客を集めた。

### ○第46回狸まつり（7月31日～8月7日）

恒例の装飾で狸小路アーケード全体の雰囲気盛り上げ、「ナイトバーゲン」「ふるさとまつり '99」「狸みこし」などの催しが行われた。

### ○第35回記念定山溪かっぱまつり（8月1日～2日）

8月1日は雨天のため途中で中止となったが、2日は好天のもと盛大に実施された。35回目を記念し、新かっぱ音頭による大群舞が披露され、また夜間には楽しいステージイベントや花火大会が行われ、訪れた市民、観光客は温泉街の情緒ある祭りを堪能していた。

### ○第35回すすきの祭り（8月5日～7日）

南5条西3丁目駅前通りの特設ステージを中心に、「花魁道中」や道内各地から有名太鼓が集合し繰り広げる「北海祭り太鼓セッション」「連合みこし渡御」「ワゴンセール」など多彩なイベントが展開され、会場は62万人の人出で賑わった。

## ■協賛行事

'99道新・UHB花火大会（北海道新聞社・UHB）／第1回読売花火大会（読売新聞社）／'99朝日新聞・HTB花火大会（朝日新聞社・HTB）／'99UHB杯サマージャンプ大会／第17回札幌市長杯サマージャンプ大会／'99TVhサマーワールド／テレビ塔納涼ビアガーデン／第22回花のさっぽろ駅前まつり／第30回もいわ夏まつり／さっぽろ夏まつりフットサル大会

## ■広報宣伝

### ○ポスター・リーフレット・地下鉄等ポスター

ポスター1,000枚、リーフレット30,000枚、地下鉄等ポスター1,100枚を作成し、広く市民や観光客に夏まつりをPRした。

### ○歓迎塔・歓迎アーチなど

会大通西4・10丁目に歓迎塔を、西3・4丁目に歓迎アーチ4基を設置し、夏まつりの周知に努めた。会期中は、西1丁目から西11丁目に日中の会場装飾として歓迎フラッグ84枚を取り付け、夜用に3,415個の提灯を設置した。

### ○ホームページの開設

昨年から開設したインターネット上のホームページを更新し、全国へ向けて第46回さっぽろ夏まつりの情報を発信した。（アクセス件数4,986件・平成11年11月29日）

## ■主な施設

運営本部 西7丁目／移動トイレ 納涼ガーデン中に4台。新しく西6・8丁目に仮設水洗トイレも設置した。ゴミ収容庫を設置し、大量に出るゴミが美観を損なわぬよう配慮。防臭対策等にも細心注意。

## ■推定延観客数（千人、※印：主催者発表）

大通納涼ガーデン 869／さっぽろバザール 100／北海盆踊り大会 210／さっぽろ国際フェスティバル 450／第46回狸まつり（主催者未発表）／第35回記念定山溪かっぱまつり 16※／第35回すすきの祭り 620※／合計 2,265

## [第47回] 平成12年(2000)7月21日～8月20日/31日間

### ■概況

前半は、気温30度以上の真夏日が4日間、25度以上の夏日が14日間を数えるなど天候に恵まれ、大通公園で開催された納涼ガーデンは連日大勢の観客で賑わった。

後半の北海盆踊り大会、さっぽろバザールとも好天のもと予定どおり実施され、多くの市民、観光客が詰めかけた。

連動して開催された「さっぽろ国際フェスティバル」「狸まつり」「定山溪かっぱまつり」「すすきの祭り」等のイベントも盛大に実施された。「北海盆踊り大会仮装コンクール」には74組612人が参加し、沿道を埋めた9万人の観客は、それぞれに工夫が凝らされた仮装を楽しんでいた。

夏まつり全体としての人出は最終的に230万4千人となった。

また今回の夏まつりは、6月の「YOSAKOIソーラン祭り」で起きた爆発事件を踏まえて、運営各社の協力のもとで各会場内の警備を強化し、すべての行事を無事に終了させることができた。

### ■実施行事

#### ○オープニングセレモニー(7月21日)

大通西7丁目を会場に約1,000人の観客と夏まつりの関係者が一斉に乾杯をし、さっぽろ夏まつりの開幕を祝った。

#### ○福祉協賛大通納涼ガーデン(7月21日～8月10日)

前半は停滞する前線の影響で豪雨に見舞われて一部中止となる日もあったが、7月の終わりから8月にかけての好天で人出が伸び、会場は大勢の人で賑わった。

#### ○さっぽろバザール(8月13日～19日)

前半の3日間は市民の手づくり品、後半の4日間は札幌古物商業連合組合によるバザールを実施。期間中は11万人の人出で賑わった。

#### ○北海盆踊り大会(8月13日～20日)

ゆかた姿の女性や勤め帰りの市民、さらには観光客や外国人が、夜更けまで幾重もの踊りの輪を繰り広げていた。「仮装コンクール」には、74組612人の参加者が踊りを繰り広げ、9万人の観客を楽しませた。

#### ○第14回さっぽろ国際フェスティバル(7月21日～8月20日)

「国際広場・世界のビール」、「世界グルメの旅」、また5年振りに復活した「大倉山サウンドフラッシュ」が開催されたほか、8月5日にはメイン行事である大群舞「北海盆踊り」「神輿連合渡御」「北の鼓童札幌熱響太鼓」「阿波踊り」が「北海道祭・熱響舞夏2000」と

題して、駅前通りを中心に実施され、47万1千人の観客を集めた。

#### ○第47回狸まつり(7月21日～8月20日)

夏まつり期間に合わせて開催することとなった。「ナイトバーゲン」「ふるさとまつり2000」「狸みこし」など、商店街らしい催しが行われた。

#### ○第36回定山溪かっぱまつり(8月1日～2日)

両日とも天候に恵まれ、各行事とも盛大に実施された。前年、35回目を記念して作られた「新かっぱ音頭」を定山溪小学校の児童たちがステージ前で踊ったり、「湯けむり太鼓競演」では地元定山溪を始め、道内各地の太鼓が参加して迫力ある演奏を披露した。

#### ○第36回すすきの祭り(8月3日～5日)

南5条西3丁目駅前通の特設ステージを中心に、「花魁道中」や、道内各地から有名太鼓が集合し繰り広げる「北海祭り太鼓セッション」「連合みこし渡御」「ワゴンセール」など多彩なイベントが展開され、64万人の人出で賑わった。

### ■協賛行事

道新・UHB花火大会(北海道新聞社・UHB)/2000読売花火大会(読売新聞社)/第21回'00朝日新聞・HTB花火大会(朝日新聞社・HTB)/第1回札幌市長杯大倉山サマージャンプ大会/UHB杯サマージャンプ大会/第18回札幌市長杯宮の森サマージャンプ大会/TVhサマージャンプ大会/さっぽろテレビ塔サマースクエア2000/第23回花のさっぽろ駅前まつり/第31回もいわ夏まつり/さっぽろ夏まつりフットサル大会

### ■広報宣伝

#### ○ポスター・リーフレット・地下鉄等ポスター

ポスター1,000枚、リーフレット30,000枚、地下鉄等ポスター1,100枚を作成し、広く市民や観光客に夏まつりをPRした。

#### ○歓迎塔・歓迎アーチなど

会期前から、大通西4・10丁目に歓迎塔を、西3・4丁目に歓迎アーチ4基を設置し、夏まつりの周知に努めた。会期中は、大通西1丁目から大通西11丁目に、会場装飾として歓迎フラッグ84枚を取り付け、夜には3,415個の提灯がとまり、まつりの雰囲気盛り上げた。

#### ○ホームページデータの更新

2年前から開設したインターネットホームページのデータを更新し、全国へ向けて第47回さっぽろ夏まつりの情報を発信した。(アクセス件数4,331件・平成12年11月15日現在)

## ■施設

運営本部 西7丁目／ 納涼ガーデン中に西6・8丁目に仮設水洗トイレを設置。ゴミ収容庫を設置し、大量に出るゴミが美観を損なわぬよう配慮。防臭対策等にも細心注意。

## ■推定延観客数（千人、※印：主催者発表）

大通納涼ガーデン 831／さっぽろバザール 110／北海道盆踊り大会 230／さっぽろ国際フェスティバル 471／第47回狸まつり（主催者未発表）／第36回定山溪かっぱまつり 22※／第36回すすきの祭り 640※／合計 2,304

## [第48回] 平成13年（2001）7月21日～8月20日／31日間

### ■概況

会期の前半は気温30度以上の真夏日が無く、25度以上の夏日も11日間と天候に恵まれず、大通公園で開催された納涼ガーデンは、消費量、観客数共に前年を下回った。

後半の「北海道盆踊り大会」「さっぽろバザール」はともに好天のもと予定どおり実施され、多くの市民、観光客が詰めかけた。

連動して開催された「さっぽろ国際フェスティバル」「狸まつり」「定山溪かっぱまつり」「すすきの祭り」等のイベントも盛大に実施された。「北海道盆踊り大会仮装コンクール」には、55組508人が参加し、沿道を埋めた6万3千人の観客は、それぞれに工夫が凝らされた仮装を楽しんでいた。

夏まつり全体としての人出は最終的に209万3千人となった。

### ■実施行事

#### ○オープニングセレモニー（7月21日）

大通西6丁目を会場に、約1,000人の観客と夏まつりの関係者が一斉に乾杯をし、さっぽろ夏まつりの開幕を祝った。

#### ○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月21日～8月10日）

会期を通してはっきりしない天気と低温が続いたことにより、ビールの消費量は前年を15.4%下回る265,589ℓ、観客数も前回を14.1%下回る71万4千人という結果となった。

#### ○さっぽろバザール（8月13日～19日）

27回日の実施となり、期間中は11万人の人出で賑わった。

#### ○北海道盆踊り大会（8月13日～20日）

期間中、ゆかた姿の女性や勤め帰りの市民などが夜更けまで幾重もの踊りの輪を繰り広げていた。また19日（日）には、恒例の「仮装コンクール」が開催され、55組508人の参加者が、ユーモアあふれる踊りや工夫を凝らした衣装で、集まった6万3千人の観客の目を楽しませた。

#### ○第15回さっぽろ国際フェスティバル（7月21日～8月20日）

期間中、「国際広場・世界のビール」「世界グルメの旅」が開催されたほか、8月4日には、メイン行事である大群舞「北海道祭・熱響舞夏2001」が実施され、天候にも恵まれて48万3千人の観客を集めた。

#### ○第48回狸まつり（7月21日～8月20日）

「ナイトバーゲン」「ふるさとまつり2001」「狸みこし」などの催しが行われた。

#### ○第37回定山溪かっぱまつり（8月1日～2日）

まつりの安全祈願と開催を祝う「修祓式」で幕を開け、定山溪小学校の鼓隊がパレードを行い、「湯けむり太鼓競演」では地元定山溪を始め道内各地の太鼓が参加し、迫力ある演奏を披露した。

#### ○第37回すすきの祭り（8月2日～4日）

特設ステージを中心に、絢爛豪華な「花魁道中」や、道内各地から有名太鼓が集合し繰り広げる「北海道太鼓セッション」「連合神輿渡御」「ワゴンセール」など多彩なイベントが展開され、会場は60万人の人出で賑わった。

### ■協賛行事

道新・UHB花火大会（北海道新聞社・UHB）／2001読売花火大会（読売新聞社）／第22回'01朝日新聞・HTB花火大会（朝日新聞社・HTB）／第2回札幌市長杯大倉山サマージャンプ大会／UHB杯サマージャンプ大会／第19回札幌市長杯宮の森サマージャンプ大会／TVhサマージャンプ大会／さっぽろテレビ塔サマースクエア2001／第24回花のさっぽろ駅前まつり／第32回もいわ夏まつり／さっぽろ夏まつりフットサル大会／ファッション元気主義イン札幌

### ■広報宣伝

#### ○ポスター・リーフレット・地下鉄等ポスター

ポスター1,000枚、リーフレット30,000枚、地下鉄等ポスター880枚を作成し、広く市民や観光客に夏まつりをPRした。

#### ○歓迎塔・歓迎アーチなど

会期前から、大通西4・10丁目に歓迎塔を、西3・4丁目に歓迎アーチ4基を設置し、夏まつりの周知に努

めた。会期中は公園内に、会場装飾として歓迎フラッグを取り付け、夜用に2,937個の提灯を設置した。

#### ○ホームページデータの更新

3年前から開設したインターネットホームページのデータを更新し、全国へ向けて第48回さっぽろ夏まつりの情報を発信した。

#### ■主な施設

運営本部 西7丁目／「大通納涼ガーデン」開催中は、西5～8・10丁日に仮設水洗トイレを設置。ゴミ収容庫を

設置し、大量に出るゴミが美観を損なわぬよう配慮。防臭対策等にも細心注意。

#### ■推定延観客数（千人、※印：主催者発表）

大通納涼ガーデン 714／さっぽろバザール 100／北海盆踊り大会 172／さっぽろ国際フェスティバル 483／第48回狸まつり（主催者未発表）／第37回定山溪かっぱまつり 24※／第37回すすきの祭り 600※／合計 2,093

## 【第49回】平成14年（2002）7月22日～8月20日／30日間

#### ■概況

会期が1日短い30日間で夏まつりが開催された。

会期の前半は、気温30度以上の真夏日が1日、25度以上の夏日も12日間と天候に恵まれず、大通公園で開催された納涼ガーデンは、消費量、観客数共に前年を下回った。

後半の「北海盆踊り大会」「さっぽろバザール」もともに天候には恵まれなかったが、市民、観光客が詰めかけ、短い夏を楽しんだ。

連動して開催された「狸まつり」「定山溪かっぱまつり」「すすきの祭り」等のイベントも盛大に実施。「北海盆踊り」の目玉である「ザ・パレード～大群舞・仮装コンクール」には合わせて、107チーム2,775人が参加し、沿道を埋めた6万8千人の観客は、大群舞やそれぞれに工夫が凝らされた仮装を楽しんでいた。

夏まつり全体としての人出は最終的に161万3千人となった。

#### ■実施行事

##### ○オープニングセレモニー（7月22日）

大通西5丁目を会場に、約1,000人の観客と夏まつりの関係者が一斉に乾杯をし、さっぽろ夏まつりの開幕を祝った。

##### ○福祉協賛大通納涼ガーデン（7月22日～8月11日）

会期をとおして、はっきりしない天気と低温が続き、ビールの消費量は前回は3.6%下回る256,007ℓ、観客数も前回は5.9%下回る67万2千人という結果となった。

##### ○さっぽろバザール（8月14日～20日）

前半、後半合わせ期間中は8万5千人の人出で賑わった。

##### ○北海盆踊り大会（8月14日～20日）

ゆかた姿の女性や勤め帰りの市民、観光客や外国人が参加して踊りを楽しんだ。17日（土）には、新規行事である「ザ・パレード～大群舞・仮装コンクール」

を実施。これは、前年まで実施されていた「さっぽろ国際フェスティバル」の「熱響舞夏」でおなじみの「大群舞・北海盆踊り」と従来からの「仮装コンクール」を同じ日に実施するという試みであったが、合わせて107チーム2,775人が参加し、沿道を埋めた6万8千人の観客の日を楽しませた。

##### ○第49回狸まつり（7月22日～8月20日）

恒例の装飾で狸小路アーケード全体の雰囲気盛り上げ、「ナイトバーゲン」「ふるさとまつり2002」「狸みこし」などが行われた。

##### ○第38回定山溪かっぱまつり（8月3日～4日）

まつりの安全祈願と開催を祝う「修祓式」で幕を開け、定山溪小学校の鼓隊がパレードを実施。「湯けむり太鼓競演」では地元定山溪や道内各地の太鼓が参加し、迫力ある演奏を披露するなど、訪れた市民や観光客は、温泉街の情緒あるまつりを堪能していた。

##### ○第38回すすきの祭り（8月1日～3日）

特設ステージを中心に「花魁道中」や「連合神輿渡御」「ワゴンセール」など多彩なイベントが展開され、会場は70万人の人出で賑わった。

#### ■協賛行事

道新・UHB花火大会（北海道新聞社・UHB）／2002読売花火大会（読売新聞社）／第23回2002朝日新聞・HTB花火大会（朝日新聞社・HTB）／第3回札幌市長杯大倉山サマージャンプ大会／UHB杯サマージャンプ大会／第20回札幌市長杯宮の森サマージャンプ大会／TVhサマージャンプ大会／さっぽろテレビ塔サマースクエア2002／第25回花のさっぽろ駅前まつり／第33回もいわ夏まつり／さっぽろ夏まつりフットサル大会

#### ■広報宣伝

##### ○ポスター・リーフレット・地下鉄等ポスター

ポスター1,000枚、リーフレット30,000部、地下鉄等ポスター880枚を作成。

## ○歓迎塔・歓迎アーチなど

会期前から大通西4・10丁目に歓迎塔を、西3・4丁目に歓迎アーチ4基を設置し、夏まつりの周知に努めた。会期中は、公園内に会場装飾として歓迎フラッグを取付け、夜用に2,889個の提灯を設置した。

## ○ホームページデータの更新

インターネットホームページのデータを更新し、全国へ向けて第49回さっぽろ夏まつりの情報を発信した。

## ■主な施設

運営本部 西6丁目／「大通納涼ガーデン」開催中は、西5～8・10丁目に仮設水洗トイレを設置。ゴミ収容庫を

設置し、大量に出るゴミが美観を損なわぬよう配慮。防臭対策等にも細心注意。また、札幌市が「ISO14001」を取得したことで、さっぽろ夏まつり実行委員会にも協力の要請があったことから、各会場においても省エネやごみの削減に努めた。

## ■推定延観客数（千人、※印：主催者発表）

大通納涼ガーデン 672／さっぽろバザール 85／北海盆踊り大会 127／第49回狸まつり（主催者未発表）／第38回定山溪かっぱまつり 25※／第38回すすきの祭り 704※／合計 1,613

## [第50回] 平成15年（2003）7月22日～8月20日／30日間

## ■開催行事

- 福祉協賛大通納涼ガーデン（7月22日～8月11日）
- さっぽろバザール（8月14日～20日）
- 北海盆踊り（8月14日～20日）
- 第50回狸まつり（7月22日～8月11日）
- 第39回定山溪かっぱまつり（8月2日～3日）
- 第39回すすきの祭り（8月7日～9日）

## ■広報宣伝

- ポスター
- 歓迎アーチ等会場装飾物の設置
- 広報誌「さっぽろ」掲載
- 報道機関による広報宣伝
- インターネット・ホームページでの情報提供

## ■協賛行事

道新・UHB花火大会（北海道新聞社・UHB）／2003読売花火大会（読売新聞社）／第24回2003朝日新聞・HTB花火大会（朝日新聞社・HTB）／第4回札幌市長杯大倉山サマージャンプ大会／UHB杯サマージャンプ大会／第21回札幌市長杯宮の森サマージャンプ大会／TVhサマージャンプ大会／さっぽろテレビ塔サマースクエア2003／第26回花のさっぽろ駅前まつり／第34回もいわ夏まつり／さっぽろ夏まつりフットサル大会

## ■さっぽろ夏まつり50回記念事業

50年を記念して、市民や観光客に積極的にPRするとともに、記念誌の製作を行う。



## 年 譜

	札幌市のおもなできごと	北海道・国内外のおもなできごと
昭和29年 (1954)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回夏まつり開催 [7月17日－8月17日]</li> <li>・札幌の人口、370,951人</li> <li>・世界スピードスケート選手権大会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進駐軍本道撤退、自衛隊が駐屯</li> <li>・天皇・皇后両陛下本道ご旅行</li> <li>・台風15号で洞爺丸転覆、死者7,400人。岩内町大火</li> <li>・円単位以下の小銭廃止</li> <li>・ビキニ水爆実験で第5福竜丸被災</li> <li>・防衛庁、自衛隊発足</li> </ul>
昭和30年 (1955)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回夏まつり開催 [8月4日－17日]</li> <li>・琴似町・札幌村・篠路村と合併</li> <li>・この年から狸まつり参加</li> <li>・札幌市に道内初のし尿処理場完成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全道に集中豪雨</li> <li>・赤平茂尻炭鉱ガス爆発、死者60人</li> <li>・初のアルミ貨(1円)発行</li> <li>・広島で第1回原水禁世界大会開く</li> <li>・神武景気はじまる</li> </ul>
昭和31年 (1956)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回夏まつり開催 [8月4日－20日]</li> <li>・札幌－小樽間電話即時通話化</li> <li>・NHK札幌放送局が、テレビ放送開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北日本空港、道内に航空路開設</li> <li>・冷害により被害甚大</li> <li>・売春防止法案、参院可決成立</li> <li>・石橋湛山内閣成立</li> <li>・日本、国連に加盟</li> <li>・NHKカラーテレビ実験放送はじまる</li> </ul>
昭和32年 (1957)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回夏まつり開催 [8月7日－16日]</li> <li>・HBC、テレビ本放送開始</li> <li>・札幌テレビ塔完成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南極に昭和基地建設</li> <li>・大雪国道39号線開通</li> <li>・米国防長官、駐日米地上軍の撤兵計画について言明</li> <li>・東海村で原子炉の火入れ行われる</li> <li>・ソ連、人工衛星スプートニク打ち上げ成功</li> </ul>
昭和33年 (1958)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回夏まつり開催 [8月7日－10日]</li> <li>・藻岩山観光道路、藻岩山ロープウェイ営業開始</li> <li>・北海道大博覧会開催</li> <li>・市民会館新館開館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皇太子殿下ご来道</li> <li>・世界初の海底「関門トンネル」開通</li> <li>・正田美智子さん、皇太子妃に決定</li> <li>・一万円札新登場</li> </ul>
昭和34年 (1959)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回夏まつり開催 [8月1日－9日]</li> <li>・ポートランド市と姉妹都市提携調印</li> <li>・第1回さっぽろライラックまつり開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千歳空港、米軍から全面的に返還</li> <li>・メートル法、国民健康保険法実施</li> <li>・皇太子殿下御成婚</li> <li>・個人タクシー営業許可</li> </ul>
昭和35年 (1960)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第7回夏まつり開催 [8月1日－8日]</li> <li>・札幌市重要事業10カ年計画実施に着手</li> <li>・仲よし子ども館開設</li> <li>・市民の投票により札幌の花(スズラン)、木(ライラック)、鳥(カッコウ)を決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフルエンザ蔓延</li> <li>・第一回スズラン祭り開催</li> <li>・夕張を中心に小児マヒ多発</li> <li>・新安保条約可決。安保騒動、国会周辺にデモ隊一万人が集まり国会空白状態となる</li> <li>・カラーTVの本放送開始</li> </ul>
昭和36年 (1961)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回夏まつり開催 [8月1日－8日]</li> <li>・豊平町と合併</li> <li>・札幌市民交響楽団(現札幌交響楽団)結成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天皇・皇后両陛下下植樹祭にご来道</li> <li>・北海道初の特急、函館－旭川間運行</li> <li>・農業基本法公布</li> </ul>

	札幌市のおもなできごと	北海道・国内外のおもなできごと
昭和37年 (1962)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第9回夏まつり開催 [8月4日-13日]</li> <li>・交通安全都市宣言を行う</li> <li>・衛生試験所（現衛生研究所）設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道物価問題協議会発足</li> <li>・台風9、10号全道を襲う</li> <li>・常盤線三河島駅の二重衝突で死者160人、負傷者225人の大惨事</li> <li>・石炭産業合理化政策すすむ</li> <li>・サリドマイド睡眠薬の販売停止</li> </ul>
昭和38年 (1963)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第10回夏まつり開催 [8月3日-17日]</li> <li>・市民憲章制定</li> <li>・道路緊急整備3カ年計画事業に着手</li> <li>・札幌の人口、705,315人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青函海底トンネル調査坑着工</li> <li>・第二期北海道総合開発計画発足</li> <li>・村越吉展ちゃん誘かい事件</li> <li>・日本初の原子力発電に成功</li> <li>・国電鶴見事故で死者161人</li> <li>・ケネディ大統領、テキサス州ダラスで暗殺される</li> </ul>
昭和39年 (1964)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第11回夏まつり開催 [8月7日-12日]</li> <li>・豊平館が重要文化財に指定</li> <li>・市内小・中学校にミルク給食を開始</li> <li>・市民の歌、市旗制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道教育委員会、教頭制を実施</li> <li>・オリンピック招致委員会発足</li> <li>・オリンピック1000円銀貨発行</li> <li>・新潟大地震で死者25人</li> <li>・第18回オリンピック東京大会開催、94カ国、5,500人が参加</li> </ul>
昭和40年 (1965)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第12回夏まつり開催 [8月6日-12日]</li> <li>・札幌市建設6年計画着手</li> <li>・社会福祉センター開館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室蘭港でマンモスタンカー炎上</li> <li>・戦後初の樺太墓参行われる</li> <li>・函館本線小樽-旭川間電化工事起工</li> <li>・朝永振一郎教授ノーベル物理学賞受賞</li> <li>・東海道新幹線、東京-新大阪間を3時間10分で走る</li> <li>・アメリカ軍、ベトナム北爆開始</li> </ul>
昭和41年 (1966)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第13回夏まつり開催 [8月6日-12日]</li> <li>・市立図書館、中央体育館新築開館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学区制による公立高校入試実施</li> <li>・全日空ボーイング727型、羽田沖に墜落133人死亡</li> <li>・ミニスカート、ブーツ大流行</li> <li>・中国で文化大革命起こる</li> </ul>
昭和42年 (1967)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第14回夏まつり開催 [8月5日-12日]</li> <li>・第11回冬季オリンピック大会の札幌開催決定</li> <li>・手稲町と合併</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道章、道旗、道民の歌さまる</li> <li>・金山ダム完成</li> <li>・道立美術館開館</li> <li>・初の建国記念日の催し実施される</li> <li>・自動車保有台数百万突破</li> <li>・ヨーロッパ共同体（EU）成立</li> </ul>
昭和43年 (1968)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第15回夏まつり開催 [8月3日-20日]</li> <li>・札幌市創建百年、記念行事開催</li> <li>・北海道大博覧会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本初の心臓移植手術、札幌医大和田教授により行われる</li> <li>・北海道百年記念祝典</li> <li>・米アポロ8号、人類初の月周囲飛行</li> <li>・小笠原諸島日本復帰</li> <li>・川端康成ノーベル文学賞授与決定</li> <li>・東京府中で警官を装った男3億円を奪う</li> </ul>

	札幌市のおもなできごと	北海道・国内外のおもなできごと
昭和44年 (1969)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第16回夏まつり開催 [8月2日-20日]</li> <li>・定山溪鉄道営業廃止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方領土復帰全国大会を札幌で開催</li> <li>・北海道消費者センター開設</li> <li>・定山溪新国道(国道230号)開通</li> <li>・大学紛争各地で起こる</li> <li>・アメリカの月宇宙船アポロ11号、人類初の月着陸に成功</li> </ul>
昭和45年 (1970)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第17回夏まつり開催 [8月1日-20日]</li> <li>・時計台が重要文化財に指定</li> <li>・人口100万人突破(1,010,123人)</li> <li>・大倉山ジャンプ競技場完成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道公害対策本部設置</li> <li>・北海道百年記念塔を完成</li> <li>・日航『よど号』赤軍派学生に乗っ取られる</li> <li>・日本で万国博覧会を開催</li> <li>・三島由紀夫クーデターに失敗し自殺</li> </ul>
昭和46年 (1971)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第18回夏まつり開催 [8月1日-20日]</li> <li>・地下鉄南北線(北24条~真駒内間)開通</li> <li>・札幌地下街オープン</li> <li>・市役所新庁舎完成</li> <li>・70歳老人医療費無料化実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島町で青函トンネル本工事の起工式.</li> <li>・東亜国内航空『ばんだい号』七飯町で墜落、76人全員が死亡</li> <li>・戦後最大の冷害</li> <li>・アメリカ、ドル防衛策を発表(ドルショック)</li> </ul>
昭和47年 (1972)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第19回夏まつり開催 [7月29日-8月20日]</li> <li>・第11回冬季オリンピック大会開催</li> <li>・政令指定都市へ移行し、7区役所開設</li> <li>・ミュンヘン市と姉妹都市提携調印</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第11回冬季オリンピック札幌大会開幕</li> <li>・連合赤軍、浅間山荘事件おこる</li> <li>・沖縄施政権返還、沖縄県発足</li> <li>・田中通産相、日本列島改造論を発表</li> </ul>
昭和48年 (1973)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第20回夏まつり開催 [8月4日-20日]</li> <li>・札幌市資料館オープン</li> <li>・豊平峡ダム完成</li> <li>・小樽市の一部編入</li> <li>・札幌の人口、1,152,377人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団かぜ、全道にまん延</li> <li>・北電伊達火力発電所、強行着工</li> <li>・トイレットペーパー、砂糖、洗剤などの買い占め騒動おこる</li> <li>・政府、石油緊急事態で宣言</li> <li>・アメリカ・ウオーターゲート事件発生</li> </ul>
昭和49年 (1974)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第21回夏まつり開催 [8月3日-20日]</li> <li>・丘珠獅子舞を札幌市無形文化財に指定</li> <li>・豊平保健所完成により1区1保健所実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道自然環境等保全条例施行</li> <li>・石油ショックによる狂乱物価加速</li> <li>・『田中金脈』問題おこる</li> <li>・フィリピン・ルバング島で小野田寛郎元陸軍少尉救出</li> <li>・インド初の地下核実験</li> </ul>
昭和50年 (1975)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第22回夏まつり開催 [7月26日-8月20日]</li> <li>・身障者福祉モデル都市指定</li> <li>・70歳以上老人の市電・市バス無料制実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千歳から駐留米軍完全撤退</li> <li>・道警本部庁舎内で時限爆弾爆発</li> <li>・SL列車、103年の歴史を閉じる</li> <li>・ベトナム戦争終わる</li> </ul>
昭和51年 (1976)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第23回夏まつり開催 [7月24日-8月20日]</li> <li>・新札幌市長期総合計画策定(平成7年目標)</li> <li>・地下鉄東西線(琴似~白石間)開通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道庁1階ロビーで時限爆弾爆発</li> <li>・ソ連空軍戦闘機ミグ25が函館空港に強行着陸</li> <li>・ロッキード事件で田中首相逮捕</li> </ul>
昭和52年 (1977)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第24回夏まつり開催 [7月20日-8月20日]</li> <li>・札幌市消費者センター開設</li> <li>・「さっぽろ文庫」第1巻発刊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道の幌加内町母子里で、零下42.1度を記録</li> <li>・道立近代美術館開館</li> <li>・有珠山爆発、降灰と泥流による被害甚大</li> <li>・ソ連200カイリ漁業専管水域実施</li> <li>・日本赤軍ボンベイで日航機をハイジャック</li> </ul>

	札幌市のおもなできごと	北海道・国内外のおもなできごと
昭和53年 (1978)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第25回夏まつり開催 [7月26日-8月20日]</li> <li>・身体障害者福祉センター開設</li> <li>・地下鉄南北線(北24条~麻生間)開通</li> <li>・札幌市創建110年記念行事開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中平和友好条約調印</li> <li>・伊豆でM7の大地震、死者24人</li> <li>・成田空港、過激派に襲われ開港延期、5月に開港</li> <li>・宮城でM7・5の大地震、死者27人、負傷者1万人</li> <li>・世界初の体外受精児が英国で誕生</li> </ul>
昭和54年 (1979)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第26回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・緑のセンター開設</li> <li>・25年ぶりに豊平川にサケ遡上</li> <li>・神戸市の人口を抜く(全国第6番目の大都市に)</li> <li>・札幌の人口、1,367,124人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道環境アセスメント条例施行</li> <li>・第2次オイルショック</li> <li>・台風20号日本列島を縦断、死者・行方不明38人、負傷者247人</li> <li>・米中国交回復</li> </ul>
昭和55年 (1980)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第27回夏まつり開催 [7月26日-8月20日]</li> <li>・藩陽市と友好都市提携調印</li> <li>・冬のスポーツ博物館開館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大平正芳首相急逝、異例の衆参同時選挙実施</li> <li>・婦女子宮利誘かい殺人事件、保険金詐取殺人事件など一連の凶悪犯罪頻発</li> <li>・イラン・イラク戦争</li> </ul>
昭和56年 (1981)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第28回夏まつり開催 [7月25日-8月20日]</li> <li>・青少年科学館、婦人文化センター、老人福祉センターオープン</li> <li>・都市景観委員会発足</li> <li>・中央区民センターがオープンし、全区に区民センター設置完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低温、豪雨の大被害185市町村に及ぶ</li> <li>・北炭夕張新鉱、ガス突出事故で死者・行方不明者92人</li> <li>・福井謙一教授ノーベル化学賞受賞</li> <li>・三和銀行、近畿相互銀行、仙台、八戸信用金庫などでオンライン犯罪続発</li> <li>・エジプトのサダト大統領暗殺される</li> </ul>
昭和57年 (1982)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第29回夏まつり開催 [7月23日-8月20日]</li> <li>・区制施行10周年</li> <li>・北方都市会議(第1回)開催</li> <li>・地下鉄東西線(白石~新さっぽろ)間開通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浦河で震度6の烈震、重軽傷者168人、家屋損壊247戸</li> <li>・ホテルニュージャパンの火災で死者32人、負傷者34人</li> <li>・日航機東京湾に墜落、死者24人、重軽傷者150人</li> <li>・上越新幹線開業</li> <li>・フォークランド諸島事件</li> </ul>
昭和58年 (1983)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第30回夏まつり開催 [7月23日-8月20日]</li> <li>・北海道開拓の村オープン</li> <li>・京都市の人口を抜く(全国第5番目の大都市)</li> <li>・百が原公園開園</li> <li>・札幌の人口、1,493,367人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青函トンネル先進導坑貫通</li> <li>・老人保健法施行</li> <li>・日本海中部地震</li> <li>・テレビ「おしん」大ブーム</li> <li>・大韓航空機墜撃事件</li> </ul>
昭和59年 (1984)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第31回夏まつり開催 [7月23日-8月20日]</li> <li>・札幌国際見本市(第1回)開催</li> <li>・豊平川さけ科学館オープン</li> <li>・人口150万人突破</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道内稲作作況指数が114で6年ぶりの豊作</li> <li>・全斗煥韓国大統領来日</li> <li>・江崎グリコ社長誘拐事件</li> <li>・インドのガンジー首相暗殺される</li> </ul>
昭和60年 (1985)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第32回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・札幌市スノーピア計画策定</li> <li>・上・下水道料金オンライン化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青函トンネル本坑が開通</li> <li>・日本電信電話株式会社、日本たばこ産業株式会社発足</li> <li>・科学万博つくば'85開幕</li> <li>・メキシコ大地震</li> </ul>
昭和61年 (1986)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第33回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・第1回アジア冬季競技大会開催</li> <li>・'86さっぽろ花と緑の博覧会開催</li> <li>・札幌芸術の森一部オープン</li> <li>・札幌市テクノパーク完成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩見沢で北海道21世紀博開催</li> <li>・東京サミット開催</li> <li>・60歳定年法成立</li> <li>・英国皇太子夫妻来日、ダイアナフィーバー</li> <li>・ソ連、チェルノブイリ原発事故発生</li> </ul>

	札幌市のおもなできごと	北海道・国内外のおもなできごと
昭和62年 (1987)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第34回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・スパイクタイヤ使用規制条例制定</li> <li>・全国高校総体開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・釧路湿原が国立公園に指定される</li> <li>・ツールド北海道始まる</li> <li>・国鉄分割、JRグループ発足</li> <li>・日米半導体摩擦</li> <li>・退子市の米軍住宅問題</li> <li>・ソ連、ペレストロイカ始まる</li> </ul>
昭和63年 (1988)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第35回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・札幌市創建120年</li> <li>・鉄道高架開通 地下鉄東豊線（栄町～豊水すすきの間）開通</li> <li>・こども劇場やまびこ座オープン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青函トンネル開業</li> <li>・十勝岳噴火</li> <li>・北電泊原発一号機初発電</li> <li>・リクルート事件</li> <li>・イラン・イラク戦争終結</li> </ul>
平成元年 (1989)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第36回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・白石、西区の分区により9区体制</li> <li>・第44回国民体育大会（はまなす国体）開催</li> <li>・札幌市社会福祉総合センターオープン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税スタート</li> <li>・ふるさと銀河線開業</li> <li>・昭和天皇崩御、昭和から平成へ</li> <li>・北京、天安門事件発生</li> </ul>
平成2年 (1990)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第37回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・第2回アジア冬季競技大会開催</li> <li>・定山溪ダム供用開始</li> <li>・ノボシビルスク市と姉妹都市提携調印</li> <li>・PMF（パシフィック・ミュージック・フェスティバル）（第1回）開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新千歳～グアム・サイパン一発機就航</li> <li>・国際花と緑の博覧会、大阪で開催</li> <li>・株価暴落</li> <li>・湾岸戦争始まる</li> <li>・東西ドイツ統一</li> </ul>
平成3年 (1991)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第38回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・札幌ユニバーシアード冬季競技大会開催</li> <li>・新中央図書館・埋蔵文化財センター開館</li> <li>・ミュンヘン大橋開通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウトナイ湖がラムサール条約に登録される</li> <li>・雲仙普賢岳で火砕流</li> <li>・バブル景気崩壊</li> <li>・ソ連共産党解体</li> </ul>
平成4年 (1992)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第39回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・札幌市平和都市宣言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YOSAKOIソーラン祭り始まる</li> <li>・日本人宇宙飛行士毛利衛さん（余市出身）を乗せたシャトル打ち上げ成功</li> <li>・学校週休2日制スタート</li> <li>・PKO協力法成立</li> <li>・アルペールビル冬季五輪</li> </ul>
平成5年 (1993)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第40回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・「さっぽろ・ダイエット・プラン」スタート</li> <li>・札幌市中央健康づくりセンターオープン</li> <li>・札幌の人口、1,728,466人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道南西沖地震</li> <li>・プロ野球にFA制導入</li> <li>・皇太子殿下ご成婚</li> <li>・Jリーグ開幕</li> </ul>
平成6年 (1994)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第41回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・「高齢者保健福祉計画」スタート</li> <li>・地下鉄東豊線（豊水すすきの～福住間）開通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道東方沖地震発生</li> <li>・女性宇宙飛行士・向井千秋さん、スペースシャトルに搭乗</li> <li>・大江健三郎、ノーベル文学賞受賞</li> <li>・コメ不足で外国米緊急輸入へ</li> </ul>
平成7年 (1995)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第42回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・「さとらんど」オープン</li> <li>・芸術の森アートホールオープン</li> <li>・市立札幌病院移転新築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空知炭鉱、105年の歴史に幕</li> <li>・ユニバーシアード福岡大会</li> <li>・阪神淡路大震災発生</li> <li>・地下鉄サリン事件発生</li> <li>・米大リーグ・ドジャース野茂投手新人王に</li> </ul>

	札幌市のおもなできごと	北海道・国内外のおもなできごと
平成8年 (1996)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第43回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・第5回全国知的障害者スポーツ大会「ゆうあいピック北海道大会」開催</li> <li>・「コンサドーレ札幌」誕生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道豊浜トンネル崩落事故</li> <li>・駒ヶ岳が54年ぶりに噴火</li> <li>・原爆ドーム世界遺産に指定</li> <li>・病原性大腸菌O157で患者6000人超す</li> <li>・国連、包括的核実験禁止条約採択</li> </ul>
平成9年 (1997)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第44回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・豊平区の分区により10区制へ移行</li> <li>・札幌コンサートホール (Kitara) オープン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくぎん経営破たん、北洋銀行に経営譲渡</li> <li>・米空母インディペンデンスが小樽港入港</li> <li>・消費税率5%に引き上げ</li> <li>・神戸須磨区連続通り魔殺人事件発生、中学生の少年逮捕</li> <li>・ロシア船籍タンカー・ナホトカ号が島根県隠岐島沖で沈没し、重油流出</li> </ul>
平成10年 (1998)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第45回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・札幌市創建130年</li> <li>・定山溪自然の村オープン</li> <li>・資源物収集の開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアドゥ初就航</li> <li>・そごうデパート倒産</li> <li>・冬季オリンピック長野大会開催</li> <li>・中国で大洪水、超大型ハリケーン中米諸国を襲う</li> </ul>
平成11年 (1999)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第46回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・地下鉄東西線 (琴似～宮の沢間) 開通</li> <li>・川下公園オープン</li> <li>・八剣山トンネル開通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三浦綾子さん死去</li> <li>・全日空機ハイジャックで機長刺殺。新千歳空港に緊張</li> <li>・茨城県東海村JOC事業所で放射能漏れ事故発生。作業員被爆し死亡</li> <li>・世界の人口60億人突破</li> </ul>
平成12年 (2000)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第47回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・札幌駅南口広場完成</li> <li>・ウィンタースポーツミュージアム、生涯学習総合センターオープン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有珠山噴火</li> <li>・九州・沖縄サミット開催</li> <li>・三宅島噴火</li> <li>・オリンピックシドニー大会</li> </ul>
平成13年 (2001)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第48回夏まつり開催 [7月21日-8月20日]</li> <li>・札幌ドーム「HIROBA」オープン</li> <li>・縁の保全と創出に関する条例制定</li> <li>・市全庁でISO14001認証取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空自衛隊戦闘機が高松射撃場で訓練中に誤射、北広島市のリハビリ施設が被弾</li> <li>・小泉内閣成立</li> <li>・皇太子妃、女兒愛子様ご出産</li> <li>・ニューヨーク、ワールドトレードセンタービルがテロ攻撃による飛行機衝突で崩落</li> </ul>
平成14年 (2002)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第49回夏まつり開催 [7月22日-8月20日]</li> <li>・札幌市産業振興センター、札幌市市民情報センターオープン</li> <li>・2002年第6回DPI世界会議・札幌大会開催</li> <li>・2002年FIFAワールドカップ札幌開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪印食品の牛肉偽装表示事件発覚、会社解散</li> <li>・鈴木宗男議員、逮捕・収監される</li> <li>・ピョンヤンで初の日朝首脳会議、金正日将軍、拉致の実事を認め謝罪</li> <li>・拉致被害者5人が北朝鮮から帰国</li> <li>・小柴昌俊さん、田中耕一さん、ノーベル賞受賞</li> </ul>
平成15年 (2003)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第50回夏まつり開催 [7月22日-8月20日]</li> <li>・札幌コンベンションセンター オープン</li> <li>・札幌の人口、1,860,083人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道知事に初の女性知事・高橋はるみ氏</li> <li>・ブリヂストン栃木工場で大火災発生</li> <li>・米英軍、イラクに空爆。フセイン政権崩壊</li> <li>・2003十勝沖地震発生</li> </ul>

## 第50回 さっぽろ夏まつり実行委員会委員名簿

(順不同・敬称略)

<p>会 長 薩 一 夫 札幌観光協会会長</p> <p>副会長 萩 原 次 郎 札幌観光協会副会長</p> <p>〃 向 井 慎 一 札幌商工会議所専務理事</p> <p>〃 柴 田 薫 心 札幌市議会観光議員連盟会長</p> <p>〃 波 田 正 明 札幌市経済局長</p> <p>〃 石 水 勲 札幌観光協会副会長</p> <p>〃 鈴 木 俊 雄 札幌観光協会副会長</p> <p>委 員 相 蘇 恒 孝 札幌観光協会企画宣伝副委員長</p> <p>〃 齋 藤 光 夫 札幌観光協会企画宣伝副委員長</p> <p>〃 古 川 善 雄 定山溪観光協会会長(定山溪かっぱ祭り実行委員会)</p> <p>〃 榊 原 満 北海道放送テレビ営業局業務部長</p> <p>〃 小 林 達 典 札幌テレビ放送ラジオ局次長</p> <p>〃 徳 永 修 文 北海道文化放送事業局事業部長</p> <p>〃 五ノ井 敬 二 北海道テレビ放送営業局次長</p> <p>〃 植 村 由規夫 テレビ北海道営業局長</p>	<p>委 員 土 屋 徹 サッポロビール(株)北海道本社代表兼専務札幌支社長</p> <p>〃 武 田 充 広 アサヒビール(株)北海道支社理事支社長</p> <p>〃 浜 本 剛 志 サントリー(株)北海道支社長</p> <p>〃 武 藤 繁 キリンビール(株)北海道地区本部長</p> <p>〃 水 元 尚 也 北海道地ビール連絡協議会会長</p> <p>〃 高 野 保 男 北海道コカ・コーラボトリング(株)札幌南営業所長</p> <p>〃 松 宮 恒 夫 札幌市環境局緑化推進部長</p> <p>〃 山 本 裕 樹 札幌青年会議所理事長</p> <p>〃 竹 内 宏 二 札幌狸小路商店街振興組合理事長</p> <p>〃 山 口 善 弘 すすきの祭り実行委員会実行委員長</p> <p>〃 渡 邊 恵 札幌市経済局観光コンベンション部長</p> <p>事務局長 岩 間 英 雄 札幌観光協会専務理事</p> <p>監 事 中 易 愛 子 札幌市女性団体連絡協議会会長</p> <p>〃 赤 井 征 男 北海道百貨店協会事務局長</p>
--	---

平成15年6月1日現在

### さっぽろ夏まつり実行委員会規約

(設 置)

第1条 さっぽろ夏まつり事業に関する基本計画の立案、これに基づく諸行事の円滑な運営を図るため、さっぽろ夏まつり実行委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(事 務 所)

第2条 委員会は、事務所を、社団法人札幌観光協会内(札幌市中央区北1条西2丁目)に置く。

(委 員)

第3条 委員会の委員は、主催者が委嘱する委員をもって組織する。

(委員の任期)

第4条 委員会の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠により選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員構成)

第5条 委員会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1 名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 監 事 2 名

(役員選出)

第6条 会長、副会長及び監事は、委員の互選による。

(役員職務)

第7条 会長は、委員会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

3 監事は、委員会の業務を監査する。

(名誉会長、顧問及び相談役)

第8条 委員会に名誉会長、顧問及び相談役を置くことができる。

2 名誉会長、顧問及び相談役は、会長が委嘱する。

3 名誉会長、顧問及び相談役は、会長の諮問に応じて、意見を述べるものとする。

(事務局等)

第9条 委員会の事務を処理するため、事務局を置き、事務局長その他の必要な職員を置く。

2 事務局長は、委員のうちから会長が指名する。

3 事務局長以外の職員は、会長が任免する。

(経 費)

第10条 委員会の事務執行に要する経費は、補助金、負担金、協賛金その他の収入をもって充てるものとする。

(会 計 年 度)

第11条 委員会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

(事業計画及び予算)

第12条 委員会の毎年度の事業計画及び予算は、会長がその案を作成し、委員会の議決を経て定めなければならない。

(会 議)

第13条 委員会は、会長が招集する。

2 委員会の議長は、会長がこれに当たる。

(運営委員会)

第14条 委員会の目的を達成するため運営委員会を置く。

2 運営委員会は、委員の一部をもって構成し、運営委員会に属すべき委員は、会長が指名する。

3 運営委員会の会務を総理するため委員長1名を置き、委員長は、会長がこれを指名する。

(委 任)

第15条 この規約に定めるもののほか、委員会の組織及び運営について必要な事項は、会長が定める。

付 則

1 この規約は、平成10年5月26日から施行する。

# さっぽろ夏まつり50年

## － 編集後記 －

---

「さっぽろ夏まつり50年」の発刊にあたり、資料収集などご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

本誌は、50年にわたるさっぽろ夏まつりの歴史を資料と当時の写真で振り返っております。特集では、前札幌市長のインタビューや実行委員会事務局OBの方々にお集まりいただいた座談会など、内容も充実したものにまとめることができました。編集にご協力いただきました皆様には改めまして心から感謝申し上げます。

本誌は、50年を綴る資料として制作いたしましたが、半世紀にわたるさっぽろ夏まつりの歴史を、皆様にお伝えする一助となることも願うとともに、引き続き市民の皆様にあいさつされ、親しまれるまつりとなるよう、事務局一同、一層努力することを誓い感謝の言葉とさせていただきます。

さっぽろ夏まつり実行委員会 事務局長 岩間 英雄

---

## さっぽろ夏まつり50年

---

発行日：平成15年11月

発行：さっぽろ夏まつり実行委員会  
札幌市中央区北1条西2丁目 電話 (011) 211-2376

---

協力：ほっかいどう観光百景  
スタジオYOU

制作・印刷：株式会社ブリプレス・センター

夏